

---

# 多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

---

2017年6月17日（土） 13時00分～17時10分

東京外国語大学 研究講義棟419号室 語学研究所

東京外国語大学 国際日本研究センター-国際日本語教育部門主催



プログラム

■ 13：00～14:30 「中国語からみた日本語のアスペクト複合動詞」

「日本語・中国語の複合動詞対照研究」 望月圭子、申亜敏（東外大）

「中国語からみた日本語複合動詞<～あがる/～あげる>」 張 正（東外大 博士後期課程）

「中国語からみた日本語複合動詞<～だす>」 範 航宇（東外大 博士前期課程）

「中国語からみた日本語複合動詞<～きる>」 劉 倩卿（東外大 博士前期課程）

■ 14：40～16：10 「韓国語・ベトナム語・ポーランド語・英語からみた日本語のアスペクト複合動詞」

韓国語からみた日本語複合動詞<～あがる/～あげる>」 崔 正熙（東外大 博士後期課程）

「ベトナム語からみた日本語複合動詞<～あがる/～あげる>」 ファム・ティ・タイン・タオ（東外大 博士前期課程）

「ポーランド語からみた日本語複合動詞<～あがる/～あげる>」 クリコフ・アガタ（東外大 博士後期課程）

「英語からみた日本語複合動詞<～あがる/～あげる>」 ローレンス・ニューベリーペイトン（東外大 博士後期課程）

■ 16：20～17：10 「日本語のアスペクト複合動詞の特徴」

「本動詞<抜く>からアスペクトを表す複合動詞<V-抜く>への派生」 片山晴一（東外大 博士後期課程）

「日本語教育におけるアスペクト複合動詞」 小柳 昇（東外大）



〈論文〉

## 英語・中国語からみた日本語の無界性：複合動詞と空間認知

望月圭子（東京外国語大学）・申亜敏（早稲田大学）

キーワード：複合動詞、空間表現の語彙、英語・中国語対照、非個体化性、無界性、学習者誤用コーパス

### 1. はじめに

本論では、複合動詞・空間表現の語彙に焦点をあて、英語・中国語との対照を通し、統語構造と複合動詞形成の相関性、事象構造、語彙的アスペクト、認知意味論、第二言語習得の視点から、日本語の語彙の特性を論じる。

2節では、日本語の「動詞+動詞」型複合動詞を、同様に「動詞+動詞/形容詞」型複合動詞の体系が非常に豊富な中国語と比較する。日本語と中国語の複合動詞においては、「統語構造が複合動詞の語構造に反映される」という普遍性がみられる。その一方、句構造の主要部が右にある日本語では「目的語節+動詞」補文型複合動詞が卓越しているのに対し、動詞句の主要部が右にある中国語では、「動詞+結果述語」構造があり、結果複合動詞が卓越しているという相違がある。

さらに、3節では、アスペクトを表す複合動詞(e.g. 始動相：～かける/かかる、～だす、～始める/始まる、継続：～続ける/続く、完了：～終わる/終わる、～上げる/上がる、～尽くす、～きる、～通す、～抜く)については、中国語においても、アスペクトを表す複合動詞が存在するものの、日本語と異なり、完結相を表す場合に限って複合動詞化可能という特徴がある。このため、中国語を母語にする日本語学習者にとっては、始動相の「～かける/かかる」、「～だす」の習得がむずかしい。日本語の複合動詞が「非完結性」をも表しうるという現象は、統語的に主要部が右にあり、「目的語節+動詞」補文型複合動詞が卓越しているという形態統語論的な要因に加え、日本語の「無界性」(unboundedness)という特性、即ち影山(2002)のいう「ケジメのない日本語」という特性とも関連している。

4節では、空間表現について、英語・中国語の対照から日本語の空間表現を考察する。日本語母語話者による英語作文コーパス<sup>1</sup>にみられる誤用をみると、前置詞“in”の過剰使用が卓越しているが、これはON(平面上)やAT(点)という認知に基づく表現が、日本語の語彙には、英語・中国語に比べて少ないことに起因すると推測される。

英語では、前置詞“in/on/at”が、明確な空間認知の相違に基づいて用いられる。一方、日本語の場所表現は、述語の義務項か随意項かといった項構造との関係で選択される格助詞「に」「で」が用いられ、IN(内部構造)、ON(平面上)、AT(点、ひとまとまり性)といった空間認知の区別によるものではない。

日本語においては、「～内(うち、～ナイ)」「～中(なか、～チュウ)」「奥」といった、境界や個体の輪郭が曖昧な空間認識表現が卓越しているのである。また、複合動詞「～こむ」も、「技を磨きこむ」「強い精神を鍛えこむ」「オリンピックを前に泳ぎこむ」等の例は、英語や中国語では、「一生懸命」「必死に」「何度も何度も」というような翻訳になるが、「抽象的なもの」(精神性に関わるもの)の「抽象的空間」(日本語における心理的な‘ウチ’の領域)への移動を表す用法ともとれる。こうした心理的な‘ウチ’の領域には、IN(内部構造)、ON(平面上)、AT(点、ひとまとまり性)といった明確な空間認知の区別はなく、その内部構造は、「無界的」である。こうした日本語の特性が、英語の習得においても“on/at”を使うべきところ、最も広い空間認知的意味をもつ“in”を過剰使用してしまう要因ではないかと推測される。

日本語の「無界的認知」は、日本語母語話者による中国語学習者コーパスで観察される顕著な誤用類型にもみられる。例えば、中国語において、<一+類別詞>は名詞の前につき、名詞を個体化する機能をもつが、日本語母語話者の場合、<一+類別詞>をつけるべきところに、英語母語話者に比べ、顕著に「欠如」がみられる。英語母語話者の場合、英語に冠詞a/theや、「限定詞」(determiner)と呼ばれる統語範疇が存在することが要因と推測される「過剰使用」が顕著である。こうした日本語対英語母語話者による中国語学習者コーパスにみられる誤用タイプの対照から

も、日本語の「非個体化」性、「無界性」が浮き彫りになる。

複合動詞、空間認知、個体化といったキーワードから日本語を英語・中国語と対照してみると、そこにはいずれも、日本語の語彙における時空間における「無界性」が浮かびあがってくる。

## 2. 中国語からみた日本語の複合動詞

日本語の複合動詞の研究として、日本語学・日本語教育の分野においては、吉沢(1952)、寺村(1984)、山本(1984)、姫野(1999)、斎藤(2004)、石井(2007)等が代表的な論考として挙げられ、多くの詳細な論考がある。

また、一般言語理論の枠組みにおける日本語の複合動詞研究として、影山(1993)、Matusmoto(1996)、松本(1998)、由本(2005)、影山(2013)が代表的なものとして挙げられる。こうした一般言語理論を用いた研究の焦点は、「動詞+動詞」型複合動詞が、語彙部門または統語部門のどちらで形成されるのか、どのような項構造をもつ動詞の組み合わせからなるのか、どのような「語彙概念構造」(Lexical Conceptual Structure)から形成されるのか、前項動詞と後項動詞からどのように項構造を受け継ぐのか、複合動詞形成がどのような統語構造の反映なのか、という点であった。

本章では、日本語の特質を中国語の複合動詞との対照から分析する便宜上、一般言語理論の枠組みにおける先行研究を紹介し、同じ理論的枠組みで中国語の複合動詞との対照を試みる。

### 2.1 日本語の統語的複合動詞と語彙的複合動詞

影山(1993:74-97)では、日本語の複合動詞は、その統語的振る舞いの相違により、統語的複合動詞と語彙的複合動詞との二種類あり、(1)のように区別されるとしている。

#### (1) 日本語における二種類の複合動詞

##### a. 統語的複合動詞

払い終える、話し終える、しゃべり続ける、食べすぎる、食べそこなう、助け合う、動き出す、食べかける、しゃべりまくる、走りぬく、数え直す、見なれる、登りきる、やりつける

##### b. 語彙的複合動詞

飛び上がる、押し開く、泣き叫ぶ、売り払う、受け継ぐ、解き放つ、飛び込む、(隣の人に)話しかける、こびり付く、飲み歩く、歩き回る、踏み荒らす、誉め讃える、語り明かす、聞き返す、震え上がる、呆れ返る、持ち去る

さらに、日本語の複合動詞の形態統語論上の制約として、影山(1993:117)は、語彙的複合動詞は、項構造レベルで複合が起こるため、前項動詞 V1 と後項動詞 V2 の複合制約があり、この制約を「他動性調和の法則」(Transitivity Harmony Principle)として提示している。

#### (2) 「他動性調和の法則」(Transitivity Harmony Principle)

日本語の語彙的複合動詞は、原則として、外項をもつか否かの基準により、外項をもつ動詞(他動詞・非能格動詞)か、外項を持たない動詞(非対格動詞)の間での複合しかおこらない。

「語彙的複合動詞」とは、一言で言えば、V1 と V2 の間に如何なる統語的操作(挿入・置換・複合動詞の一部分のみとの照応関係・重複という操作等)も適用されない、語彙部門で形成される複合動詞である。「他動性調和の法則」の原則に従えば、日本語の語彙的複合動詞は、以下の(3)のような動詞の組み合わせからなる。

#### (3) 外項をもつ「他動詞 / 非能格動詞」の間の組み合わせ

##### a. 他動詞 + 他動詞

洗い落とす、ぬぐい落とす、切り落とす、切り倒す、叩き落とす、吹き消す、思い起こす、突き崩す、押し潰す、射止める、追い散らす

b. 他動詞 + 非能格動詞

探し回る、買いまわる、嘆き暮らす、待ち暮らす、待ち構える

c. 非能格動詞 + 他動詞

泣き落とす、競り落とす

d. 非能格動詞 + 非能格動詞

言い寄る、這い寄る、駆け寄る、飛び降りる、駆け下りる

中国語の複合動詞の典型は、日本語では非文法的となる「他動詞 + 非対格動詞」の組み合わせである。こうした日本語と中国語の相違点は、日本語の複合動詞の複合には、形態統語論上の制限が強く働いているのに対し、中国語の複合動詞の複合においては、「他動性調和の法則」のような形態統語論的な制限が働かないことを示唆する。つまり、日本語では、自動詞・他動詞の形態的区別及び主格・対格の形態的標識があるため、動詞の組み合わせにヴォイスに関わる形態統語論上の制限が強く働く。一方、孤立語的な中国語では、自動詞・他動詞の形態的区別も、主格・対格の形態的標識もなく、動詞の組み合わせがヴォイス上の制限を受けず、意味構造をそのまま反映した複合動詞が形成されるのである。

日本語の複合動詞の形成には、他動性調和の原則に加えて、由本(1996)、松本(1998)が提示する「主語一致の原則」も関与する。松本(1998:72)によれば、主語一致の原則は、以下のように定義される。

(4)「主語（卓立項）一致の原則」

二つの動詞の複合においては、二つの動詞の意味構造の中で最も卓立性の高い参与者（通例、主語として実現する意味的項）どうしが同一物を指さなければならない。

中国語の複合動詞形成と対照すると、「他動性調和の法則」も「主語一致の原則」も、主格・対格及び自動詞・他動詞が形態的に区別される日本語の原則であり、孤立語である中国語では、主格・対格も、自動詞・他動詞もいずれも形態的には区別されないので、こうした形態統語的制約は働かない。

2.2 日本語の二種類の補文関係の複合動詞：語彙的複合動詞と統語的複合動詞

影山(1993:74-97)の議論を要約すると、語彙的複合動詞と統語的複合動詞との区別は、以下の表1のような意味的・統語的対比に基づく。

表1 日本語の統語的複合動詞と語彙的複合動詞（影山(1993:74-97)を筆者が要約）

	統語的複合動詞	語彙的複合動詞
	～終える、～続ける、～すぎる、～出す、～直す、～なれる、～きる	飛び上がる、押し開く、泣き叫ぶ、受け継ぐ、解き放つ、飛び込む
I . V1V2の 意味関係	・透明かつ合成的 ・V1がV2の目的語節の動詞となるような補文関係をなす	・意味の不透明化や語彙化 ・種々雑多な意味関係
II . 生産性	・語彙的な結合制限（他動性調和の原則）を受けない。	・語彙的な結合制限（他動性調和の原則等）有。・辞書への登録必要。
III . 統語的操 作	以下の統語操作が可能 ①代用 ②尊敬語化 ③受身化 ④サ変動詞による置換 ⑤重複	・左の①から⑤の統語的操作のいずれも適用不可能

2.2.1 日本語の補文関係の語彙的複合動詞

影山(1993)では、補文関係の意味関係をもつ複合動詞は、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の二種類にまたがると

している。まず、補文関係の語彙的複合動詞として、以下のような例を挙げている。

- (5) a. ～上げる / 上がる (完了):  
歌い上げる、洗い上げる、鍛え上げる、磨き上げる
- b. ～払う (完全にその状態にある):  
落ち着き払う、酔っ払う、出払う
- c. ～渡る (隅々まで及ぶ):  
響き渡る、晴れ渡る、澄み渡る、知れ渡る、鳴り渡る、行き渡る、冴え渡る
- d. ～違う (動作を間違える):  
聞き間違う、掛け違う
- e. ～違う (動作が一致しない):  
入れ違う、行き違う、すれ違う
- f. ～逃がす (不成功):  
見逃す、取り逃がす
- g. ～止す (中途放棄):  
言い止す、食い止す、読み止す
- h. ～果たす (完遂):  
使い果たす、討ち果たす
- i. ～漏らす (失敗):  
書き漏らす、聞きもらす
- j. ～付く (着手):  
寝付く、居付く、住み付く
- k. ～落とす (不成功):  
言い落とす、書き落とす、聞き落とす、見落とす、釣り落とす、取り落とす
- l. ～交わす (動作のやりとり):  
言い交わす、呼び交わす、見交わす、酌み交わす、取り交わす
- m. ～習わす (習慣):  
言い慣わす、書き習わす、呼び習わす
- n. ～返る (完全にその状態になる):  
沸き返る、しょげ返る、静まり返る、呆れ返る
- o. ～頻る (事象の継続):  
鳴き頻る、降り頻る
- p. ～こなす (習熟):  
使いこなす、歌いこなす、着こなす、弾きこなす、読みこなす、乗りこなす

中国語においては、補文構造は複合動詞として具現化するだろうか？ 結論をいうと、後項述語が結果事象として認識されうる場合に限ってのみ、補文構造が中国語の複合動詞にも想定しうる。由本(2005)が挙げている日本語の補文関係の語彙的複合動詞を例にして考えると、(6)に示すように、中国語においても結果複合動詞が対応するケースが多い。

- (6) a. 鳴り渡る: 响遍 xiang-bian    b. 知れ渡る: 传遍 chuan-bian  
c. 見逃す: 看漏 kan-lou            d. 書き落とす: 写漏 xie-lou  
e. 見落とす: 看漏 kan-lou            f. 使い果たす: 用尽 yong-jin / 用光 yong-guang  
g. 呼び慣わす: 叫惯 jiao-guan

(6) の V2 部分は、以下に示すように、中国語においてはかなり生産力の強い結果複合動詞の V2 となる。

- (7) a. ～遍 bian : ～ということがあまねく行き渡る (～渡る)
- b. ～漏 lou : ～ということが抜け落ちている (～落とす / 落ちる)
- c. ～尽 jin : ～ということをし尽くす (～尽くす / 尽きる)
- d. ～光 guang : (あるものを使った) 結果、あるものが消滅する (使い切る)
- e. ～慣 guan : (ある行為の結果、その行為に) 慣れる (～慣れる)

しかし、「読みかける」「読みさす」「読み続ける」など、アスペクトに関わる V2 で、事態全体が完結性をもたない場合は、中国語では複合動詞になることはできず、始動相「読むことを始める」、中止相「途中まで読んでやめる」、継続相「読むことを続ける」というような動詞句としてしか表せない。なぜなら、中国語の複合動詞の典型は結果複合動詞であり、V2 が結果事象を表す述語でなければならないという完結性の原則が働くからである。

### 2.2.2 日本語の補文関係の語彙的複合動詞

次に、統語的複合動詞としての補文関係の複合動詞は、影山 (1993:96) によれば、統語的複合動詞は、すべて補文関係の複合動詞であるとして、以下のような例をあげている。

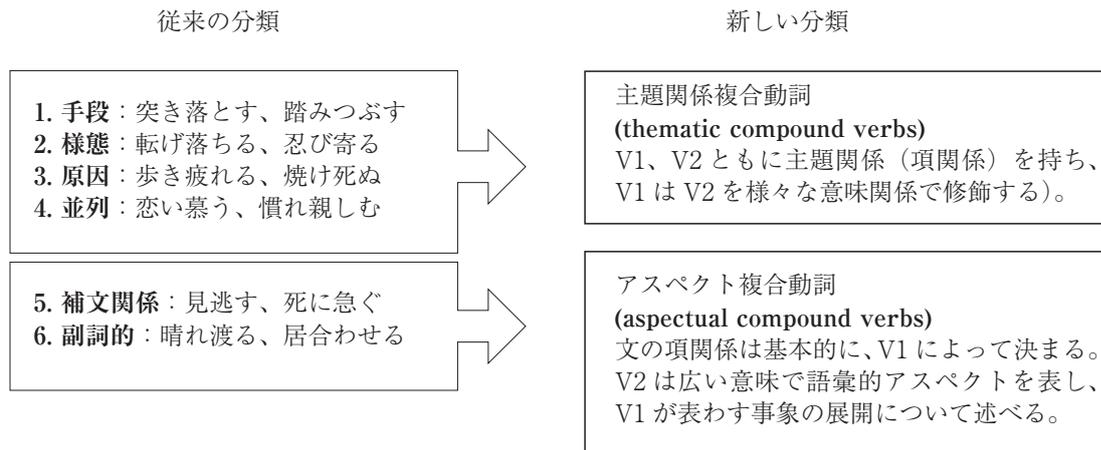
- (8) a. 始動 : ～かける、～だす、～始める
- b. 継続 : ～まくる、～続ける
- c. 完了 : ～終わる、～終わる、～尽くす、～きる、～通す、～抜く
- d. 未遂 : ～そこなう、～損じる、～そびれる、～しかねる、～遅れる、～忘れる、  
～残す、～誤る、～あぐねる
- e. 過剰行為 : ～過ぎる
- f. 再試行 : ～直す
- g. 習慣 : ～つける、～慣れる、～飽きる
- h. 相互行為 : ～合う
- j. 可能 : ～得る

中国語においては、V2 が完結性を表すことが結果複合動詞の条件となるため、(8) の統語的複合動詞のうち、複合動詞として対応できるのは、「完了」の「～終わる / 尽くす / 切る / 通す / 抜く」や、「習慣化」の「～つける / 慣れる / 飽きる」のみである。

### 2.3 日本語における二種類の語彙的複合動詞

影山 (2013:11) では、語彙的複合動詞の新体系として、語彙的複合動詞を以下のように再分類し、語彙的複合動詞と統語的複合動詞の中間に位置するものとして、「アスペクト複合動詞」のタイプを提示している。

(9)



アスペクト複合動詞は、上記(5)で挙げた、「～上げる / 上がる（完了）」、「～払う（完全にその状態にある）」、「～渡る（隅々まで及ぶ）」等の補文関係の語彙的複合動詞に相当する。

影山(2013:3-46)では、主にアスペクト複合動詞の性質について論じ、外国語との対照でも、アスペクト複合動詞はかなり稀な存在で、日本語固有の特徴ではないかと述べている。確かに、日本語のアスペクト複合動詞は、「呆れはてる」「待ちわびる」「褒めちぎる」「降りしきる」「決めあぐねる」「買ったたく」等、V2が原義とは異なる多様な語彙的意味をもち、上級日本語学習者でさえ、なかなか習得できないものが多い。しかし、いくつかの普遍的な語彙的アスペクト概念については、(7)に示したように、中国語においても、同様に複合動詞のV2で表される。この現象を以下3節で考察する。

### 3. 日本語と中国語のアスペクト複合動詞

#### 3.1 中国語の結果複合動詞研究

伝統的な中国語学においては、複合動詞に相当する「動詞＋結果補語」構造の研究は、中国語文法の重要な研究項目であり、また、留学生への中国語教育においても、最も習得が困難な文法項目として研究が進められてきた。

中国語研究において、複合動詞という術語が使われ始めたのは、生成文法の分野で、Li(1990)、Huang(1992)、湯(1992a,b)、沈力(1993)、Cheng and Huang(1994)、Li(1995)、Sybesma(1999)等が、中国語学で「動詞＋結果補語」と呼ばれている複雑述語について、項構造、項の受け継ぎ、主要部の位置、語彙概念構造、編入による複合動詞の生成、語彙論と統語論のインターフェースといった観点から分析を始めた1990年代であった。

日本語と中国語との複合動詞の対照研究は、項構造やGB理論の枠組みによる望月(1990a,b)、湯(1992a,b)、日本語の動詞の自他対応と中国語の結果複合動詞の使役交替の対照を行った望月(2004)、項構造、動詞意味論の視点から、日本語の複合動詞との対照を試みながら中国語の複合動詞の体系を論じた申(2007,2009)、英語の結果構文・日本語の結果複合動詞と中国語の結果複合動詞を論じた申・望月(2009)等がある。さらに、中国語を母語とする日本語研究者によるものも多く、日本語教育における複合動詞という視点をもつものも多い。なかでも、張威(1998)は、日本語の自他と中国語の結果複合動詞の実現可能・不可能を表す可能補語との対照研究で、日本語教育・中国語教育にも貢献する研究である。

#### 3.2 中国語の複合動詞の語構造と五分類

日本語との対照の前に、中国語の複合動詞全体像と、結果複合動詞の位置づけを示そう。湯(1989:154-161)は、中国語の複合動詞を、その内部構造から、以下のように五分類している。下線をひいたものは、使役起動交替をおこし、起動自動詞用法と使役他動詞用法の両方を兼ねる能格動詞としての複合動詞である。

- (10)a. 「動詞 + 目的語」型 (Predicate-Object Type):  
 种地 zhong-di (土地を耕す)、结婚 jie-hun (結婚する)  
 充电 chong-dian (充電する)、动员 dong-yuan( 動員する)
- b. 「動詞 + 結果補語」型 (Predicate-Complement Type):  
 推开 tui-kai (押し開ける)  
 打破 da-po (力を加えて壊す / 力が加わって壊れる)  
 摔坏 shuai-huai (速い速度で落として {壊す / 壊れる})  
 喊哑 han-ya (叫びすぎて {声をからす / 声がかかる})  
 累坏 lei-huai (疲れて {体が壊れる / 体を壊す})
- c. 「副詞 + 動詞」型 (Modifier-Head Type):  
 迟到 chi-dao (遅刻する)、热爱 re-ai (熱愛する)  
 瓦解 wa-jie (ばらばらに崩す / ばらばらに分裂させる)  
 改组 gai-zu (～が改組する / ～を改組する)
- d. 「主語 + 述語」型 (Subject-Predicate Type):  
 面熟 mian-shu (顔になじみがある)、头疼 tou-teng (頭が痛い)  
 眼熟 yan-shu (よくみかける)、性急 xing-ji (性格がせっかちである)
- e. 並列型 (Coordinative Type):  
 发展 fa-zhan (発展する / 発展させる)、改变 gai-bian (変える / 変わる)  
 成立 cheng-li (成立する / 成立させる)、丰富 feng-fu (豊富である / 豊富にする)、  
 充实 chong-shi (充実する / 充実させる)

この五種類の複合動詞のうち、結果複合動詞は(10b)の「動詞 + 結果補語」型複合動詞であり、その構造は、以下の(11)のように一般化される。

(11) 結果複合動詞の事象構造及び述語の組み合わせ

	前項述語 (V1)	+	後項述語 (V2)
a. 事象	原因事象又は先行事象		結果事象
b. 動詞	他動詞 / 非能格動詞 / 非対格動詞		非対格動詞 / 形容詞 <sup>2</sup>

V1は、全ての種類の述語が担うことが可能である。一方、V2は、結果状態を表すために、非対格動詞または形容詞が担うが、例外的に、<V1+会 hui> (V1ができる)、<V1+懂 dong> (～を理解する) 等の状態を表す他動詞が担う場合もある。

### 3.3 中国語における補文関係の複合動詞

日本語において最も生産性が高く、卓越した複合動詞の類型は、補文関係の複合動詞であるが、中国語には補文関係の複合動詞が存在するのだろうか。中国語の複合動詞研究のなかで、初めて「補文関係の結果複合動詞」という分析を導入したのは、申(2007)である。申(2007:198)では、中国語の結果複合動詞を語彙概念構造と項の受け継ぎという基準で五分類し、その一類として補文関係の複合動詞を導入し、V2がV1によって表される先行事象全体に対して、完結のアスペクトを表す類を「補文関係の結果複合動詞」と呼んでいる。具体的には、以下のような例があげられ、(9)で示した影山(2013)の複合動詞の分類のうち、「アスペクト複合動詞」に相当するものである。各例文は、《汉语动词-结果补语搭配词典》を参考に適宜編集している。

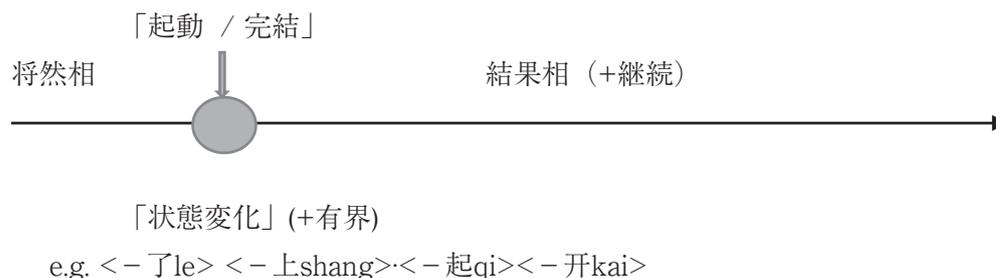
(12) 中国語の補文関係の結果複合動詞

- 1) <-完 wan> 「動作の終了：～終わる / 終える」 写完论文 讲完
- 2) <-到 dao> 「動作目的の達成」：看到(見る動作(look at)の結果、見える(see)), 找到(探して(look for)みつか  
る(find)) 买到(買い物について入手する), 请到(招聘をお願いして、招聘可能になる)
- 3) <-好 hao> 「動作の完了+好ましい結果状態・結果物の創出：～上げる / 上がる」 写好论文(論文を書いて仕上  
げた)、蛋糕烤好了(ケーキが焼けた)
- 4) <-上<sub>1</sub> shang> 「動作の結果+ {上方の場所 / 目的 / 基準} に到達する」 UP 概念
  - a) 「上方移動」：登上山顶(山頂に登る), 爬上八楼(8階まで登る)
  - b) 「目標到達」：买上房子(家を買って手に入れる), 住上新房子(新しい家に住めるようになる)
  - c) 「数量詞で表す基準に到達」：最近失眠, 每天只能睡上三, 四个小时。(最近は不眠で、毎日3,4時間しか眠れな  
い)、只要中午睡上一刻钟, 下午工作就特别有精神。(お昼に15分眠れば、午後は仕事の効率がよい)
- 5) <-上<sub>2</sub> shang> 「平面に対する動作の結果+ある平面にモノが存在するようになる」 ON 概念
  - a) 「固着：～つける / つく」：贴上(貼り付ける), 写上姓名(氏名を書き込む / 書き入れる), 穿上衣服(衣服を  
つける), 戴上{眼鏡 / 帽子 / 手套} ({眼鏡 / 帽子 / 手袋}を身に着ける)
  - b) 「二つのモノの{結合 / 接触}」 WITH 概念  
关上門(ドアを閉める), 锁上(鍵をかける), 接触上了(連絡がついた / 接触ができた)
  - c) 「状態変化、起動+継続：～始める / ～になる」 起動の ON 概念  
会议还没开大家就议论上了。(会議開始前に皆はすでに討論し始めた)、最近又忙上了。  
(最近また忙しくなった)、爱上一个女演员(女優を好きになる),
- 6) <-光 guang> 「対象の消滅：～切る」 吃光(食べ切る), 喝光(飲み切る), 花光(お金を使い切る), 卖光(売り  
切る / 売り切れる)
- 7) <-住 zhu> 「結果の固着：しっかりと～する」 风大, 帽子可要戴住了(風が強いので帽子をしっかりとかぶって  
いなければならない)、记住(しっかりと覚える)
- 8) <-着 zhao> 「目標達成」 找着了(探してみつかった)、那本书借着了(あの本は、借り出すことができた)
- 9) 先行事象への評価：
  - <-错 cuo: 誤る> <-多 duo: 多い> <-少 shao: 少ない> <-早 zao: 早い> <-晚 wan: 遅い>
  - <-长 chang: 長い> <-短 duan: 短い>

さて、複合動詞の後項には、一見例外的に、起動相を表すものもある。例えば、<-上 shang> <-起 qi> <-开 kai> といった例がある。これらは、事象の「起動+継続」という意味を添えるアスペクト複合動詞であるが、中国語学では、結果補語として分類されている。しかし、こうした事象の「起動+継続」も、中国語においては、アスペクト的に、「有界性」をもつ状態変化として捉えられる。これは中国語の完結相を表すアスペクト接辞<-了 le>が、「存続場面のパーフェクト」(Perfect of Persistent Situation; Comrie1976:19-20, 望月1997:63-64)として、将然相を表す際にも用いられることと関連する。即ち、中国語では、結果相でも、起動相でも、以下の(13)に示すような、「有界的」事象とその継続として、アスペクト接辞<-了 le>及びアスペクト複合動詞の後項<-上 shang> <-起 qi> <-开 kai> が用いられる。

これは、日本語でも、瞬間現在のスポーツ中継などの「～走った!」や、探しものがみつかった際の「あった!」と同様、状態変化を表す有界的形式である。

(13)



また、申 (2007:198) では、《汉语动词-结果补语搭配词典》より抽出した 1,866 例の結果複合動詞を以下のように分類し、補文関係の結果複合動詞が 35% を占めていることを示している。

(14) 結果複合動詞の分類とその生起数

1	目的語志向型	816	44%
2	主語志向型	322	17%
3	前項述語の項が具現化しない場合	73	4%
4	後項述語の項が具現化しない場合	0	0%
5	補文関係	655	35%
計		1,866 例	100%

影山 (2013:12) によれば、国立国語研究所のサイトで公開している日本語の「複合動詞レキシコン」(<http://vlexicon.ninjal.ac.jp/>) では、2,757 語の語彙的複合動詞が搭載されているが、主題関係複合動詞が 60%、アスペクト複合動詞が 31% であり、右側主要部の日本語の特質に反して、アスペクト複合動詞が予想以上に多く、全体の三分の一にのぼると述べている。(10) の中国語の補文関係の結果複合動詞は、日本語のアスペクト複合動詞に重なる部分が多く、やはり、全体の 35% と、全体の三分の一を占めており、日本語の語彙的アスペクト複合動詞との共通性がみられ、興味深い。

以下、影山 (2013) で論じられている日本語の語彙的アスペクト複合動詞と中国語のアスペクトを表す中国語の補文関係の複合動詞の対照を試みる。

### 3.4 中国語における主語補文型アスペクト複合動詞と日本語のアスペクト複合動詞

中国語における主語補文型結果複合動詞には、意味的に、「完結性」「評価」「程度の極限」の三種類がある。まず、V2 が先行事象を表す主語節に「完結性」を与える語彙的アスペクトの例を挙げる。

(15) V2 が主語節に「完結性」を与える場合:

a. 「～終わる」: <-完 wan>

例: 我写**完**(xie-wan) 论文了。(私は論文を書き終えた。)

b. 「～上げる / 上がる」: <-好 hao>

例: 我们的旅程早已**安排好**(anpai-hao) 了。(《现代汉语述补结构用法数据库》)<sup>3</sup>

(私たちの旅程は、すでに手配済みだ。)

第二に、V2 が主語節に対する評価形容詞となる場合の例を挙げる。

(16) 先行事象に対する評価<sup>4</sup>：

a. 「～誤る」：<- 错 cuo> (～誤る / ～間違う)、<- 对 dui> (～が正しい)：

例：有的问题他处理对 (chuli-dui) 了，有的处理错 (chuli-cuo) 了。(《现代汉语述补结构用法数据库》)  
(ある問題は、彼はきちんと処理したが、ある問題は、処理を誤った。)

b. 「～過ぎる」：<- 多 duo / 少 shao> (多過ぎる、少なすぎる)、<- 早 zao / 晚 wan> (早すぎる、遅すぎる)、<- 长 chang / 短 duan> (長すぎる、短すぎる)

例：我因为起晚 (qi-wan) 了，所以没赶上汽车。(《现代汉语述补结构用法数据库》)  
(私は起きるのが遅かったので、バスに乗り遅れた。)

c. 「～足りる」：<- 够 gou> (～足りる、～尽くす)

例：这个老人尝够 (chang-gou) 了没有文化的痛苦了。(《汉语动词 - 结果补语搭配词典》)  
(この老人は教育を受けていない辛さを味わい尽くしている。)

第三に、V2 が主語節に対して、完結性以外に、「程度の極限」に達しているという意味を表す場合の例を挙げよう。

(17) 「程度の極限」：

a. 「～渡る」：<- 遍 bian>

例：这份广告传单在城里都传遍 (chuan-bian) 了。(《现代汉语述补结构用法数据库》)  
(この宣伝チラシは、街中に行き渡った。)

b. 「～尽くす」：<- 尽 jin>

例：他这一生受尽 (shou-jin) 了各种苦难。(《现代汉语述补结构用法数据库》)  
(彼は生涯でさまざまな苦難を味わい尽くした。)

上記の「完結性」「評価」「程度の極限」を表す中国語の複合動詞は、日本語のアスペクト複合動詞と共通する意味と構造をもっている。

### 3.5 アスペクト複合動詞の認知意味論的比較：「～上がる / 上げる」と中国語の <- 上 >

ここで、アスペクト複合動詞のうち、「～上がる / 上げる」と中国語の <- 上 shang> を取り上げて、認知意味論の視点から比較を試みる。両者は、いずれも具象概念としての「上方移動」を表す際に用いられるが、両者は、メタファーを通して抽象概念である UP 概念を生み出す。

まず、「～上がる / 上げる」は、UP 概念のひとつとして、「苦勞した結果、結果物が産出される」という意味をもつ。

(18)a. 論文を書き上げる。

b. ケーキが焼き上がった。

(18a,b) に対応する中国語では、「よい結果物が産出された」という意味の <- 好 hao> というアスペクト複合動詞が対応する。

(19) <- 好 hao> 「動作の完了 + 好ましい結果状態・結果物の創出：～上げる / 上がる」

a. 写好论文 (論文を書き上げた)、

b. 蛋糕烤好了 (ケーキが焼き上がった)

<- 好 hao> は、「～上がる / 上げる」と異なり、結果物の産出のみに焦点があたり、結果に至る過程には焦点があたっていない。

## 多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

一方、中国語の<-上 shang>は、(12, 4)で示したようなUP概念と、(12,5)で示したON概念の両方の概念を表す。以下、UP概念用法を(20),ON概念用法を(21)として再録する。

(20) <-上<sub>1</sub> shang>「動作の結果+ {上方の場所/目的/基準} に到達する」UP概念

- a)「上方移動」: 登上山顶 (山頂に登る), 爬上八楼 (8階まで登る)
- b)「目標到達」: 买上房子 (家を買って手に入れる), 住上新房子 (新しい家に住めるようになる)
- c)「数量詞で表す基準に到達」: 最近失眠, 每天只能睡上三, 四个小时。(最近は不眠で、毎日3,4時間しか眠れない)、只要中午睡上一刻钟, 下午工作就特别有精神。(お昼に15分眠れば、午後は仕事の効率がよい)

UP概念を表す<-上<sub>1</sub> shang>は、目標達成を表し、目標は上に存在する概念として認知されている。この用法は、日本語のアスペクト複合動詞に対応するものがみつからず、中国語の第二言語習得においては、習得が特に困難である。

(21) <-上<sub>2</sub> shang>「平面に対する動作の結果+平面にモノが存在するようになる」ON概念

- a)「固着: ~つける/つく」: 贴上(貼り付ける), 写上姓名(氏名を書き込む/書き入れる), 穿上衣服(衣服をつける), 戴上{眼鏡/帽子/手套}({眼鏡/帽子/手袋}を身に着ける)
- b)「二つのモノの{結合/接触}」WITH概念  
关上門(ドアを閉める), 锁上(鍵をかける), 接触上了(連絡がついた/接触ができた)
- c)「状態変化、起動+継続: ~し始める/~になる」起動のON概念  
会议还没开大家就议论上了。(会議開始前に皆はずでに討論し始めた)、最近又忙上了。(最近また忙しくなった)、爱上一个女演员(女優を好きになる),

ON概念<-上<sub>2</sub> shang>は、「~つける」が対応する例を除き、日本語のアスペクト複合動詞には対応しない。ON概念<-上<sub>2</sub> shang>の存在は、中国語において、空間表現のON概念が日本語よりも発達していることを示唆する。例えば、日本語と中国語の類別詞は、日本語では助数詞、中国語では量詞と呼ばれるが、机、ベッドの類別詞が以下のように異なる。

(22)a. 日本語の助数詞「台」: 大きな人工物を表す名詞と共起する類別詞

机一台、ベッド一台、車一台

b. 中国語の量詞<-张 zhang>: 平面と捉えられる名詞と共起する類別詞

一张书桌(机一台)、一张床(ベッド一台)

c. 中国語の量詞<-辆 liang>: 車輪をもつ名詞と共起する類別詞

一辆车(車一台)

日本語においては、大きな人工物と認知されるものは、大きな塊として認知され、その内部構造(平面、車輪)に焦点をあてるということがない。中国語は、日本語に比べ、アスペクト複合動詞においても、類別詞においても、ON概念が強い。これは、4節で述べる、日本語の空間認知の非有界性とも通じる現象である。

### 3.6 中国語における目的語補文型結果複合動詞

中国語には、主語節を補文にとる「主語補文」型複合動詞は日本語と同様存在するが、目的語節を補文にとる「始動: V1することを {~かける/~だす/~始める}」「継続: V1することを {~まくる/~続ける}」「未遂: V1することを {~そこなう/~損じる/~そびれる/~しかねる/~遅れる/~忘れる}」「過剰行為: ~過ぎる」「再試行: ~直す」「相互行為: ~合う」といった「目的語補文」型複合動詞は存在しない。日本語と中国語におけるこの相違は、日本語がOV語順であるのに対して、中国語がVO語順であるという統語構造の反映である。即ち、中国語で

は、目的語節の動詞との複合が起こらない。

ここで、注意すべき点は、中国語において「主語補文」型複合動詞が存在するといっても、結果複合動詞であること、即ち、事象の「完結性」が保証されなければならない点にある。中国語は、日本語と同様、主語補文型の結果複合動詞が存在する一方で、目的語補文型複合動詞は存在しないように思われる。以下、日本語の目的語補文型複合動詞が中国語ではどのように表されるかについて考察してみよう。

例えば、始動、継続、未遂、再試行を表す目的語補文型複合動詞は、中国語においては、(23)に示すように、 $[_{VP} V2 + [_{IP} \dots V1 \dots]]$  という目的語節をとる動詞句か、 $[_{IP} 没能 [_{VP} \dots V1 \dots]]$  のように過去の不可能な事態を表す助動詞文に対応し、複合動詞には対応していない。

- (23)a. 「～始める」                     $[_{VP} 开始 kaishi [_{IP} \dots V1 \dots]]$   
 b. 「～続ける」                     $[_{VP} 继续 jixu [_{IP} \dots V1 \dots]]$   
 c. 「～損なう / 損ねる」         $[_{IP} 没能 meineng [_{IP} \dots V1 \dots]]$   
 d. 「～忘れる」                     $[_{VP} 忘 wang [_{IP} \dots V1 \dots]]$   
 e. 「～直す」                         $[_{VP} 重新 chongxin [_{IP} \dots V1 \dots]]$

ここで、一見目的語補文をとるようにみえる <定 ding> という複合動詞を考えたい。

- (24)a. 这本书我是用定 (yong-ding) 了, 你找别的书吧。(《现代汉语述补结构用法数据库》)  
 (この本は、私が使うことに決めたから、他の本を探してね。)  
 b. 这个角色我演定 (yan-ding) 了, 谁也别跟我抢。(《现代汉语述补结构用法数据库》)  
 (この役柄は、私が演じることに決めたわ、誰も私から奪うことはできない。)

<定 ding> は、日本語に翻訳すると、「～することを決めた」という意味になり、目的語補文をとるようにみえる。しかし、中国語の結果複合動詞は、基本的に非対格動詞又は形容詞しかとることができないという事実から考えると、<定 ding> は、自動詞 / 形容詞用法で、「～することになっている」という意味であり、主語補文をとる結果複合動詞と分析される。

では、中国語はなぜ目的語補文をとる複合動詞がないのだろうか？例えば、「書き忘れる」に対応する中国語として、なぜ <\*忘写 wang-xie, [忘れる + 書く]> という複合動詞が不可能なのだろうか？その理由として、第一に、中国語においては、事象を時間順の語順で複合動詞を形成する「因果関係型」、或いは「先行-結果」語順型が、優先順位が最も高い複合動詞の型であることが挙げられる。

第二に、中国語では、動詞の後置成分として、目的語以外に、補語（結果補語、方向補語、可能補語、程度補語、数量補語）が置かれるという統語的要因が挙げられるであろう。以下 (25) に示すように、目的語と補語が共起する場合、動詞の後ろに隣接する位置に来るのは補語であり、目的語は、<把 ba> という目的語を前置する前置詞を伴って動詞の前に移動し、動詞直後の位置を補語に譲るという「補語優先」現象がある。

- (25)a. 把 事情 办完。仕事をやり終える。(結果補語)  
 ba shiqing ban-wan.  
 b. 把他 叫进来。彼を呼んできなさい。(方向補語)  
 ba ta jiao-jinlai.  
 c. 把话 又 说了一遍。話をもう一度言う。(数量補語)  
 ba hua you shuo le yibian.

中国語においては、目的語と補語が共起する場合、<‘把 ba’ 目的語 + 動詞 + 補語> という語順となり、目的語よりも補語のほうが、動詞の後置成分としての優先順位が高い。このように、中国語の統語構造において、目的語より

も補語が動詞の後置成分として優先される現象が、結果複合動詞の統語的卓越を示し、目的語との複合動詞化がおこらないという語形成にも反映されている。即ち、補語の統語的卓越性が、中国語では、目的語補文との複合動詞化が起らないという語形成法則に反映されているのである。

### 3.6 語順からみた日本語と中国語の複合動詞

日本語と中国語の複合動詞の語順には、並列型を除き、二種類の普遍原則がある。第一の原則は、「句構造における語順が、複合動詞の語順にそのまま反映される」という「句構造と語構造の語順一致原則」である。第二の原則は、「事象の起こった順に動詞を並べる」という、時間順と語順の間にみられる「表象性」(iconicity)に帰結される「時間順原則」(Tai 1985)である。日本語も中国語も、複合動詞の語順には、両方の普遍原則が働いているが、日本語においては、「句構造と語構造の語順一致原則」が最も卓越性をもつ一方で、中国語においては、「時間順原則」が最も卓越性をもつ。

中国語において「時間順原則」が「句構造と語構造の語順一致原則」よりも卓越性をもつという特徴を最も端的に示す例は、補文関係をもつ結果複合動詞の語順においてみられる。例えば、<吃膩 chi-ni(飽きる - 食べる : 食べ飽きる)>、<跳烦 tiao-fan(踊る - 飽きる : 踊り飽きる)>・<穿惯 chuan-guan(履く - 慣れる : 履き慣れる)> は、前項述語が表す事象が時間的に先起こり、後項述語が表す事象が時間的に後に起こる結果事象である。

中国語の動詞句は、VO 型語順で主要部が左にあるから、動詞句の主要部と補文の語順が、複合動詞にも反映されるのであれば、複合動詞の語順は、<\*膩吃 ni-chi(飽きる - 食べる : 食べることに飽きる)>、<\*烦跳 tiao-fan(飽きる - 踊る : 踊ることに飽きる)>、<\*慣穿 guan-chuan(慣れる - 履く : 履くことに慣れる)> のように、補文を表す部分が後に来るはずである。これは、例えば「返事を出し忘れた」は、中国語では、複合動詞で表現不可能なため、[<sub>vp</sub> 忘 wang 了 le [IP 回信 huixin]] と、「動詞 + 目的語節」の語順で表すしかないことから予測できる。<吃膩> (食べ飽きる)、<穿惯> (履きなれる)、<跳烦> (踊り疲れる) では、中国語の動詞句の「動詞 + 目的語」語順が複合動詞の語順を決めているのではなく、「何度も食べて飽きた」「何度も履いて慣れた」「長時間踊って疲れた」という、時間順が複合動詞の語順を決めていることになる。日本語と中国語における句構造及び複合動詞の語順原則と原則の優先順位について対照すると、以下の表2のようにまとめられる。

表2 日本語と中国語における句構造、複合動詞の構造と語順原則

	日本語	中国語
1. 動詞句の構造	1. OV 語順 2. 動詞句 : 主要部右 動詞の後に結果述語は許されない。	1. VO 語順 2. 動詞句 : 主要部左 動詞の後に結果述語がおかれる。
2. 複合動詞の語順原則の優先順位	1. 「句構造と語構造の一致原則」 →補文関係の複合動詞が卓越 e.g. 「書き忘れる」 「早過ぎる」 2. 「時間順原則」 e.g. ・因果関係：溺れ死ぬ ・先行 - 結果関係：食べ残す 売れ残る	1. 「時間順原則」 <b>結果複合動詞の卓越性</b> e.g. <吃膩>、<穿惯> →目的語補文型複合動詞は存在しない。 <*膩吃(食べることに飽きる)> <*慣穿(履くことに慣れる)> 2. 「句構造と語構造の一致原則」→ 目的語補文型はないが、主語補文型は存在する。 e.g. <-完>、<-上>、<-錯>、<-多>、<-少>、<-遍>

### 3.7 日本語の複合動詞と語順

以上、日本語の語彙的複合動詞及び統語的複合動詞の類型を中国語との対照を通して考察したが、日本語の統語構造がどのように複合動詞の語順に反映しているのかという観点から捉えなおしてみると、次の表3のようにまとめられる。表4は、日本語の複合動詞には、日本語の統語構造を反映した語順以外に、時間順原則を反映した「因果関係」及び「先行 - 結果」関係の複合動詞が存在することも示している。

表3 日本語の語彙的複合動詞の構造と語順

	V1	V2	統語関係	意味関係
統語的語順	1	V2の副詞成分	主動詞	副詞 - 動詞 1. 付帯状況・様態の複合動詞 持ち寄る、飲み歩く、探し回る、 聞き回る、持ち去る、滑り降りる、転げ落ちる 2. 手段の複合動詞 切り倒す、吸い取る、勝ち取る、 泣き落とす、言い負かす
	2	V2の主語節	主動詞	主語節 - 動詞 3. 主語補文関係 ～かける、～だす、～過ぎる、 ～得る
	3	V2の目的語節	主動詞	目的語節 - 動詞 4. 目的語補文関係 ～終える、～忘れる、～誤る、 ～直す、～慣れる
時間順語順	4	V2の原因事象	結果事象を表す	5. 因果関係 遊びくたびれる、泣きぬれる、溺れ死ぬ、焼け死ぬ、流れ着く
	5	V2の先行事象	結果事象を表す	6. 「先行 - 結果」関係 ～残る / 残す

### 3.8 日本語及び中国語学習者コーパスにみられる誤用

中国語においては、「原因 + 結果」構造が卓越しており、これは、結果複合動詞という語形成レベルにおいても、また生理・心理構文という構文レベルにおいても、「原因 + 結果」構造の卓越性が観察される。こうした中国語の特性は、中国語を母語とする日本語学習者の誤用においても反映される。望月 (2009) は「誤用パターン別上級日本語学習者作文コーパス」<sup>5</sup>において、中国語を母語とする日本語学習者の特性として、使役表現の過剰使用が観察されると述べ、次のような例を挙げている。

(26)a. たくさんの店が道路の両側の空いている場所を占めて、歩行者が歩けないほど混ませました (→混んでいました)。(CC808\_1)

- b. 许多 店家 占据 了 道路 两旁 的 空地,  
Xuduo dianjia zhanju le daolu liangpang de kongdi,  
沢山の店 占める LE 道路 両側 DE 空いている場所  
使得 道路 变得 很 拥挤。  
shide daolu biande hen yongji.  
～をひきおこす 道路 ～になる とても 混雑する

(26a)で、「\*混ませる」という使役形を用いた誤用の要因として、以下のような母語干渉が推測される。即ち、中国語では、(21b)のように、「原因事象 + 結果事象」型構造で表すのが自然だが、日本語では、原因事象を主語にとって、「道を混ませる」という使役表現は非常に不自然で、「たくさんの店が道路の両側に並んでいるので、道は人が歩けないほど混んでいました」とするのが自然な文である。

一方、日本語母語話者による中国語学習者コーパス (東京外国語大学満月コーパス)<sup>6</sup>では、以下の (27a)のように、心理述語文に <让 rang> といった使役標識が脱落している誤用例がみられる。

(27)a. \*( $\phi$ )高兴的在他的课( $\phi$ ), 能学习( $\phi$ )很有意思的中文小说。(学習者による作文)

- b. 让我高兴的是在他的课上, 能学习到很有意思的中文小说。(添削後)  
c. 嬉しかったのは、彼の授業で興味深い中国語の小説が勉強できたことである。

中国語では、心理述語文は原因を主語にとる使役構文をとるのに対して、日本語では、心理述語は経験者を主語に

とる形容詞・自動詞文であるという相違がある。こうした相違は中国語母語話者による日本語では「使役構文の過剰使用」が観察され、一方日本語母語話者による中国語では、「使役標識の脱落」という表裏をなす相関現象が観察される。

#### 4. 英語・中国語学習者コーパスの誤用からみた日本語の空間認知と個体化

本節では、日本語母語話者英語誤用コーパスにみられる「in」の過剰使用」や日本語母語話者中国語誤用コーパスにみられる「一个 yige」の欠如」に焦点をあて、日本語の空間認知が、融合型空間認知であり、「無界」的 (unbounded) であることを論じる。

##### 4.1 日本語・英語・中国語学習者誤用コーパス構築と中間言語研究

東京外国語大学では、以下三種類の日本語・英語・中国語学習者コーパス及び誤用コーパスの構築・誤用分析を行っている。まず、日本語学習者コーパスは、グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」(2007 年度～2011 年度) において構築され、以下のサイトで公開している。<http://cblle.tufs.ac.jp/llc/ja/index.php?menulang=ja>

本コーパスでは、台湾銘傳大学(中国語母語話者)、英国リーズ大学(英語母語話者又はヨーロッパ言語母語話者)、国立キエフ言語大学(ロシア語又はウクライナ語母語話者)における日本語学習者作文コーパス(作文数 373、文字数 161,533 字、執筆者総数 146 名)を、学習者から著作権に関わる承諾書を得たうえで、学習者情報とともに公開している。さらに、この日本語学習者作文コーパスから文法・語彙上の誤用項目を抽出し、日本語の学習者・教育研究者のための「日本語誤用オンライン辞典」を作成し、以下のサイトで公開している。

<http://cblle.tufs.ac.jp/llc/ja/index.php?menulang=ja>

次に、英語学習者コーパスは、2011 年度より収集され、東京外国語大学英語専攻の学生による英語上級学習者作文コーパス「朝日コーパス」(Sunrise Corpus TUFS, 2014 年 2 月現在、120 名の学習者が執筆した 1,189 作文、TOEIC 平均 800 点程度)に、英語母語話者が添削し、誤用項目が検索可能な「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」試用版を東京外国語大学国際日本研究センター HP にて公開している。

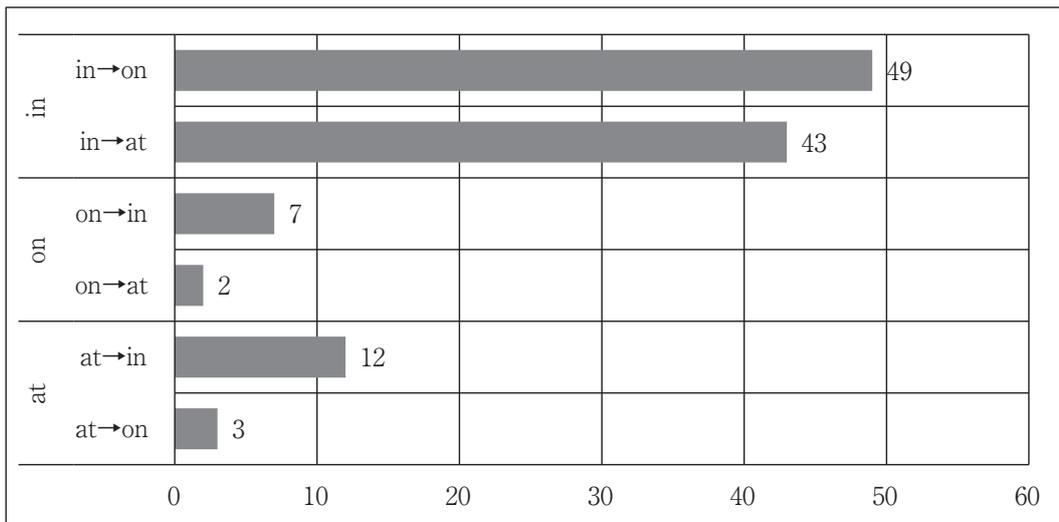
<http://sano.tufs.ac.jp/lcshare/htdocs/index.php>

第三に、中国語学習者コーパスは、2013 年度より、東京外国語大学中国語専攻 3・4 年生の中国語作文に基づく上級中国語学習者コーパス「満月コーパス」(Full Moon Corpus TUFS, 2014 年 2 月現在、81 名の学習者による 248 作文、92,000 字程度、平均 HSK6 級程度)を構築している。以下、この 3 種類の異なる母語の学習者コーパスにみられる誤用を通して、英語・中国語・日本語の空間表現の誤用の要因について分析する。

##### 4.2 英語学習者誤用コーパスにみられる英語の空間表現の誤用：「IN の過剰使用」

「朝日コーパス」において、卓越した誤用類型の一つは、「前置詞 in」の過剰使用」である。望月・狩野(2011)では、朝日コーパスにおいて抽出された空間・時間を表す前置詞 in/on/at の誤用は 116 例あり、その内訳は、(28) のように示されることを示した。

(28) 空間・時間を表す前置詞 in/on/at の誤用数



(28) が示すように、in/on/at の誤用 116 例のうち、in の誤用が 79%(92 例) を占め、最も顕著である。なぜ「in」の過剰使用」が日本語母語学習者に顕著なのだろうか。まず、英語の AT, ON, IN のイメージスキーマを (29) として図示しよう。

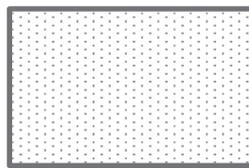
(29) AT / ON/ IN のイメージスキーマ

a. AT



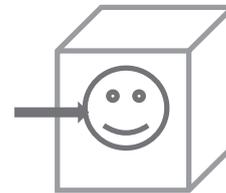
「点」→「ひとまとまり性」

b. ON



「平面」

c. IN



「立体」「内部構造」「内部移動」

以下、日本語母語話者による「in」の過剰使用」の要因が、日本語では無界的空間認知が卓越し、ON/AT のイメージスキーマが顕著ではないことに起因することを論じる。

#### 4.3. 英語・日本語・中国語の空間認知：IN と ON

日本語母語話者による in の誤用では、「場所表現には in が用いられる」という「過度般化」が日本語母語英語学習者には存在する。以下誤用例を挙げよう。各誤用文の後に付された( )内の番号は、執筆年度、学習者 ID を示している。下線は筆者によるもので、(→ X)は、X が正しい表現であることを示している。

(30)The safety in (→on) Japanese trains is also one of the reasons why people feel relaxed enough to sleep. (2012.29)

日本の電車の中の治安のよさも、安心した眠りができる理由でもあります。

公共交通機関であるバス、電車、船、飛行機等の空間は、英語では ON と認知され、on が用いられる。それは、共通理解として「決められた路線図上を移動する」という認知とも関連している。その証拠に、お客の指示に従って移動するタクシーは、on ではなく in a taxi と表現する。一方、日本語では、こうした「公共交通手段⇒路線図⇒ON」という認知は存在せず<sup>7</sup>、「～内」(車内、機内、学内)、「～の中」(電車の中、飛行機の中、学校の中)と

いった表現が用いられ、平面的認知の表現は用いられない。こうした日本語の特性が、「in の過剰使用」を引き起こしていると予測される。中国語においても、場所詞の後につく <- 上 -shang> が、ON の概念とみなされる。

- (31)a. 车上睡觉          電車の中で眠る。  
 b. 飞机上看电影      飛行機の中で映画を観る。

日本語母語中国語学習者にとって、(31)のような「名詞を場所化する <- 上 >」の習得がむずかしく、「満月コーパス」においても、脱落している誤用が多いが、英語の ON 概念の習得がむずかしいのと同様である。

また、中国語では、<- 上 > は「事象名詞」の後につくこともある。例えば、< 课堂上 (授業で), 宴会上 (宴会で), 学会上 (学会で) > のような例があるが、日本語では、格助詞の「で」としか訳せず、空間表現はつかない。望月・狩野 (2012) は、英語の on が、「移動に関わる名詞」(e.g. route/course/train/airplane/trip) や「通信伝達に関わる名詞」(e.g. phone/radio/TV/internet) と共起するのは、「経路」(PATH) というイメージスキーマと関連している可能性を示唆し、以下のようなイメージスキーマと ON の概念を提示した。

(32) 「経路」(PATH) のイメージスキーマと ON

「移動の経路」 ON route/course/train/airplane/trip  
 「事象の過程」 课堂上 / 宴会上 / 学会上



中国語において、事象名詞に <- 上 > がつく場合は、(32) の PROCESS 「出来事の過程」が想定され、過程の上を、○が漸増的に移動する、即ち「時間の推移」というアスペクトのイメージと関連しているともいえる。日本語では、「授業中<sup>チュウ</sup>」という表現にあたる。

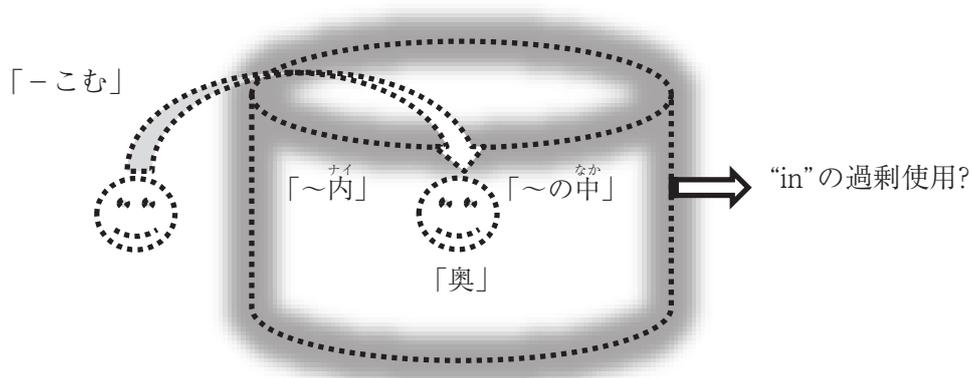
このように、英語・中国語は、ON の空間表現が卓越している<sup>8</sup>のに対し、日本語では、(57) で示したような「点」「平面」「立体」という区別が明確な空間認識が存在せず、(61) に示すような、空間や実体の境界が曖昧な「ウチ」という認識しかないように思われる。

例えば、日本語の「～こむ」は、生産性が高い複合動詞であるが、「床を磨きこむ」「身体と精神を鍛えこむ」等の用法は、抽象的な「精神性」がある空間の内部へ移動するという「抽象的内部移動」を示している。こうした抽象的内部移動の「～こむ」は、複合動詞が存在する中国語や韓国語でも、複合動詞にすることができず、「一生懸命 | 磨く / 鍛える |」と翻訳されるという。

また、日本語の「奥」という空間概念も、抽象的な空間概念である。「奥」は心理的に最も遠い場を指し、英語では、interior (内部), back (後部), bottom (底), depth (深い部分), secret (秘密の / 神秘的な) 等に対応し、英語からみれば多義性をもつが、日本語の語彙としては、「奥」が表す空間は、「遠く深いところに存在する神秘的な、無限の広がりをもつ場」で、その無界性が IN というイメージスキーマと結びつくのではないだろうか。

日本語における「～内<sup>ナイ</sup>」、「～の中<sup>なか</sup>」「～こむ」「奥」等、「境界が曖昧な内部空間」と「内部空間に融合しているモノ」というイメージスキーマは、(33) のように表される。

(33) 日本語における「<sup>ナイ</sup>～内」、「<sup>なか</sup>～の中」「奥」「～こむ」の「無界的」イメージスキーマ



#### 4.4. 概念化された場の「点」としての認知：AT と IN

英語では、「概念化された場」(e.g. school, shop, station, hotel, post office) は、ある「一定の機能をもつ場」として「ひとまとまり性」をもち、個体化された点としての AT の概念と結びつく。しかし、日本語にはこのような認知手段はなく、(33) で示したような曖昧な空間として認知されるため、やはり「in の過剰使用」がみられる。以下の誤用例は、「学校」「大学」という概念化され、個体化された場に in を用いた誤用例である。

(34)a. There are a lot of food and drinks stalls in (→ at) the university run by students. (2011.63)

大学には、学生たちによって運営される飲食の屋台がたくさんある。

b. In (→ at) the school, I studied English diligently in order to enter TUFS, Tokyo University of Foreign Studies. (2012.15)

学校では、東京外国語大学に合格するために、英語をがんばって勉強した。

(34a,b) の university/school は、「具体的な場」としてではなく、「大学」「学校」という機能面に視点をおいた「概念化され個体化された場」として、AT と認識され、内部構造認知の IN とは共起しない。しかし、日本語母語英語学習者は、「概念化された場」を「ひとまとまり」として認知する AT の概念でとらえることがむずかしい。その一つの要因に、日本語の場所表現には、「場」の認知の相違によって異なる格助詞を用いることがないことが挙げられる。「に」「で」の使い分けは、空間認知ではなく、統語的な要因に基づいている。

(35)a. 「場所 + に」:

語彙的に「存在」の意味を内包する述語「ある、いる、住む、置く、留まる、泊まる」等と共起し、述語の「必須項」(obligatory argument) となる。中国語では、「動詞 + < 在 zai > 存在場所」構文に相当し、存在場所は動詞の後置成分で補語。

b. 「場所 + で」:

命題の「場面設定」(scene-setting) として、文全体の修飾機能をもつ場合に用いられ、述語にとっては「随意項」(optional argument) であり、基本的にどのような文にもつくことができる。中国語では、「< 在 > 場所 + 述語」に相当し、副詞句。

つまり、空間を表す「に」と「で」の使い分けは、述語の語彙的特性によって決められているため、日本語母語話者は、英語・中国語にみられる空間認知、即ち英語における IN/ON/AT の使い分け、中国語の名詞を場所化する<上>の習得が困難となる。一方で、英語・中国語を母語とする日本語学習者にとっては、「に」と「で」の使い分けが学習困難点となる。一般的には、初級ほど、また中国語母語話者ほど、「に」の過剰使用が観察される。「中国語の介詞<在> = 日本語の“に”」という過度般化によるものである。以下、「日本語誤用オンライン辞典」から誤用

例を挙げよう。

- (36)a. ドーピングの問題はどれも複雑なので具体的に答えられないだろう。上に(→で)論じられたことからもっと議論することはあると思われる。(英語母語, Ld\_044\_2009)
- b. 大学院で私の人生の中に(→で)初めての「零」をもらいました。(中国語母語, Mc\_005\_2010)

#### 4.5. 中国語誤用における「数量詞の欠如」: 日本語における個体化認知の欠如

池上(1981), 池上(2007)では、英語が「個体化指向」「有界的」(bounded)な事態把握であるのに対して、日本語は、個体を全体に融合させ、明確な輪郭をもたない「連続体指向」「無界」(unbounded)的事態把握であることが述べられている。この主張を支持する現象として、「満月コーパス」にみられる「“一个 yige”の欠如」による誤用が挙げられる。「“一个 yige”とは、「一個」「ひとつの」の意味をもち、英語の不定冠詞“a”に類似する数量詞であるが<sup>9</sup>、“a”とは異なり、常に義務的に名詞につくわけではなく、沈家煊(1995)によれば、「有界的」(bounded)な事態把握の場合にのみつく。以下、“一个”に代表される数量詞がつく例文を挙げる。

- (37)a. 虽然是一个物资不是很丰裕的时代, 但是胡老师以及他家人对我的热情款待的回忆, 始终就像一个宝藏一样。  
物質的に豊かとはいえない時代でしたが、胡先生と先生のご家族が私をご親切にもてなしてくださった思い出は、宝物のように今も胸に刻まれています。
- b. 日本是一个高度管理的社会, 有人说整个日本如同一个大公司。(人民日报 1995年6月份, 北京大学 CCL コーパスによる)  
日本は高度な管理社会で、日本全体が大企業のようであるともいわれる。

下線部の「時代」「宝物」「社会」「大企業」に相当する中国語には、いずれも“一个”という数量詞がつくものに対し、日本語ではこうした数量詞がつかない。「満月コーパス」においても、(38)の誤用例が示すように数量詞の脱落が顕著である。

- (38)a. 那时发生了\*(一件)不幸的事。  
その時、不幸な出来事がおこった。
- b. 东大和有\*(一个)很大的公园, 东大和南公园, 附近也有\*(一条)小河。  
東大和にはとても大きな公園がある、即ち東大和南公園である。そして、その付近には小川もある。

一方、英語母語話者による中国語学習者コーパスでは、「一个」=英語の不定冠詞“a”という過度般化により、「無界」(unbounded)的な未完了の事態においても“一个”をつけるという過剰使用がみられる。以下は、台湾師範大学<sup>10</sup>より提供された英語母語話者コーパス中にみられた“一个”の過剰使用例であるが、いずれも、予定・可能・蓋然性・否定等の「無界」(unbounded)的な未完了の事態に“一个”をつけた誤用例である。

- (39)a. 我計畫我們去電影院看(\*一部)電影。  
私は、私たちが映画館に行って、一作の映画を見る計画をしている。
- b. 我記得你說過你喜歡丟飛盤, 所以我會把(\*一張)飛盤帶來。  
君はフリスビーが好きだときいたから、私はフリスビーを一つ持ってくるよ。
- c. 我在台北沒有發生(\*一個)大問題, ……  
私は台北では、まだ大きな一つの問題にあったことがない。
- d. 今天他不但忘了帶手機, 也忘了帶(\*一瓶)水。  
今日彼は携帯電話を忘れたばかりではなく、水一本持ってくるのも忘れた。

中国語には、文法範疇としての「数」はないが、類別詞が非常に発達し、数量詞が「有界的」(bounded) な事態把握の場合につく。この点で、中国語は、(40) のように、英語ほど「個体化指向」ではないにしても、日本語よりは、「個体化指向」が強いといえる。

(40)

	① 文法範疇「数」	② 類別詞	③ 個体化
英語	+	-	+++
中国語	-	+++	++
日本語	-	+	-

## 5. 結び

本論では、日本語の語彙の特質を、複合動詞、空間表現、数量詞について、中国語・英語との比較から論じた。論考を通して浮き彫りになるのは、日本語が、英語についてはいうまでもなく、中国語よりも「連続体指向」「無界」的事態把握の特質をもつという事実である。

まず、複合動詞においては、日本語と中国語の共通点は、「統語構造で動詞と最も緊密な関係にある統語成分が複合される」という点である。また、アスペクト複合動詞においても、両言語は非常に豊富な体系をもつ。

一方、日中語の相違点として、日本語で卓越した複合動詞は、「目的語節+動詞」型補文型複合動詞であるのに対して、中国語で卓越した複合動詞は、「動詞+結果補語」という統語構造が反映された結果複合動詞である、という相違がある。このため、中国語では、完結性をもたない始動相「～始める」「～かける」「～出す」、継続相「～続ける」、未遂の「～忘れる」「～そこなう」等の「無界的」事象把握は複合動詞化されない。中国語は、複合動詞において「完結性」という「有界的」事態把握が非常に卓越しているのに対し、日本語は始動相、継続相、未遂といった「無界的」事象についても複合動詞を形成できるという大きな相違がある。

第二に、英語の空間を表す前置詞“in”“on”“at”のうち、日本語母語英語学習者コーパスにおいて、“in”の過剰使用が顕著であるという事実をみた。その誤用原因として、日本語における「～内」<sup>□□</sup>、「～の中」<sup>□□</sup>「～こむ」<sup>□□</sup>「奥」等、「内部空間に融合しているモノ」「境界が曖昧な内部空間」といった空間認知が関与している可能性を論じた。ここにも、日本語母語者において、「無界的」空間認知が卓越し、「無界的」空間に“in”を用いる可能性がみえる。

第三に、日本語母語話者学習者コーパスにおける「中国語の数量詞“一个”の欠如」、英語母語話者学習者コーパスにおける「中国語の数量詞“一个”の過剰使用」が卓越しているという対比は、日本語が「無界」的事態把握の特質をもつため、日本語母語話者にとって、「有界的」事象把握の“一个”の習得が困難であることが示唆される。

日英語の表現類型の相違については、多くの論考があるが、中国語も加えた比較をしてみると、中国語は、さまざまな点で、日本語対英語の両極の中間に位置する言語のように思われる。中国語は、自他対応の語形成において自動詞が基本、脱使役化、複合動詞という点で、日本語と類似するのに対し、VO語順、使役構文の卓越性、数量詞による名詞の個体化という点で、英語と類似する。日本語を英語のみならず、中国語を加えた比較を通して分析することは、こうした意味で非常に興味深い。

最後に、本稿では、母語が異なる英語・中国語・日本語学習者コーパスにみられる誤用類型の相違についても論じた。学習者コーパスの研究は、学習者の母語の特質を検証可能な貴重なデータであり、学習者の母語にねざした効率的な言語教育研究にも大きく貢献する。学習者コーパス研究が、新しい学問領域として大きく研究が進むことを期待して筆をおきたい。

## 使用コーパス

1. 《汉语动词-结果补语搭配词典》1987. 王砚农・焦群・庞颀编. 北京语言学院出版社.
2. 北京大学中国語学研究中心 CCL コーパス.

3. 《現代汉语述补结构用法数据库》2009. 早稲田大学砂岡和子研究室・北京大学中文系詹卫东研究室・東京外国語大学望月圭子研究室共同制作。中国語の複合動詞オンライン辞典。  
<http://ccl.pku.edu.cn/vc/>
4. 東京外国語大学 GCOE 「日本語学習者言語コーパス」  
<http://cblle.tufts.ac.jp/lc/ja/index.php?menulang=ja>
5. 東京外国語大学 GCOE 「日本語誤用オンライン辞書」  
<http://cblle.tufts.ac.jp/lc/ja/index.php?menulang=ja>
6. 東京外国語大学国際日本研究センター 「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」  
<http://sano.tufts.ac.jp/lcshare/htdocs/?lang=japanese>
7. 東京外国語大学・国立台湾師範大学・上海外国語大学共同制作  
'Learners' Error Corpora of English Searching Platform'  
[http://ngc2068.tufts.ac.jp/corpus\\_eng/](http://ngc2068.tufts.ac.jp/corpus_eng/)
8. 東京外国語大学・国立台湾師範大学共同制作  
'Learners' Error Corpora of Chinese Searching Platform'  
[http://ngc2068.tufts.ac.jp/corpus\\_ch/](http://ngc2068.tufts.ac.jp/corpus_ch/)

## 参考文献

- アンドレア・タイラー, ビビアン・エバンズ著, 国広哲弥監訳, 木村哲也翻訳. 2005. 『英語前置詞の意味論』 研究社.
- 青木博史 (2003) 「複合動詞の歴史的变化」 影山太郎編. 2013. 『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』 ひつじ書房.
- Cheng, Lisa Lai-Shen and C.T. James Huang. 1994. "On the Argument Structure of Resultative Compounds", *In Honor of William S-Y. Wang: Interdisciplinary Studies on Language and Language Change*. 187-221. Pyramid Press, Taipei.
- Huang, James C.T. 2006. "Resultative and Unaccusatives: a Parametric View" 『中国語学』 234号, 1-43. 日本中国語学会.
- 池上嘉彦. 1981. 『「する」と「なる」の言語学－言語と文化のタイポロジーへの試論』 大修館書店.
- 池上嘉彦. 2006. 『英語の感覚・日本語の感覚』 NHK ブックス. NHK 出版.
- 池上嘉彦. 2007. 『日本語と日本語論』 筑摩書房.
- 姫野昌子. 1999. 『複合動詞の構造と意味構造』 ひつじ書房.
- 石井正彦. 2007. 『現代日本語の複合語形成論』 ひつじ書房.
- 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』 ひつじ書房.
- 影山太郎. 1996. 『動詞意味論－言語と認知の接点』 くろしお出版.
- 影山太郎. 2004. 『ケジメのない日本語』 岩波書店.
- 影山太郎. 2005. 「辞書の知識と語用論的知識－語彙概念構造とクオリア構造の融合にむけて」 影山太郎編 『レキシコンフォーラム No.1』 : 65-101. ひつじ書房.
- 影山太郎編. 2013. 『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』 ひつじ書房.
- Levin, Beth. 1993. *English Verb Classes and Alternations*. University of Chicago Press.
- Levin, Beth, and Malka Rapaport Hovav. 1995. *Unaccusativity: At the Syntax-Lexical Semantics Interface*. Cambridge: MIT Press.
- 梁银峰. 2007. <论汉语动补复合词的词汇化过程> (『中国語動詞 - 補語複合語の語彙化過程』) 上海: 学林出版社.
- 陆俭明. 1990. <“VA了”述补结构语义分析> <汉语学习> 1990年第1期.
- 陆俭明. 2001. <“VA了”述补结构语义分析补义> <汉语学习>. 2001年第6期.
- 马真・陆俭明. 1997. <形容词作结果补语情况考察>. <汉语学习>. 1997年1,4,6期.
- 望月圭子. 1990a. 「日・中両語の結果を表す複合動詞」 『東京外国語大学論集』 第40号、13-27.
- 望月圭子. 1990b. 「動補動詞の形成」 『中国語学』 237 : 128-137. 日本中国語学会.

- 望月圭子. 1993. 「場所に関わる『に』と『で』 - 中国語との対照から -」『松田徳一郎教授還暦記念論文集』 370-381. 研究社.
- 望月圭子. 1997. 「中国語のパーフェクト相」『東京外国語大学論集 55』 55-71. 東京外国語大学.
- 望月圭子. 2003. 「日本語と中国語における使役起動交替」『松田徳一郎教授追悼論文集』 236-260. 研究社出版.
- 望月圭子. 2004. 『動詞の使動與起動交替: 漢日語的対照研究』 (Causative and Inchoative Alternation: Comparative Studies on Verbs in Chinese and Japanese) 台湾國立清華大學語言學研究所博士論文.
- Mochizuki, Keiko. 2007. "Patient-Orientedness in Resultative Compound Verbs in Chinese." Yuji KAWAGUCHI (et al.), *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*. 267-280. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- 望月圭子・キャロライン狩野. 2012. 「英語・日本語における空間・時間に関わる格標識: 日本語母語話者による英作文学習者コーパスにみられる誤用類型」『東京外国語大学論集』 第 85 号, 219-236.
- 望月八十吉. 1982. 「日本語から中国語を眺める - その 2 -」『日本語と中国語の対照研究』 第 8 号 :1-18. 日本語と中国語対照研究会編.
- 望月八十吉. 1992. 「日・中両国語における能格的表現」, 大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』 49-67. くろしお出版.
- 望月八十吉. 1994. 『現代中国語の諸問題』 好文出版.
- 太田辰夫. 1958. 『中国語歴史文法』 江南書院.
- 斎藤倫明. 2004. 『語彙論的語構成論』 ひつじ書房.
- 沈家煊. 1995. <“有界”与“无界”>《中国语文》第 5 期. 367-380.
- 申亜敏. 2005. 「中国語の自他と結果表現類型」影山太郎編『レキシコンフォーラム No.1』 229-237. ひつじ書房.
- 申亜敏. 2007. 「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」影山太郎編『レキシコンフォーラム No.3』 pp.195-227. ひつじ書房.
- 申亜敏. 2009. 『中国語結果複合動詞の意味と構造—日本語の複合動詞・英語の結果構文との対照及び類型的視点から—』 東京外国語大学博士論文.
- 申亜敏・望月圭子. 2009. 「中国語の結果複合動詞—日本語の結果複合動詞・英語結果構文との比較から」小野尚之編『結果構文のタイポロジー』 407-450. ひつじ書房.
- Tai, James H-Y. 1984. 'Verbs and Times in Chinese: Vendler's Four Categories' *Lexical Semantics*, Chicago Linguistic Society.
- Tai, James H-Y. 1985. "Temporal sequence and Chinese word order" In John Haiman (ed.), *Iconicity in Syntax*:49-72, Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- Tai, James H-Y. 2003. 「認知相對論: 漢語結果複合動詞的啟示」『語言暨語言學』 第四卷, 第二期 :301-316, 中央研究院.
- Talmy Leonard. 2000. "A Typology of Event Integration" *Toward a Cognitive Semantics, vol. II: typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, MA: The MIT Press. 213-288.
- 田中茂範・松本曜. 1997. 『空間と移動の表現』 研究社.
- 湯 廷池. 1989. 「詞法與句法的相關性: 漢, 英, 日三種語言複合動詞的對比分析」『漢語詞法句法續集』 147-211. 臺灣學生書局.
- 湯廷池. 1992. 「漢語述補式複合動詞的結構、功能與起源」『漢語詞法句法四集』 95-164. 臺灣學生書局。
- 湯廷池. 2000. 「漢語複合動詞的使動與起動交替」『第七屆中國境內語言暨語言學國際討論論文集』 台灣國立中正大學語學研究所。
- 湯廷池. 2002a. 「漢語複合動詞的使動與起動交替」, 『語言暨語言學』 3 卷 3 期: 615-644。
- 湯廷池. 2002b. 「漢語派生動詞‘-化’的概念結構與語法功能」『中國語文研究』 第 13 期. 9-25. 香港中文大學・北京語言文化大學.
- 湯廷池. 2004. 「漢語動後成分」, 『華語文教學研究』 第一卷第一期, 137-158.
- 寺村秀夫. 1984. 『日本語のシンタクスと意味 II』 くろしお出版.

- 山本清隆 1984. 「複合動詞の核支配」『都大論究』 21, 32-49.
- 王軼群 .2009. 『空間表現の日中対照研究』 くろしお出版 .
- Washio, Ryuichi .1997. “Resultatives, compositionality and language variation”. *Journal of East Asian Linguistics* 6:1-49.
- 徐 丹 .2001. < 从动补结构的形成看语义对句法结构的影响 > 《语言研究》第 2 期 : 5-12. 山西省社会科学院 .
- 吉澤典男 1952. 「複合動詞について」『日本文学論究』 10:pp.32-32-42.
- 由本 陽子 .2001. 「動詞から動詞を形成する語形成における下位範疇化素性の受け継ぎについて」『言語文化研究』 第 27 号 : 453-473. 大阪大学言語文化部・言語文化研究科.
- 由本陽子 .2005. 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』 ひつじ書房 .
- 詹卫东 .2011.< 复合事件的语义结构与现代汉语述结式的成立条件分析 > 《词 - 语界面 - 前沿研究及应用》 北京大学出版社 .

## 注

- 1 東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」プロジェクトおよび科学研究費 基盤研究 (B)「英日中国語ウェブ誤用コーパス構築と母語をふまえた英語・日本語・中国語教授法開発 (2013 年度 -2015 年度, 望月圭子代表)」の援助のもとに構築された東京外国語大学で授業時に執筆された英作文誤用コーパスであり、本研究は、上記二研究プロジェクトの研究成果の一部である。
- 2 中国語においては、形容詞、非対格動詞の区別が明確ではない。例えば、< 累 lei> (疲れる) は、形容詞につく程度副詞 < 很 hen> (とても) がついて < 很累 > (とても疲れている) といえるので形容詞として機能するのに対し、< 我累了 > (私は疲れた) は、非対格動詞とみなせる。
- 3 北京大学中文系・早稲田大学砂岡和子研究室・望月圭子研究室で構築しているオンライン中国語補語辞典 (<http://ccl.pku.edu.cn/vc/>)
- 4 詹 (2011) は、この評価型複合動詞を“主観評価型”結果複合動詞と呼んでいる。また、陸 (1990, 2001) 及び馬・陸 (1997) は、「～過ぎる」に当たる中国語の評価型複合動詞を、‘偏离义’ (逸脱の意味) を持つ複合動詞として、< 买贵 mai-gui> (買った結果、値段が高過ぎた)、< 吃多 chi-duo> (食べ過ぎる)、< 来早 lai-zao> (来るのが早すぎる)、< 起晚 qi-wan> (起きるのが遅すぎる)、< 挖浅 wa-qian> (掘った穴が浅すぎる) 等の例を挙げている。
- 5 2006 年度から 2008 年度にわたり東京外国語大学外国語学部日本課程留学生 1,2 年生が授業時に執筆した作文を添削し、誤用パターン別に分類した資料である。平成 19 年度～22 年度科学研究費助成基盤研究 A・「多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスに基づく言語運用の研究と教育への応用」(研究代表者川口裕司、科研費 No.19202015) の助成を受けている。
- 6 科学研究費 基盤研究 (B)「英日中国語ウェブ誤用コーパス構築と母語をふまえた英語・日本語・中国語教授法開発 (2013 年度 -2015 年度, 望月圭子代表)」の助成により、東京外国語大学中国語専攻の授業時に執筆された中国語学習者コーパスに基づく誤用コーパス。
- 7 但し、類別詞である助数詞「-本」が、決められた路線を走る機能として捉えられる場合、類似の認知が起こる。
  - a. 寝坊をして、電車一本のがしてしまった。
  - b. このあたりは混むから、電車一両、前の車両に乗ろう。

の「電車一本」では、運行されている交通機関としての「電車」への認知として、やはり「路線図」がイメージされ、「細長いもの」から「移動の経路」へと意味拡張した「-本」が用いられる。一方、b. の「電車一両」では、物体としての電車が、両輪をもつという認知から「両」が用いられる。

また、助数詞「-本」は、通信関係にも用いられ、「情報の移動経路」としての認知スキーマが関係している。

  - c. 電話を一本かけた。
  - d. 手紙を一本書いた。

- 8 中国語の類別詞「量詞」< 张 zhang> も ON 概念で、机・ベッドは、機能面が ON として把握されるため < 张 > と共起するが、日本語では、机・ベッドは「大きなもの」という BIG 認知で、数量詞「-台」と共起し、「量詞」< 张 > の習得に時間がかかる。
- 9 中国語の類別詞は非常に豊富な体系をもつが、ここでは、“一个 yige” を数量詞の代表として記載する。
- 10 臺灣師範大學國語中心で中国語を学ぶ英語母語話者が執筆した中国語作文 600 作文で、CEFR で A2,B1,B2 レベルの台湾教育部中国語検定試験 TOCFL の試行版による。提供して下さった陳浩然教授、張莉萍教授に感謝申し上げます。

## **Unboundedness in Japanese Lexicon:**

### Comparative Analysis of Compound Verbs in Chinese and Spatial Lexicon in English

Keiko Mochizuki

(Tokyo University of Foreign Studies)

YaMing Shen

(Waseda University)

Keyword: Unboundedness, VV compound verbs, Spatial Lexicon, Comparative Analysis with English and Chinese, Individuality, Learners' Corpora

This paper focuses on “Unboundedness” in Japanese lexicon by comparing Japanese VV compound verbs with Chinese VV compound verbs and examining misuses of spatial prepositions “in/on/at” in “TUFS Sunrise Learners' Corpus of English”. We propose two pieces of evidence for unboundedness in Japanese in terms of temporal and special lexicon.

First, in terms of temporal viewpoint, we discuss that Japanese VV compound verbs have no aspectual constraint while Chinese VV compound verbs have strong constraint that V2 should be telic. This claim can explain why Japanese learners of Chinese make frequent errors in lack of V2 in Chinese compound verbs and Chinese learners of Japanese find difficulty in atelic inchoative/durative V2 in Japanese like “-kakeru” (start to ˆ), “-tsuzukeru” (continue to ˆ). We exemplify these phenomena by offering misused examples in our TUFS learners' corpora of Japanese/Chinese.

Second, in terms of spacial viewpoint, we discuss that spatial unboundedness is prominent in Japanese lexicon compared with English and Chinese. This claim can explain why Japanese learners of English and Chinese find difficulty in “in /of”, “in/on/at” in English and “Noun+ 上 shang(on)” in Chinese. We exemplify these phenomena by offering misused examples in our TUFS Japanese learners' corpora of English/Chinese.

# 「～あがる／～あげる」 中国語への翻訳における語彙・表現選択に見られる傾向性

張正

東京外国語大学 大学院総合国際学研究所

## 概要

本稿は、「～あがる／～あげる」を後項動詞とする日本語複合動詞30語（53文）について中国語への翻訳を試みた。その翻訳過程を通じ、上昇という空間経路表現の表す意味が、日本語と中国語でどのように共通し、いかに違うのかを訳出実証的に検討した。

上昇という空間内の位置変化を表す「V1+あがる／V1+あげる」は、ほぼ直訳的に「V1起 (qi)」「V1上 (shang)」として中国語に翻訳できる。さらに両者とも「移動様態動詞+移動方向動詞」という構造をとる。アスペクト的な意味である完了・完成を表す「V1+あがる／V1+あげる」は、日本語では、結果状態を表し、結果状態に対して「知覚視点の評価」と「心理視点の評価」が認められる（形態的に区分しない融合型）。それに対して、中国語の結果複合動詞は両者を形態的に区分し、（知覚的に分る）産出物を伴う完成の意味では「～好 (hao)」を選択する。単純に動作完了を述べる場合は「～完 (wan)」を用いる（分析型）。強調（姫野 1999）の意味の場合は、「～あがる」は、中国語では程度補語構造となり、「～あげる」は副詞的な修飾となる。「社会的な行為」とされる意味の場合、中国語で対応する語彙単位で対訳表現を見出すことが難しく、説明的な翻訳文になる。一般に感化的意味を表す語や句の言語間での表現対応は困難だが、複合動詞の訳出実証においても確認できた。

## 1. はじめに

### 1.1. 複合動詞（「～あがる／～あげる」）の訳出実証

訳出実証した後項動詞が「～あがる／～あげる」である日本語複合動詞（以下、複合動詞）は、資料「日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料 ver.1」（小柳 2017）に挙げる。複合動詞を含む日本語文と語義を参照し、語義で表す意味をできるだけ正しく表現するよう中国語で翻訳を行った。なお、日本語は動詞が活用し、そのうち2つの連用形態には動詞が直接後続する。動詞が連用形を介して複合していると形態論的には解釈できる。以下では簡便に中国語の統語構造を含む語形成について説明する。

### 1.2. 中国語の統語構造と語形成手段

本節では、中国語の複合動詞全体像と、結果複合動詞の位置づけを示しておきたい。

まず、中国語の統語構造を簡単に触れておきたい。中国語はSVO言語である。動詞の前に置かれる統語成分は、主語、副詞成分、前置詞句が挙げられ、動詞の後ろに置かれる統語成分は目的語、補語、モダリティを表す終助詞である（望月・申 2011）。中国語複合動詞の語形成においても、統語構造の特徴が反映されている。

中国語の複合動詞の語形成手段について、湯（1991）は、中国語の複合動詞が編入（incorporation）により形成されると述べている。編入は、語（word）や句（phrase）が再分析（reanalysis）より、他の語や句に結合する（adjoin）という（湯（1991:2））。形成レベルからいうと、複合語内部で語彙的編入（lexical incorporation）と語とフレーズの間で起こる統語的編入（syntactic incorporation）の二つのレベルがある。また、構成要素からいうと、名詞を主要部（head）とするものもあり、動詞を主要部とする

ものもある。中国語の複合動詞の種類について、湯（1991:2-34）は、その内部構造から、以下のように分類している<sup>1</sup>。

- (1) a. 「動詞+目的語」型 (verb-object compound verb) (左側主要部 (left-headed))
  - 种地 zhong-di (土地を耕す)
  - 睡觉 shui-jiao (眠る)
  - 结婚 jie-hun (結婚する)
- b. 「修飾語+動詞」型 (modifier-head compound verb) (右側主要部 (right-headed))
  - 迟到 chi-dao (遅刻する)
  - 热爱 re-ai (熱愛する)
  - 合唱 he-chang (合唱する)
- c. 「主語+述語」型 (subject-predicate compound verb) (左側主要部)
  - 面熟 mian-shu (顔をよく知っている)
  - 头疼 tou-teng (頭が痛い)
  - 胆小 dan-xiao (気が小さい)
- d. 「動詞+(結果)補語」型 (verb-complement compound verb) (左側/右側主要部)
  - 打开 da-kai (力を加えて/力が加わって)開く)
  - 缩小 suo-xiao (縮めて{小さくする/小さくなる})
  - 学会 xue-hui (学んで何かができるようになる)
- f. 「並列複合動詞」型 (coordinate compound verb) (二重主要部 (double-headed))
  - 发生 fa-sheng (発生する)
  - 动摇 dong-yao (動揺する/動揺させる)
  - 发展 fa-zhan (発展する/発展させる)

この5種類の複合動詞のうち、「動詞+(結果)補語」型複合動詞が結果複合動詞であり(以下、結果複合動詞)、Vendler (1967) で提示している英語動詞四分類の達成 (accomplishment) のクラスに相当するものである。結果複合動詞の事象構造に関して、Tai (1985) が提示している時間順序規則 (Principle of Temporal Sequence) と合致しており、「前項述語が原因事象または時間的に先に起こった先行事象を表し、後項述語が結果事象を表す」(申 2009:6) というスキーマにのっとって意味解釈が可能である。今回の「～あがる/～あげる」複合動詞中国語への翻訳調査においては、訳語に頻繁に出現している「V1起 (qi)」、「V1上 (shang)」、「V1完 (wan)」、「V1好 (hao)」などがこの結果複合動詞の類に属するものである。

### 1.3. 参照した「～あがる/～あげる」意味分類

姫野 (1999) は「あがる/あげる」が後項動詞として機能するときの意味用法により、「～あがる」を、1) 上昇、2) 完了・完成、3) 強調、4) 増長、5) 尊敬語の五種類に分け、「～あげる」を、1) 上昇、2) 社会行為、3) 体内の上昇、4) 強調、5) その他に分類している。佐野 (2017) は、後項動詞の「あがる/あげる」が経路表現か時間表現かにより、大きく「空間移動」と「結果状態」の二つに分けている。「結果状態」はさらに、1) 完了 (結果状態を作り、動きの前後関係を表す)、2) 目的 (結果状態に至る)、3) 認識 (結果状態を表す) に区分され、認識はさらに「知覚」と「評価」に分かれている (佐野 2017:1)。下記の表1では、佐野 (2017) と姫野 (1999) の分類の比較を挙げる。

表1 佐野 (2017) と姫野 (1999) の「～あがる」複合動詞分類の比較

～あがる	姫野 (1999)	佐野 (2017)
跳び上がる	上昇	空間移動

<sup>1</sup> 中国語複合動詞の例語に対する日本語訳は申 (2009:4)、望月・申 (2016:49) を参照する。

駆け上がる	上昇	空間移動
繰り上がる	上昇	空間移動
勝ち上がる	上昇	空間移動
立ち上がる	上昇<抽象化> (始動)	空間移動 結果状態 (認識、感化的) 結果状態 (認識)
盛り上がる	上昇<抽象化>	空間移動 結果状態 (認識、感化的)
捲れ上がる	上昇	空間移動
秃げ上がる	上昇	空間移動
付け上がる	増長	結果状態 (感化的)
震え上がる	強調	結果状態 (感化的)
召し上がる	尊敬	結果状態 (認識、上下関係のマッピング)
仕上がる	完成	結果状態 (完了)
炊き上がる	完成	結果状態 (完了)
腫れ上がる	完了	結果状態 (完了)

(佐野 2017:3)

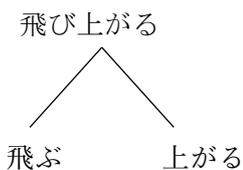
表2 佐野 (2017) と姫野 (1999) 「～あげる」複合動詞分類の比較

～あげる	姫野 (1999)	佐野 (2017)
持ち上げる	上昇<抽象化>	空間移動 結果状態 (認識、感化的)
打ち上げる	上昇	空間移動
追い上げる	上昇	空間移動
見上げる	上昇	空間移動
切り上げる	上昇 (終結)	空間移動 結果状態 (認識)
積み上げる	上昇<抽象化>	空間移動 結果状態 (認識、感化的)
巻き上げる	上昇 (完了) (社会的行為)	空間移動 結果状態 (完了) 結果状態 (認識、感化的)
刈り上げる	上昇 (完了)	空間移動 結果状態 (完了)
申し上げる	社会的行為	結果状態 (認識、上下関係のマッピング)
取り上げる	(上昇) 社会的行為<抽象化>	空間移動 結果状態 (目的) 結果状態 (認識、目的)
込み上げる	体内の上昇	結果状態 (認識、感化的)
縛り上げる	強調	結果状態 (認識、感化的)
読み上げる	その他 (完了)	結果状態 (完了)
作り上げる	完了	結果状態 (目的)
調べ上げる	完了	結果状態 (完了)
勤め上げる	完了	結果状態 (完了)

(佐野 2017:4-5)

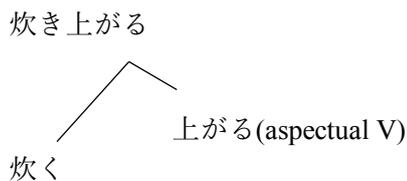
影山 (2013) では、日本語の語彙的複合動詞の新体系として、項動詞V2が項関係 (格関係) を決定するかどうかどうかという意味・機能の基準により、「主題関係複合動詞」と「アスペクト複合動詞」の2つのタイプに分類している。主題関係複合動詞としての「～あがる／～あげる」は、V1V2が二つの独立した事象を統合したものである。意味解析について、動作様態を表す関数(WHILE)などを想定した分析一般的である (影山1993、由本2005など)。これに対して、アスペクト複合動詞としての「～あがる／～あげる」は、V1のLCS全体にV2のアスペクト概念が補足され、完了や強調などの意味を与えられる。

(2) 主題関係複合動詞



V1がV2を修飾する

(3) アスペクト複合動詞



V2がV1を修飾する

影山 (2013) で提唱している体系を従い「～あがる／～あげる」複合動詞を以下のように整理できる。

(4) 主題関係複合動詞としての「～あがる／～あげる」

－移動方向を表す

- a. 男の子は足元にへビがいるのを見て、思わず飛び上がった。
- b. 二人たんすを持ち上げて隣の部屋に運んだ。

(5) アスペクト複合動詞としての「～あがる／～あげる」

－完了(completive)を表す

- a. この炊飯器を使えば、ご飯がおいしく炊き上がる。
- b. 台風が過ぎて、空がからっと晴れ上がった。
- c. 一つのをみんなで作り上げることに大きな意義があると思う。
- d. 彼は会社を定年まで無事に勤めあげた上げた。

－変化結果の強調(resultative)を表す

- e. 一步外に出ると、あまりの寒さに震えあがった。
- f. 強盗は警備員をロープで縛り上げて、金品を奪って逃げた。

－社会的アスペクトを表す

- g. どちらの料理を召し上がりますか。
- h. 毎度お買い上げいただきありがとうございます。

主題関係複合動詞の「～あがる／～あげる」とアスペクト複合動詞の「～あがる／～あげる」は、意味的にそれぞれ佐野 (2017) で提唱していた「空間移動」と「結果状態」の意味分類と対応している。本稿は姫野 (1999)、佐野 (2017)、影山 (2013) を踏まえ、「～あがる／～あげる」複合動詞の分類を下記表3のように再整理する。

表3 「～あがる／～あげる」複合動詞再分類

複合動詞種類	意味 (上位)	意味 (下位)	複合動詞
--------	---------	---------	------

主題関係複合動詞	空間移動	具象	飛びあがる 持ちあがる
		抽象	勝ちあがる 繰りあがる
アスペクト複合動詞	結果状態	完了 (completive)	炊きあがる 書きあげる 晴れあがる 売りあげる
		強調 (resultative)	震えあがる 縛りあげる
		社会	召しあがる 申しあげる

以下の章では、例を挙げながら、各類の複合動詞「～あがる／～あげる」に対する中国訳における語彙や表現の選択の有り様と中国語結果複合動詞との対応性についてその分析を試みる。

## 2. 「～あがる／～あげる」に対応する中国語

### 2.1. 空間移動

空間的上昇を表すグループの「～あがる／～あげる」複合動詞の前項動詞は移動様態を表す場合が多い。このグループの語を中国語に訳すと、ほぼ「V1起qi (来lai)」、「V1上shang」に訳すことが可能である。

#### (6) 「～あがる」複合動詞

##### a. 複合動詞：飛びあがる

中国語訳：<跳起来 (tiao-qilai) >

例文：男の子は足元にへビがいるのを見て、思わず飛びあがった。

中国語訳：那个男孩看到脚边有条蛇，一下子跳了起来。

##### b. 複合動詞：駆けあがる

中国語訳：<跑上 (pao-shang) >

例文：彼は3階まで階段を一気に駆けあがった。

中国語訳：他一口气跑上了三楼。

##### c. 複合動詞：立ちあがる

中国語訳：<站起 (zhan-qilai) >

例文：彼女はゆっくりいすから立ちあがった。

中国語訳：她慢慢地从椅子上站起。

#### (7) 「～あげる」複合動詞

##### a. 複合動詞：持ちあげる

中国語訳：<抬起 (tai-qi) >

例文：二人でたんすを持ちあげて隣の部屋に運んだ。

中国語訳：两个人抬起了衣柜，搬到了隔壁房间。

##### b. 複合動詞：追いあげる

中国語訳：<追上 (zhui-shang) >

例文：本命馬が先頭に追いあげてきた。

中国語訳：最有可能取胜的马追上了先头。

まず、訳語で出現している「V1起」「V1上」について説明しておきたい。この二つは(1d)の結果複合動詞<sup>2</sup>に属するものである。本動詞の「起」は上方向移動を表す動詞である。上昇の意味で後項動詞として機能する場合、結合する前項動詞は1) 移動様態を表す非能格自動詞、2) 身体部分を動かす他動詞、

<sup>2</sup>～起 (qi)、～上 (shang) は「方向補語」と名付ける分類もあるが(劉 1998; 陸 1992など)、本稿では位置変化も一種の「結果」と認め、湯 (1992) に従い、広い意味での「結果複合動詞」とする。

3) 位置変化させる他動詞が挙げられる(劉 1998)。後項動詞「～起」は動作主や対象物の位置変化を表す。以下LCS分析を用いて、上昇を表す「V1起」の意味構造を分析する。

(8) 「V1起」

a.  $V1 = V_i$  「V1起」 =  $V_i$  : 跳起 zhan-qi (飛びあがる)

例文：他(高高地)跳起。

[[ $x_i$  ACT] CONTROL [BECOME [ $y_i$  BE AT <state>]]]

他	跳		他	起
彼	飛ぶ		彼	あがる

b.  $V1 = V_t$  「V1起」 =  $V_e$  : 仰起 yang-qi ((顔を)上に向ける / (顔が)上に向く)

例文：他仰起脸。

[[ $x$  ACT on  $y_i$ ] CAUSE [ $y_i$  BECOME [BE AT <state>]]]

他	仰	脸	脸	起
彼	仰ぐ	顔	顔	あがる

c.  $V1 = V_t$  「V1起」 =  $V_t$  : 搬起 ban-qi (持ちあげる)

例文：他搬起桌子。

[[ $x$  ACT on  $y_i$ ] CAUSE [ $y_i$  BECOME [BE AT <state>]]]

他	搬	桌子	桌子	起
彼	持つ	机	机	あがる

(8a) の $x_i$ と $y_i$ が、上位事象の外項と下位事象の内項が同一指示であると示す。意志的なコントロールが入っているが、使役的な意味がないので、CONTROLで連結する。(8b)と(8c)のLCS構造が同じであるが統語機能について、(8c)は使役の用法しか取らず、(8b)は使役起動交替(causative-inchoative alternation)がしばしば起こる(例：仰起脸-脸仰起、抬起腿-腿抬起、直起身子-身子直起など)。次に「V1上」を同じようにLCS分析を行う。上方向移動を表す「V1上」は、V1が基本的に1)移動様態を表す非能格自動詞、2)位置変化させる他動詞。後項動詞の「上」は動作主や対象物の位置変化を表す。

(9) 「V1上」

a.  $V1 = V_i$  「V1上」 =  $V_i$  : 跑上 pao-shang (駆けあがる)

例文：他跑上三楼。

[[ $x_i$  ACT] CONTROL [BECOME [ $y_i$  BE AT <state>]]]

他	跑		他	上三楼
彼	走る		彼	三階へあがる

b.  $V1 = V_t$  「V1上」 =  $V_t$  : 搬上 ban-shang (持ちあげる)

例文：他把货物搬上车。

[[ $x$  ACT on  $y_i$ ] CAUSE [ $y_i$  BECOME [BE AT <state>]]]

他	搬	货物	货物	上车
彼	運ぶ	荷物	荷物	車にあがる

(9ab)が(8ac)と同じLCS構造にあるが、上方向移動を表す「V1上」の後ろに常に斜格(oblélique case)の名詞句が置かれる。これは「V1起」との違いである。また、(3b)に関して、つまりもの上昇させる場合は、反受身(anti-passive)の「把(ba)構文」にしなければならない。

以上の考察から、上昇を表す「V1起」と「V1上」はV1、V2ともに項関係を持ち、V2が移動方向、V1が移動様態を表し、V2を修飾する。影山(2013)での「主題関係複合動詞」と同じような振る舞いを示している。

## 2.2. 結果状態

### 2.2.1. 完了

完了グループの「～あがる／あげる」は、前項動詞が産出動詞であるか否かによって、さらに区分できる。まず「産出」グループを見よう。このグループの複合動詞を中国語に訳すとき、ほぼ「V1好hao」や「V1完wan」などに訳すことができる。前項の産出を表すV1がほぼそのまま中国語の産出を表すV1に移している。しかし「～あがる／～あげる」の「動作の時間軸における完成段階への移動」(王 2014:) という意味合いが中国語V2の結果補語には反映されない。

#### (10) 「～あがる」複合動詞

##### a. 複合動詞：炊きあがる

中国語訳：<煮完 (zhu-wan) / 煮好 (zhu-hao) >

例文：ご飯が炊きあがるのに30分くらいかかる。

中国語訳：煮好米饭大约要花30分钟时间。

##### b. 複合動詞：仕あがる

中国語訳：<做完 (zuo-wan) / 做好 (zuo-hao) >

例文：何度も修正して、ようやく作品が仕あがった。

中国語訳：经过多次修改，作品终于做完/做好了。

#### (11) 「～あげる」複合動詞

##### a. 複合動詞：書きあげる

中国語訳：<写完 (xie-wan) / 写好 (xie-hao) >

例文：論文を一気に書きあげる。

中国語訳：一口气写完论文/一口气写好论文。

##### b. 複合動詞：洗いあげる

中国語訳：<洗完 (xi-wan) / 洗好 (xi-hao) >

例文：白いものをスッキリ洗いあげた。

中国語訳：白色的衣物干干净净地洗好了。

中国語の「V1完」について、「V1完」の「完」は文法化がかなり進んでいった。動相標示 (phase-marker) となっている。前項動詞V1は他動詞であり、後項動詞の「完」は前項動詞を修飾し、動作の完了を表す。下記のようなLCS構造として分析する。

#### (12) 「V1完」

V1 = V<sub>t</sub> 「V1完」 = V<sub>t</sub> : 写完 xie-wan (書き終える)

V1のLCS : e<sub>1</sub> (便宜上e<sub>1</sub>を表記する)

V1完のLCS :

e<sub>1</sub> BECOME [e<sub>1</sub> BE AT <ACCOMPLISHMENT>]]]

(12)は「書く」という先行事象 (e<sub>1</sub>) が完成・完了の状態になることを表している。V1の事象が「完」のLCSの中に融合されている。文の項関係は基本的にV1によって決まる。単独にV1で「写论文 xie lunwen」と言えるが、単独のV2で「\*完论文 wan lunwen」と言えない。

「V1好」に関しては、前項動詞V1は他動詞である。後項の「好」は形容詞で前項動詞を修飾する。複合動詞全体の意味は「動作が完了し、かつ良い結果状態にある」を表す。

#### (13) 「V1好」

V1 = V<sub>t</sub> 「V1好」 = V<sub>t</sub> : 写好 xie-wan (書きあげる)

V1のLCS : e<sub>1</sub>

V1好のLCS：

e<sub>1</sub> BECOME [e<sub>1</sub> BE AT <GOOD STATE>]]]

(13) は (12) と同じような構造になっている。違うのは、「好」はGOOD STATEという心理的な評価が入っている。一方「完」はただACCOMPLISHMENTという観察的な評価を表す。日本語の「V1あがる/V1あげる」との対訳からみると、基本的に「V1完」や「V1好」両方とも訳すことができるが、話者が産出物に対してポジティブな評価が入っている場合「V1好」を選択する。

意味関係について、「V1完」と「V1好」は、後項にある結果述語がV1に対してアスペクト的意味を付け加える。アスペクト複合動詞であると考えられる。統語機能に関して「Vししばしば「論文写完了／論文写好了」自動詞用法のような振る舞いがみられるが、実はここで音韻形式がない代名詞（ゼロ代名詞（small pro）が暗黙的動作主（implicit agent）として主語の位置に立っている。つまり「論文写完了／論文写好了」は「論文pro写完了／論文pro写好了」となっている。

「産出」の完了以外に「～あがる」には「自然現象」の完了を表すものもある。自然現象の完了を表す「～あがる」は中国語へ訳すとき「副詞+V1」に訳すことが多い。

(14) a. 複合動詞：晴れあがる

中国語訳：<完全放晴（wanquan fangqing）>

b. 複合動詞：干あがる

中国語訳：<完全干涸（wanquan ganhe）>

c. 複合動詞：澄みあがる

中国語訳：<非常清澈（feichang qingche）／意識：清澈见底（qingche jiandi）>

「～あがる」には活動の完了を表すものもある。意味により、中国語結果複合動詞へ翻訳できないものと翻訳できるもののバリエーションで出てくる。

(15) 結果複合動詞への翻訳不可能

a. 複合動詞：勤めあげる

中国語訳：工作到退休（定年まで職務をきちんと果たす）

b. 複合動詞：数えあげる（一つ一つ数える）

中国語訳：一一数出来／列举／枚举（一つ一つ並べて数える）

c. 複合動詞：売りあげる（代金総額を売りあげる）

中国語訳：销售总额达到...（売った品物の代金総額が...になる）

(16) 結果複合動詞への翻訳可能

a. 複合動詞：数えあげる（数え終わる）

中国語訳：数完（shu-wan）／清点完（qingdia-wan）

b. 複合動詞：売りあげる（全部売る）

中国語訳：卖完（mai-wan）

例 (15a) の「勤めあげる」は、一か所に定年するまで勤め続けることをよしとする日本人の職業観を反映していると言えよう（姫野（1999:50）より）。日本語独特な表現とは思われ、翻訳するの難しいであろう。例 (16ab) は、「し終わる」の意味を取る場合に結果補語への翻訳が可能となる。それに、「産出」で議論した「観察的な評価」と「心理的な評価」との違いが反映している。(16ab) では、「～好」や他のポジティブな意味合いが入っている結果補語に訳すことができない。やはり産出物が出ないかぎり心理的に評価するのができないではないかと考える。

### 2.2.2. 強調

まず「～あがる」から見よう。強調の「～あがる」複合動詞グループでは、前項動詞が生理・心理状態動詞であるものが多い。このグループの動詞を中国語に訳す時、ほぼ「～得 (de) ～」の「得」構文に当てはまることができる。

#### (17) 強調を表す「～あがる」複合動詞

a. 複合動詞：震えあがる

中国語訳：冻得发抖／吓得发抖

冷える-de-震える／恐る-de-震える

b. 複合動詞：すくみあがる

中国語訳：吓得缩成一团

恐る-de-縮める

「得」構文に関して、J. Huang 1988: 274や Li 1990: 43では、「得」構文は次の2種類に分類されている。

#### (18) a. 描写的表現 (descriptive expression)

他跑的很快。(彼は走るのがはやい)

#### b. 結果的表現 (resultative expression)

他跑得很累。(彼は走って疲れた)

(18a) は、「補語が「得」の前に置かれる中心語を説明し、動作、状態の状況を表しているもの (李 1993:191)」である。(18b) は「補語が「得」が前の中心語と関係するとともに、主語とも関係し、主語の状態を表すもの (李 1993:193)」である。強調を表す「～あがる」に対応する中国語訳が全て「結果的表現」に属すものである。

次に「～あげる」の場合。強調の「～あげる」複合動詞の前項動詞が、「～あがる」のほうとは違い、動作様態を表すのである。中国語に訳す時、ほぼ「副詞V1」になる。「あがる」が「副詞」として語彙の意味を具現化する。

#### (19) 強調を表す「～あげる」複合動詞

a. 複合動詞：縛りあげる

中国語訳：紧紧地绑住 (しっかりとしばる)

b. 複合動詞：褒めあげる

中国語訳：一个劲地夸 (さかんにほめる)

以上、2.2.1. から2.2.2. までは「翻訳可能」なものを検討してきた。最後に「翻訳不可能」なものについて簡単に触れたいと思う。

### 2.2.3. 「翻訳不可能」なもの

序列の上昇や地位の上昇を表すもの、いわば抽象的な上昇を表す場合、中国語訳では一つの語や一つの構造で収まることが難しく、多くの場合に説明的な文になってしまう。

まず、序列の上昇を表す「繰りあがる」をみよう。「繰りあがる」は「比喩的に糸を繰るような動きによって時間が予定より早くなる、順番が前に移動する」という解釈になっている。中国語においては、そもそも「糸を繰るような動きによって早くなる」という発想が存在しないので、翻訳するのがなかなか困難である。また「繰りあがる」の「あがる」の意味だが、中国語に反映すると、おおよそ「提前」や「递进」のように「横軸」での展開になる。

地位の上昇の「勝ちあがる」は「勝って次の (／上の) 段階へ進む」という解釈になっている。中国語においては、確かに「うえ」とう概念が「上位」や「よし」などのプラスイメージに結びついている

が、意味的な制約で「勝つ」と「上方向移動動詞」との結びつきがなかなかできない。しいて一語で訳すと、「勝ちあがる」を「贏下去」に訳すのがある程度で適切だと思う。「下去 (xia-qu)」（下の方へ行く）は、補語として「順調に進行している」というアスペクト的な意味がある。「上へのぼる」よりは「下へさがる」のほうが容易に、順調に進めるという発想ではないかと考えられる。

尊敬・社会行為を表すもの、「召しあがる」「申しあげる」「取りあげる」などが、日本語独特な「ウチとソト」を表すものであり、翻訳するのが難しく、説明的な文となる。

### 3. まとめ

#### 3.1. 訳出傾向

1.3で提示している「～あがる／～あげる」分類と各分類と対応する中国語訳を表4にまとめた。

表4

複合動詞種類	意味（上位）	意味（下位）	中国語訳パターン
主題関係複合動詞	空間移動	具象	[V1上]／[V1起]
		抽象	—
アスペクト複合動詞	結果状態	完了	[V1好]／[V1完]／[advV1]
		強調	[advV1]／[～得～]
		社会	—

注意しておきたいのは、上記で示している諸例はあくまで傾向にすぎない。「～あがる／～あげる」複合動詞が必ず上記のように中国語訳では結果複合動詞に訳さなければならない訳ではない。また実際の翻訳において、必ず上記のように訳す訳でもない。

#### 3.2. 訳出特徴と今後の課題

具象的空間移動を表す「～あがる／～あげる」はほぼ問題なく「～起」「～上」などの「V1+上方移動動詞」のような中国語結果複合動詞に訳せる。両者とも「移動様態動詞+移動方向動詞」の構造にあり、V1がV2を修飾し、右側主要部構造となる。動詞枠付け型と分類された日本語と付随要素枠付け型である中国語 (Talmy(2000)) は、この点においては、両者の共通点が見られる。また、「V1起」「V1上」は影山 (2013) で提示している「主題関係複合動詞」のものとの対応性がみられる。抽象的空間移動の場合、社会的なものや日本語特有のものが語の意味に入っているため、翻訳し難しく、「V1+移動方向動詞」のように中国語へ訳すことがほとんど不可能である。

完了の「～あがる／～あげる」グループでは、後項動詞の「～あがる／～あげる」に「観察的な評価」と「心理的な評価」が両方共在し、融合型となっている。一方、中国語の結果補語は両者を別々とし、産出物を伴う完成の場合は「～好」を選択し、ただの動作の完了について述べる場合は「～完」を選択する。中国語の結果複合動詞は結果事象に対して、「観察的な評価」と「心理的な評価」という認識の仕方が分析型であると考えられる。また、語形成パターンから見ると、結果複合動詞「～好」「～完」のV1とV2の意味関係は「アスペクト複合動詞」と解釈することができる。

強調の「～あがる／～あげる」グループでは、「～あがる」は中国語「得」構文の結果的表現との対応性がみられる。「～あげる」の方は、中国語に訳すと副詞的な修飾となる。

佐野 (2017) は、言語間の表現対応について、以下の仮説を提示している。

仮説1：空間距離表現（・空間経路表現）と、時間幅表現（・時間経過表現）を合わせた表現分量は一定である。言語間でほぼ等しい。

仮説2：言語によって、「動き」の捉え方の違いから、空間距離表現（・空間経路表現）と時間幅表現（・時間経過表現）に偏りがある。その偏りは機能語（数）に顕れる。

(佐野 2017:1)

本稿の調査において、具象的な空間移動を表す「～あがる／～あげる」は、中国語に翻訳する際、同じような「移動様態動詞＋移動方向動詞」の訳出パターンが出てくる。しかし、時間的な表現を表す「～あがる／～あげる」は、中国語に翻訳する際、「完了」という時間的アスペクトは中国語の「移動動詞」に具現することができず、結果状態を表す結果複合動詞となる。以上、本稿の調査は、ある程度で佐野（2017）の仮説を日本語・中国語との対照から実証したと言える。しかし、本稿の調査は理論的分析や量的調査がまだ不十分であり、今後は現段階での欠点を補うことを課題とする。

[参考文献]

- Huang, C.-T. James. 1988. *Wo paode kuai and Chinese Phrase Structure*. *Language* 64: 274-311.
- 姫野昌子. 1999. 『複合動詞の構造と用法』. ひつじ書房.
- 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』. ひつじ書房.
- 影山太郎 (編). 2013. 『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』. ひつじ書房.
- 李臨定. 1993. (宮田一郎訳) 『中国語文法概論』. 光生館.
- 刘月华 (編). 1998. 『趋向补语通释』. 北京语言大学出版社.
- Li, Y.-H. Audrey. 1990. *Order and Constituency in Mandarin Chinese*. Dordrecht: Kluwer.
- 望月圭子・申亚敏. 2011. 「日本語と中国語の複合動詞の語形成」『漢日語言対比研究論叢第二輯』 2:46-72.
- 小柳昇 (等). 2017. 日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1.
- 申亚敏. 2009. 『中国語の結果複合動詞の意味と構造—日本語の複合動詞・英語の結果構文との対照及び類型的な視点から—』 東京外国語大学博士論文.
- 佐野洋. 2017. 『多言語による複合動詞翻訳プロジェクト』.
- Tai, James H.-Y. 1985. 'Temporal sequence and Chinese word order'. *Iconicity in Syntax*:49-72. ed. by John Haiman. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- Talmy, Leonard. 2000. *Toward a cognitive semantics*. 2 volumes. Cambridge, MA: Massachusetts Institute of Technology.
- 湯廷池. 1991. 「漢語語法的「併入現象」(上)」『清華學報』新21:1-63.
- 湯廷池. 2002. 「漢語複合動詞的「使動與起動交替」」*Language and Linguistics* 3.3:615-644.
- 王秀英. 2014. 「上昇を表す複合動詞の日中対照研—「～上げる」と「～上(shang)」を対象として—」『文化』77(3・4). 東北大学文学会, 53-73.
- 由本陽子. 2005. 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』. ひつじ書房



# 中国語訳から見た「～だす」における日本語と中国語の対応

範 航宇 (ハン コウウ)

東京外国語大学 大学院総合国際学研究所 博士前期課程

## 概要

本稿は後項動詞が「～だす」である複合動詞の中国語訳から、日本語の「～だす」が表す意味が中国語ではどのように表現されるのかについて考察し、またその対応関係をまとめたものである。本稿では、姫野（[姫野昌子, 1999]）の「～だす」の複合動詞の意味分類を従い、「日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1」（小柳2017）（以下、共通資料と呼ぶ）におけるV2が「～だす」である複合動詞の語義を中国語に訳した。またその語義を参照しながら、複合動詞を含む日本語文をなるべく自然な中国語で翻訳を行った。

訳出の傾向としては、空間移動の「～だす」と顕在化の「～だす」は多くの場合、中国語の動補フレーズ<V-出(来/去)>に対応する。なお、開始を表す「～だす」は中国語の句構造や複合動詞の構造で卓越性を示す「先行事象+結果事象」という時間順に反するにもかかわらず、動補フレーズ<V-起(来)>で訳せる。文脈によっては、<开始-V>と変換することができる。翻訳困難なものについての考察も含めて、V1が原因事象・先行事象として、V2を結果事象（状態変化）として捉えられる日本語の複合動詞は中国語の動補フレーズで表現しやすく、それ以外のフェーズについて述べる部分のある複合動詞は表現しにくいと結論づける。

また、中国語が結果状態に良い評価を与えることが多いということ、そして<-出>は顕在化だけではなく、より一般的な結果を表すことも可能であることから中国語の動補フレーズ<-出>の表現上の特徴についても少し触れた。これらのことから中国語は結果重視言語で結果事象に焦点を置いていることがある程度検証されると考えられる。

## 1. はじめに

### 1.1. 中国語補語と日本語複合動詞

影山（[影山太郎, 1993]、[影山太郎, 2013]）は、複合動詞の語形成や前項動詞と後項動詞（以下、V1とV2と呼ぶ）の意味関係に焦点をあて、日本語は豊富な複合動詞体系をもつと論じている。

中国語においても、結果補語や方向補語がV2の位置に置かれ、完結相の語彙的アスペクトを表すという複合動詞体系があるが、日中語の複合動詞の体系は異なっており、日本語複合動詞の習得が容易ではないということが多くの先行研究に指摘されてきた。

東京外国語大学・国際日本文化研究センター・多言語による複合動詞翻訳プロジェクトでは、複合動詞の意味が英・中・韓・越・ポーランド語（以下、ポ）で訳され、その結果により言語間の訳語の関係を調査し、各言語におけるモノの空間内の経路表現と状態表現のあり方を明らかにすることを目的としている。本稿はV2が「～だす」である複合動詞の中国語訳から、日本語の「～だす」が表す意味が中国語ではどのように表現されるのかについて考察し、またその対応関係をまとめたものである。

### 1.2. 複合動詞の中国語への翻訳

本稿では、共通資料におけるV2が「だす」である複合動詞の語義を中国語に訳し、また語義を参照しながら、複合動詞を含む日本語文をなるべく自然な中国語で翻訳を行った。日本語の複合動詞は語形成的には中国語の複合動詞とは違うものであるが、意味上の対応性が高いため、訳語として対応する場合が多い。日本語の複合動詞の語形成についてはすでに影山（[影山太郎, 1993]、[影山太郎, 2013]）で論

じられている。次節では中国語の統語構造や中国語の複合動詞の語形成について簡単に説明する。

### 1.3 中国語の統語構造および複合動詞の語形成

本節では、[申亜敏, 望月圭子, 2011]を参照しながら、中国語の統語構造及び複合動詞の語形成について説明する。

中国語の統語構造は、動詞句ではSVO語順で動詞句の主要部である動詞が左にある。(英語と同様) 動詞の前に置かれる統語成分は、①主語、②副詞成分、③前置詞句が挙げられる。次に、動詞の後に置かれる統語成分は、①目的語、②補語(結果補語、方向補語、可能補語、程度補語、数量補語)、③疑問、推量、勧誘等のモダリティを表す終助詞である。そのうち、中国語の統語構造において重要な位置を占め、高い生産性をもつのは「動詞+補語」型(以下、動補フレーズ)である。中国語の補語は表現のバラエティーに富んでいるが、その多くが結果事象を表すものとして捉えられる。「～だす」に関連があるもの挙げると、以下の下線部のようなものがある。

- (1) (結果補語) 选出代表 <代表者を選びだす>
- (2) (結果補語) 找到 <見つける/見つけだす>
- (3) (方向補語) 走出教室 <教室を(歩いて)出る>
- (4) (方向補語) 开发出 <開発する(そして何かの結果が出た)>

湯(1989:151-154)は、中国語の複合動詞を、その内部構造から、以下のように五分類している。

- (5) a. 「動詞+目的語」型 (Predicate-Object Type) :  
种地、结婚、充电、动员
- b. 「動詞+結果補語」型 (Predicate-Complement Type) :  
推开、打破、喊哑
- c. 「副詞+動詞」型 (Modifier-Head Type) :  
迟到、热爱、瓦解
- d. 「主語+述語」型 (Subject-Predicate Type) :  
面熟、头疼、眼熟、性急
- e. 「並列型」 (Coordinative Type) :  
发展、改变、成立、丰富、充实

この五種類の複合動詞のうち、中国語の複合動詞形成において最も卓越性を示し、生産性が高いのは、「動詞+結果補語」型の結果複合動詞である。「出」には、本動詞としての用法と方向補語としての用法がある。補語として用いられる場合、<-出>は方向補語とされているが、意味的に結果補語に転じることが多い。つまり形態的には方向補語であるが、意味的にはV1の結果を表す要素になる。

一方、本動詞として用いられる場合は、統語的な制限が多くある。また、動詞として複合動詞を形成する場合<出-V2>でもV1の位置に置かれることは可能であるが、V2の位置に置かれるのはほとんど目的語であり、さらにその目的語はかなり限定されている。中国語の複合動詞の語形成において、「動詞+結果補語」型が最も卓越性を示しているのが<-出>にも反映されていると思われる。中国語は動詞句の形成においても複合動詞形成においても「先行事象+結果事象」という時間順が最も卓越性を示すと言える。

### 1.4 「～だす」の意味分類

本稿では、[姫野昌子, 1999]の「～だす」複合動詞の意味分類を従い、共通資料におけるV2が「～だす」である複合動詞の語義を中国語に訳した。またその語義を参照しながら、複合動詞を含む日本語文をなるべく自然な中国語で翻訳を行った。

(6) 姫野 (1999) 「～だす」の複合動詞の意味分類

<1> 移動:

①外部、前面、表面への移動: 流れだす 誘いだす

②表だった場への登場: 召しだす 突きだす

<2> 顕在化:

①顕現: 炙りだす 思いだす

②創出: 作りだす 生みだす

③発見: 見つけだす 聞きだす

<3> 開始: 降りだす 笑いだす

次節では、具体例を挙げながら、「～だす」の意味が中国語訳においてどのような表現になるのかについて考察し、またその統語構造パターン・語形成パターンの整理を行う。

## 2. 「～だす」の中国語訳

### 2.1. 空間移動を表す「～だす」

[姫野昌子, 1999]は「出す」の基本的意味は「出る」と同様に「外部への移動」であり、後項動詞として働く場合も、その本義が生きていると述べている。さらに、その移動を「外部、前面、表面への移動」と「表だった場への登場」に分類している。空間移動を表す「～だす」は自動詞類と他動詞類に分けられるが、中国語の動詞は形態的には自他の区別がないため、このことは訳語には反映されないだろう。自動詞類は主体の移動を表し、V1が移動の様態を表す。「～だす」が他動詞としての性質を失い、複合動詞全体が自動詞となる。共通の前項動詞につき、「～だす」と「～でる」の入れ替えが可能な語は大部分である。

また他動詞類に関しては、対象の移動を表すとされているが、前項動詞の修飾関係により、以下の四つに分けられている。a、b、cいずれもV1が原因事象・先行事象として、V2を結果事象として捉えられるため、動補フレーズで訳すことが容易だろう。一方、dに関しては、修飾関係が曖昧のため中国語の動補フレーズに翻訳するのは難しいと予測される。

- (7) a.方法: ~することによって出す  
b.状態: ~した状態を出す  
c.目的: ~することすなわち外界に出す(開放、外部利用等)  
d.分析不可能なもの: 乗り出す さしだす

では、共通資料における空間移動を表す「～だす」の中国語訳をみよう。

(8) 空間移動を表す「～だす」

a. 複合動詞: 溢れ出す

中国語訳: <溢出 (yi chu) >

例文: 大雨が続き、とうとう川の水があふれ出した。

中国語訳: 大雨还在持续, 河里的水汹汹地溢了出来。

b. 複合動詞: 逃げ出す

中国語訳: <逃出 (tao chu) >

例文: 動物園の檻からライオンが逃げ出して、園内は大騒ぎになった。

中国語訳: 老虎从动物园的笼子里逃了出来, 动物园里一片混乱。

c. 複合動詞: 飛び出す

中国語訳：< 飞出/窜出/弹出/冒出/跑出/突出 (fei/cuan/tan/mao/pao/tu chu) >

例文：会議ではとんでもない発言が飛び出した。

中国語訳：会议上冒出了一个无比荒唐的发言。

d. 複合動詞：取り出す

中国語訳：< 拿出 (na chu) >

例文：彼女はかばんから携帯電話を取り出した。

中国語訳：她从包里拿出了手机。

e. 複合動詞：踏み出す

中国語訳：< 迈出 (mai chu) >

例文：彼女は教師になるための第一歩を踏み出した。

中国語訳：她迈出了为了成为老师的第一步。

f. 複合動詞：持ち出す

中国語訳：①< 带出 (dai chu) >

②< 提出/提起 (ti chu/ti qi) >

例文：①図書館の本を勝手に持ち出してはいけない。

②彼はよく議論とは関係のない話を持ち出して、みんなからひんしゅくを買う。

中国語訳：①未经许可不能把图书馆的书带出去。

②他经常提起一些与讨论话题没有关系的事，令大家讨厌。

g. 複合動詞：貸し出す

中国語訳：①< 出借/借 (chu jie/jie) >

②< 放贷/贷款 (fang dai/dai kuan) >

例文：①この町では観光客に無料で自転車を貸し出すサービスが開始された。

②銀行は集めた金を企業に貸し出したり、株や債券を買ったりして運用している。

中国語訳：①这个镇开设了免费向游客出借自行车的服务。

②银行集攒的资产或者用于放贷给企业，或者用于买股票或债券。

h. 複合動詞：乗り出す

中国語訳：①< 进发 (jin fa) >

②< 着力 (zhuo li) >

③< 探/探出 (tan/tan chu) >

例文：①コロンブスが最初の航海で大西洋に乗り出したのは1492年のことである。

②週刊誌が告発した問題について政府が本格的に調査に乗り出すことになった。

③彼女は彼の姿を見つけると、窓から身を乗り出して手を振った。

中国語訳：①哥伦布首次出航，进发大西洋是在1492年。

②政府正式开始着力调查关于时事周刊揭发出来的问题。

③她一看到他的身影，就从车窗探出身来向他挥手。

i. 複合動詞：差し出す

中国語訳：< 伸出/递出 (shen chu/di chu) >

例文：彼はお客と握手しようと、右手を差し出した。

中国語訳：他伸出了右手，要跟客人握手。

j. 複合動詞：突き出す

中国語訳：①<推出/伸出/凸出 (tui chu/shen chu/tu chu) >

②<押送 (ya song) >

例文：①このホテルは日本海に突き出した岬に建っている。

彼は拳を突き出して闘争心を示した。

②彼は自宅に侵入した男を捕えて、近くの交番に突き出した。

中国語訳：①这个宾馆建在日本海的一个凸出来的海角上。

他伸出拳头表示了决心。

②他抓住了那个闯入自己家里的男的，把他押送到了附近的警察岗亭。

k. 複合動詞：貼り出す

中国語訳：<贴出/张贴 (tie chu/zhang tie) >

例文：大学の入学試験では、合格者の受験番号を掲示版に貼り出すのが普通のやり方だ。

中国語訳：大学入学考试的时候，一般都会把合格者的准考证号张贴在布告栏上。

例a~kの中国語訳をみると、ほとんどの場合「~だす」は中国語の動補フレーズ<V-出>に対応していることがわかる。これはまず「外部への移動」という基本的な空間移動の概念はどの言語にも存在するためだろう。次に、V1が原因事象・先行事象として、V2を結果事象として捉えられるため、中国語動補フレーズにはめることが容易であると考えられる。しかし、例f、h、jをみると、対応性が高いとはいえ、ずれが全く生じないというわけでないことがわかる。個別に考察しよう。

例fの例文②からわかるように、「持ち出す」は中国語<提起>に対応している。この動補フレーズ<V-起(qi)>は基本義が「上への移動」であるが、モノの移動を状態変化として捉え、結果を表す用法に転じることもある。最終的には事態の出現・発生という概念に転用して「始動」の意味を表すようになる。また、これらの意味は排他的なものとは言えない。この点では、日本語の「~だす」にかなり似ていると言えよう。このことが両言語に類似した認知スキーマがあるということと、「~だす」の意味の間に連続性があるということを示唆していると考えられる。また、「持ち出す②」の英訳bring upからも同じような推論ができるだろう。

例hでは、乗り出す①②の意味は動補フレーズでは表現できないため、別の動詞で表現しているが、それでもまだカバーできない部分が残っている。ここでまず「乗り出す①②」の語義をみよう。

①船などに乗って、(困難が予想される)海に出て行く。

②あることに積極的に(意欲的に)関与する。

下線をひいた部分は中国語では動詞句や副詞で表現できるが、動補フレーズと複合動詞ではできない。よくみると、いずれも結果以外のフェーズについて述べていることがわかる。中国語は動補フレーズと複合動詞において「先行事象+結果事象」という時間順が最も卓越性を示すということに反しているためであると考えられる。また、日本語の複合動詞は結果だけではなく、他のフェーズにも心理的評価(感化的内包)を与えることを示していると思われる。

例jの例文②では、「~だす」が姫野(1999)の「表だった場への登場」を表している。これに関しては、「~だす」を使う際、物理的であれ心理的であれ必ず何かの領域・空間が想定されて、その領域・空間の想定は言語間で異なり、「表だった場」という領域・空間の想定は日本語以外の言語に訳すことが困難であると考えられる。また、例g、kにもこういった領域・空間の想定がかかっているが、中国語にも同じような概念が存在するため、翻訳は可能であると考えられる。

## 2.2. 顕在化を表す「~だす」

顕在化を表す「~だす」は[姫野昌子, 1999]では、対象を外部や表面に出現せしめ、人の目に触れさせることを表している。対象の空間的移動は伴わず、隠れていたものが覆いを取り除かれて姿を現す、無

から有が生み出されるというように出現の様相にはバラエティーがあると記述している。また、前項動詞の意味特徴によって、顕現、創出、発見に分けられている。

上記3種類の顕在化はいずれもV1が原因事象・先行事象として、V2を結果事象として捉えられるため、動補フレーズで訳すことが容易だろう。また、(刘月华主编, 1998)によれば、<-出>が基本的に「从无到有, 从隐到显」(無から有へ、隠れていた状態から顕在へ) という結果義を表す。この記述は[姫野昌子, 1999]の顕在化と意味的には対応していると言えよう。顕在化を表す「～だす」に対応する中国語の表現ではまた動補フレーズ<V-出>が多く現れると予測できる。

そして、<-出>は顕在化だけではなく、より一般的な結果を表すことも可能であるが(そして、その結果に対して良い評価(心理的評価)を与える場合が多い。)、このことには、中国語は結果事象に焦点を置いていることが反映されていると思われる。

では、共通資料における顕在化を表す「～だす」の中国語訳をみよう。

### (9) 顕在化を表す「～だす」

#### l. 複合動詞：思い出す

中国語訳：<回忆起/想起 (hui yi qi/xiang qi) >

例文：きのう会った人の名前をなんとか思い出そうとしたけれども、思い出せなかった。

中国語訳：我试着回想起今天见到的那个人的名字，可怎么也想不起来。

#### m. 複合動詞：作り出す

中国語訳：<造出/制造出 (zao chu/zhi zao chu) >

例文：最新技術を応用して人々の生活に役立つ商品を作り出す。

中国語訳：应用最新的技术，制造出对人们生活有用的商品。

#### n. 複合動詞：聞き出す

中国語訳：<打听出/问出 (da ting chu/wen chu) >

例文：テレビのトーク番組では、司会者が、視聴者が知りたがっていることをどれくらい相手から聞き出せるかが番組成功の鍵だ。

中国語訳：电视里的谈话节目中，主持人能从对方那里问出多少观众想知道的事情才是节目成功的关键。

例l～nの中国語訳をみると、顕在化を表す「～だす」は大体中国語の動補フレーズ<V-出>に対応していることがわかる。意味的な対応性の高さを示している。しかし、例lでは、「思い出す」は<回忆起/想起 (hui yi qi/xiang qi) >に訳されている。<起(来) qi (lai) >はいわゆる「up」の概念であり、前節で述べたように、結果も表せる。ここでは<回忆/想>の結果を表しているが、同じ事象を表すのに両言語が違う概念を選択するのもまた興味深い点である。「～だす」や<V-出><V-起>の多義性は時空間内におけるモノの移動(経路表現でとらえられる)と、時間経過(状態変化でとらえられる)は交換が可能であることを示唆していると考えられる。

一方、共通資料にはのせていないが、「書きだす」は「書く」という動作が開始すると捉えられるが、「書く」という手段を通じて何かを顕在化することも理解できる。しかし、日本語では顕在化という意味は一般的な結果を表す要素に転じることはなく、かなり限定されているため、通常前者の意味と理解されることが多いだろう。そこで、「先行事象+結果事象」が最も卓越性を示す中国語の間、理解のずれが生じる。

最後に、結果状態への評価に関しては、「～だす」や<V-出>においては観察的な評価と心理的な評価が一つに融合していると思われる。観察的な評価(情動的な部分：V1が完了して結果がでる)は両言語で大きな差異はないと思われるが、心理的な評価に関しては、中国語は<-出>が表す結果に良い評価を与える場合が多いという点で異なる。

- (10) a. 为什么他不怎么努力, 却总能考出好成绩?  
(彼はどうしてあまり努力しないのに、いつも良い成績をおさめるの?)  
b. 为什么他再怎么努力, 却总是考不出好成绩? (? 却总是考出坏成绩)  
(彼はどうしてどんなに努力しても、いつも良い成績をおさめられないの?)
- (11) a. 回答了一个问题。  
(一つの問いに答えた。)  
b. 回答出(了)一个问题。  
(一つの問いに答えた。【そして正解した】)

丸尾 (2014: 64) より

- (12) a. 花了半天时间, 终于找到了一块完好的翡翠。(找出了一块完好的翡翠)  
(半日をかけてようやく一つ無傷な翡翠を見つけた。)  
b. 花了半天时间, 找到的都是有瑕疵的翡翠。( ? 找出的都是有瑕疵的翡翠)  
(半日をかけてきずのある翡翠しか見つけられなかった。)

### 2.3. 開始を表す「～だす」

この類は [影山太郎, 1993] のいう統語的複合動詞に属し、極めて生産性が高い。[姫野昌子, 1999] は、「だす」は、動作・作用の開始を表す。通常、結合する動詞は時間的経過を有する動詞（継続動詞）であると述べている。ただし、瞬間動詞であっても結合することもあるとも指摘している。さらに、姫野は「～だす」は「開始」よりは「新たな事態の成立」の意識が強く、人間の行為に使われても意志性がない。「～始める」は継続する作用・動詞の開始意識が強いというように「～だす」と「～始める」の用法上の相違点を「自然性」「突発性」を中心にまとめている。

中国語の結果補語はその名の通り、結果事象しか表すことができないが、方向補語<-上 shang><-起 (来) qi (lai)>などは「始動」の意味、<-下 (去) xia (qu)>などは「継続」の意味を表すことが可能である。<-起 (来)>が「新しい状態に入る」という意味を表し、意味的には最も対応性が高い。さらに (刘月华主编, 1998) では「往往包含不知不觉的意味」(直訳: 往々にして無意識のうちにとという意味が含まれる) と指摘されている。この点では「自然性」「突発性」を持つ「～だす」に類似しており、対訳表現では頻繁に用いられるだろう。

一方、<-起 (来)>から「自然性」「突発性」は読み取れるが、下記の例から、「～だす」ほど強いものではないと考えられる。

- (13) ① ? 早くやりだせ: 早くやり始める  
② 赶快行动起来: 赶快开始行动

では、共通資料における開始を表す「～だす」の中国語訳をみよう。

#### (14) 開始を表す「～だす」

o. 複合動詞: 怒り出す

中国語訳: <(突然) 发怒 (fa nu)>

例文: 彼女の話をして黙って聞いていた彼だったが、話が終わったとたん怒りだした。

中国語訳: 他一直默默地听着她的话, 但刚一说完, 他就发怒了。

p. 複合動詞: 言い出す

中国語訳: <开始说/提起 (kai shi shuo/ti qi)>

例文: [会議で、反対意見を述べた人に対して] この件は、先週結論を出したんだから、今に

なってそんなことを言いだしては困りますよ。

中国語訳：〔会議中，対持反対意見の人説〕关于这件事，上周我们已经得出结论了，现在又开始说/提起这个，让我们很为难啊。

q. 複合動詞：降り出す

中国語訳：＜开始下/下起（来）（kai shi xia/xia qi (lai)）＞

例文：真っ黒な雨雲が急に広がってきて、今にも雨が降りだしそうだ。

中国語訳：黑压压的阴云突然布满了天空，似乎马上就要下起雨来。

中国語の動補フレーズや複合動詞では、「先行事象＋結果事象」が卓越性を示しており、本来「開始・始動」が表すこと自体は不可能のはずであるが、「～だす」の場合、「開始・始動」は時間軸上のものではなく、「状態変化」に由来するもののため、例o、p、qからわかるように、「状態変化」を表す補語<-起（来）>が動補フレーズを形成することで表せると思われる。これもまた<-上><-下>などの方向補語の転用と同様に、時空間内におけるモノの移動と、時間経過は交換が可能であることを示唆していると考えられる。

例oでは、形態的には<V-起（来）>に対応していないが、「～だす」に含まれている「突発性」のニュアンスは文脈によって表現されている。また、中国語訳から見れば例pの「言い出す」は例fの「持ち出す②」と類似した用法であり、同様な推論ができる。

### 3. まとめ

#### 3.1. 訳出の傾向

前節では、共通資料におけるV2が「～だす」の複合動詞に対応する中国語表現およびその例文の一部を取り上げた。ただし、「持ち出す①②」の①、②のような表記は共通資料における意味分類の表記であり、前節の例文に対応するものではない。また、両言語の間ずれが生じる部分を中心に考察を行った。「～だす」と中国語表現の対応は以下の表にまとめる。

表1. 「～だす」に対応する中国語表現

中国語訳パターン	対応する日本語
V-出（来/去） 「動詞＋方向補語」（動補フレーズ）	溢れ出す 逃げ出す 飛び出す 取り出す 踏み出す 持ち出す①② 貸し出す 乗り出す③  差し出す 突き出す①②③ 貼り出す 作り出す 聞き出す
V-起（来） 「動詞＋方向補語」（動補フレーズ）	持ち出す② 思い出す 言い出す 降り出す
开始-V 「動詞＋動詞」（動詞句）	言い出す 降り出す
「副詞＋動詞」（動詞句） （または固定表現）	貸し出す 乗り出す①② 突き出す④ 怒り出す

### 3.2. 訳出特徴から見た日本語と中国語の対応

表1からわかるように、空間移動を表す「～だす」と顕在化を表す「～だす」は多くの場合、中国語の動補フレーズ<V-出(来/去)>に対応する。これは、まず「～だす」という空間移動の概念は時間経過表現の情動的な部分として言語間共通に存在するためだろう。次に、中国語は句構造においても複合動詞の形成においても「先行事象+結果事象」という時間順が最も卓越性を示すことがあることと、これらの「～だす」はV1が原因事象・先行事象として、V2を結果事象として捉えられるためであると考えられる。

なお、開始を表す「～だす」は中国語で卓越性を示す「先行事象+結果事象」という時間順に反するにもかかわらず、動補フレーズ<V-起(来)>で訳せるのは、「～だす」が表す「開始・始動」は時間軸上のものではなく、「状態変化」に由来するものであり、「状態変化」を表す補語<-起(来)>が動補フレーズを形成することで表せるためであると思われる。ただし、中国語では<开始-V><-起(来)>には「～はじめる」「～だす」のように強い使用上の制限がかかっておらず、文脈によっては変換することも可能である。また中国語では<-起>、<-上>、<-下>などの方向補語が日本語の「～だす」のように状態変化表現への転用があり、違う言語でも類似した転用が存在するというのは時空間内におけるモノの移動(経路表現で捉えられる)と、時間経過(状態変化で捉えられる)は交換が可能であることを示唆していると考えられる。

一方、動補フレーズや複合動詞で翻訳できない「～だす」に関しては、三つの要因が考えられる。まず、日本語の「～だす」は「乗り出す①②」のように結果以外のフェーズについて述べる部分があり、中国語は動補フレーズと複合動詞において「先行事象+結果事象」という時間順が最も卓越性を示すということに反しているため、動補フレーズや複合動詞では翻訳ができない場合もあると考えられる。次に、「突き出す」のようなものに関しては、「～だす」という空間移動の概念が言語共通な事項であっても、言語コミュニティごとに想定される心理的な空間・領域には相違があるため、翻訳困難なものも存在すると考える。最後に、同じ事象でも各言語では、表現の仕方が必ずしも一致ではないため、複合動詞または動詞句で表さないで済む場合もあるだろう。

以上、「～だす」の中国語訳から「～だす」が表す事象における両言語の対応関係について考察した。V1が原因事象・先行事象として、V2を結果事象(状態変化)として捉えられる日本語の複合動詞は中国語の動補フレーズで表現しやすく、それ以外のフェーズについて述べる部分のある複合動詞は表現しにくいと結論づける。

また、前節では、中国語が結果状態に良い評価を与えることが多いということ、そして<-出>は顕在化だけではなく、より一般的な結果を表すことも可能であることから中国語の動補フレーズ<-出>の表現上の特徴について少し触れた。これらのことから中国語は結果重視言語で結果事象に焦点を置いていることがある程度検証されると考えられる。

### 3.3. 今後の課題

3.2節では、中国語は結果重視言語で結果事象に焦点を置いていることについて述べた。佐野洋教授が作成した「多言語による複合動詞翻訳プロジェクト」の資料において、言語空間における伝達の情報量は一定であり、一定時間に伝達される情報量は各言語で変わらない(表現密度は同じ)という仮説がある。それは経路表現と状態表現だけではなく、動きのフェーズにも適用できるのではなかと考えている。そうだとすれば、動きにおいて結果フェーズに表現のバラエティーに富んでいる中国語は必然的に過程のフェーズの表現が日本語より乏しいはずである。このことは前節で検討した「乗り出す①②」の翻訳が困難であることに一致しているが、ほかの複合動詞からも同じようなことが言えるだろうか。つまり、中国語は結果重視、日本語は過程重視ということは動補フレーズや複合動詞全体で検証できるでしょうか。

また、動きの経路表現(空間表現)に関しては、中国語は日本語より豊富であると思われるが、上記の仮説が成立するとすれば、日本語は動きの状態表現が中国語より豊富のはずである。このことは実際「～こむ」「～きる」「～ぬく」などの複合動詞からその一端が垣間見えるが、日本語や中国語の複合動

詞・動補フレーズまたは動詞句全体から検証できるでしょうか。  
上記の2点を今後の課題とする。

#### 4. 参考文献

- 影山太郎. (1993). 『文法と語形成』. ひつじ書房.
- 影山太郎. (2013). 「語彙的複合動詞の新体系」. 著: 影山太郎 編, 『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』. ひつじ書房.
- 監修・制作: 小柳昇、制作: 崔正熙、ローレンス・ニューベリーペイトン、クリコフ・アガタ、ファム・ティ・タイン・タオ、張正、劉倩卿. (2017年6月00日). 「日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料 ver.1」.
- 丸尾誠. (2014). 『現代中国語方向補語の研究』. 白帝社.
- 佐野洋. (2017.6.5). 多言語による複合動詞翻訳プロジェクト.
- 申亜敏, 望月圭子. (2011). 「日本語と中国語の複合動詞の語形成」. 『漢日語言対比研究論叢第二輯』 2 卷 漢日対比語言学研究(協作)会 北京大学出版社, 46-72.
- 湯廷池. (1989). 「詞法與句的相關性: 漢, 英, 日三種語言複合動詞的對比分析」. 著: 『漢語詞法句法續集』 (ページ: 147-211). 臺灣學生書局.
- 姫野昌子. (1999). 『複合動詞の構造と意味用法』. ひつじ書房.
- 刘月华主編. (1998). 《趋向补语通释》. 北京语言文化大学出版社.

## 中国語訳から見た日本語の複合動詞「～切る」

劉 倩卿

東京外国語大学 大学院総合国際学研究所 博士前期課程

### 概要

本稿の目的は、日本語の複合動詞「～切る」を取り上げ、中国語への対訳傾向から、両言語の結果表現の異同を明らかにすることである。まず、姫野（1999）の提案した「～切る」の意味分類に基づき、『日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1』（小柳他,2017）（添付資料を参照、以下「基礎資料」と略す）に挙げる「～切る」を後項動詞とする複合動詞の語義及び例文を自然な中国語に翻訳し、そして、「～切る」と中国語との対応関係をまとめた。その結果、姫野の提案した「完遂」と「極度」は、V1が継続動詞と瞬間動詞によって分けることは妥当性を十分有していないことがわかった。そして、日本語の複合動詞に類似した中国語の「動補構造」に対応する部分も対応しない部分もあることがわかった。

「～切る」は、補助動詞として「完了」というアスペクト的意味のみならず、その結果状態が数量的、時間的、程度的に、それ以上進まない極限になるという意味もある。そのため、「完遂」と「極度」はきれいに分け切れるものではなく、同時に「～切る」の表す結果状態に共存していると言えよう。その理由として、日本語の複合動詞に「情報の内包」と「感化的内包」<sup>注</sup>が融合しているのに対して、中国語はより区分されているような特徴があるという相違が一つであろう。つまり、中国語において、「情報の内包」は結果補語で表し、「感化的内包」は状語（連用修飾成分）などで表す場合が多い。本稿では、中国語訳に基づいて、「行為の完遂」は「結果補語」へ翻訳可、「変化の結果」と「状態の極度」は「結果補語」へ翻訳不可という傾向があることを明らかにした。今後は、「～切れない」といった形式の意味や用法をもより豊かな用例で分析し、「～切る」と類義の複合動詞「～尽くす」、「果たす」、「～抜く」などとも比較する上で、日中両言語の「結果表現」の異同を研究していきたい。

### 1. はじめに

#### 1.1. 複合動詞（「～切る」）の対訳実証

影山（1993：96）、姫野（1999：19）の指摘によると、「完了」を表す複合動詞は、「～終わる」、「～終わる」、「～尽くす」、「～切る」、「～通す」、「～ぬく」など、多くの項目がある。これらの複合動詞において、V2が本動詞としても複合動詞の後項動詞としても同じ意味を表すのもあれば、本動詞の意味と後項動詞の意味が対応するものもある。中国語の「動補構造」（动补结构）は、日本語の複合動詞と相似しているようであるが、実は異なっている。単に「動補構造」のみで日本語の複合動詞を理解すれば、誤解が生じる恐れがある。例えば、(1)の例文において、aは「動補構造」になるが、bは「一語化の動詞」、cは「程度副詞+動詞」、dは「動詞+動補構造」のようにバラエティを呈している。

(1) a 新しくダムを造って黄河を断ち切る。

新建大坝将黄河截断。

(動補構造)

b 彼は困難を乗り切った。

他克服了困难。

(動詞)

c 彼らは彼の態度に困り切っていた。

他们对他的态度感到非常困扰。

(程度副詞+動詞)

d 小さいことをやり切ることができるからこそ大きいことを成し遂げられる。

能坚持把小事做到最后, 才能成就大事。

(動詞+動詞+補語)

姫野(1999)は、「～切る」の意味を、本動詞の「切断」という意味を保っているかどうかを二つのグループにおいて詳しく記述し、本動詞の「～切る」は「切断」と「終結」、補助動詞の「～切る」は「完遂」と「極度」を表すと指摘している。しかし、姫野分類にはまだいくつかの疑問点が残されている。例えば、「踏み切る」のように、主として「これからの事柄に決断する」という意味を表すため、「終結」と言えるかどうかは疑問である。また、V1が継続動詞の場合は「完遂」、V2が瞬間動詞の場合は「極度」と述べているが、「継続動詞」と「瞬間動詞」、「完遂」と「極度」は完全に分けて説明するのが難しい。それでは、姫野分類の各意味を表す「～切る」は中国語に訳せば、どんな表現になるのか、その対訳特徴から、以上の疑問点を明らかにすることができるだろう。

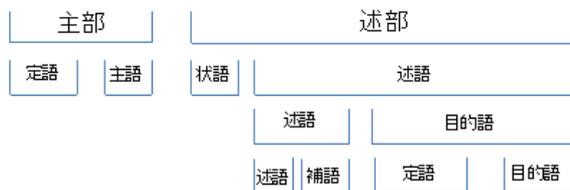
本稿は、基礎資料に挙げる複合動詞「～切る」の語義および例文を自然な中国語への翻訳を試みた。そして、対訳傾向から、二つの言語の類似と相違を整理した上で、姫野分類の妥当性を再検討する。それでは、自然な中国語へ翻訳するため、次節でまず中国語の統語構造と語形成手段を簡単に説明する。

## 1.2. 中国語の統語構造と語形成手段

本節は、『現代中国語文法総覧』（劉月華他著、片山博美他訳、1988）を参照しながら、中国語の統語構造、語形成手段を簡単に紹介する。そして、「～切る」に関係する部分を抽出して詳しく説明する。

中国語の文成分は地位、はたらきによって主語、述語、目的語、状語、補語、定語の6種に分けられる。これらの6種の文成分は同一のレベルにあるのではない。主部は述部に対応するものであり、目的語は述語動詞に対応するものであり、補語は述語動詞または述語形容詞に対応して言うのである。述語はその後のすべての述語を修飾することもあれば、述語だけを修飾することもある。定語は主語や目的語を修飾するものである。文成分の基本的順序および各成分の間の構造レベルは、以下の(2)で示す。

### (2) 中国語の文成分の基本的順序および構造レベル



(劉他著、片山他訳1988: 24 一部修正)

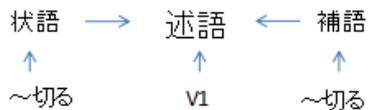
中国語の統語関係構造は、簡単に言えば、単語と単語は一定の規則に基づいて、フレーズを構成し、単語とフレーズはさらに一定の規則に基づいて、より大きいフレーズを構成し、これらのフレーズの中の単語と単語（またはフレーズ）の間に存在する一定の構造関係である。主として5種類ある。

### (3) 中国語の統語関係構造

- ① 等位関係：工人和农民（労働者と農民）、愉快而幸福（楽しくて幸せである）
- ② 偏正関係：伟大的祖国（偉大な祖国）、勇敢地挑战（勇敢に戦う）、很多（とても多い）
- ③ 動目関係：学汉语（中国語を学ぶ）、是学生（学生である）、进教室（教室に入る）
- ④ 補充関係：走进去（入っていく）、听清楚（はっきり聞こえる）、干净得很（大変きれいだ）
- ⑤ 主述関係：你看（あなたは見る）、头疼（頭が痛い）、小王看画报（王くんは画報を見ている）

これら5種類の方式は、中国語の複合語やフレーズ、そして文の組み立ての基本的な規則になる。それでは、「～切る」に関連する部分といえば、「述語」を中心としてその前後に修飾成分（「状語」）や補充成分（「補語」）を加えるという部分に相当している。以下の(4)で示すとおりである。

(4) 中国語の述語と「状語」、「補語」の関係



「状語」は色々な方面から動詞と形容詞を修飾するのに用いられる。その機能に基づき、限定性状語と描写性状語の二つに大別できる。限定性状語は、主として、副詞や介詞（前置詞）フレーズによって、時間、場所、範囲、対象、目的語などの面から、動詞と形容詞を限定するものであり、描写性状語は、形容詞（フレーズ）、動詞（フレーズ）、数量詞、名詞（フレーズ）、固定フレーズ、副詞などによって、動作や（観念上）動作主の様態を描写し、それに対する感情、態度、評価も表すものである。

「補語」は動詞または形容詞の後に置かれ、主に動詞または形容詞に対して補充説明を行う成分である。意味上、構造上の特徴に基づき、結果補語、方向補語、可能補語、様態補語、数量補語、介詞フレーズ補語という6種類に分けられる。

それでは、姫野（1999）の「～切る」意味分類を、中国語に対応すれば、(4)のようにV1が中心語の述語になり、「～切る」の意味はそれぞれ「補語」や「状語」などがそれぞれ担うと推測できる。詳しくは、次節から中国語への対訳によって検証してみる。

1.3. 参照した意味分類

本稿では、姫野（1999）の「～きる」の意味分類に従う。まず、姫野分類を（5）のようにまとめた。

(5) 姫野（1999）の「～きる」意味分類

A 本動詞の「～きる」

1. 切断

[物理的切断]

かききる、はさみきる、食いきる、断ちきる、突ききる

2. 終結

[続き広がっていく行為や事柄にけりをつけ、打ち切る終結行為]

思いきる、振りきる、乗りきる、押しきる、踏みきる

B 補助動詞の「～切る」

1. 完遂

[（継続動詞につく）行為者の予定通り（質、量ともに）完全に行われること]

自動詞：走りきる、変わりきる、なりきる、籠りきる

他動詞：食いきる、使いきる、売りにきる、出しきる、描ききる、やりきる

2. 極度

[（瞬間動詞につく）それ以上はないというほどの究極まで達すること]

<自然現象> 枯れきる、腐りきる、混乱しきる、乾燥しきる、澄みきる

<生理的現象> 疲れきる、冷えきる、弱りきる、やせきる、なおりきる

<感情や精神の働き> 忘れきる、困りきる、安心しきる、信じきる、張りきる

(姫野1980: pp.25-31要約)

以上の姫野分類からみれば、「～切る」の意味が、本動詞の「切断」という意味を保っているかどうかを二つのグループにわけて詳しく記述されている。しかし、まだいくつかの疑問点が残されている。第一は、「切断」は「物理的切断」（噛み切る）のみならず、「空間的切断」（突っ切る）も含まれているはずである。第二は、「踏み切る」のように、「決定した事柄に踏み出す」という意味に焦点が置かれるため、単に「終結」というのは妥当性が十分とは言えない。第三は、補助動詞の「～切る」は、V1が継

続動詞の場合は「完遂」、V2が瞬間動詞の場合は「極度」と述べているが、「継続動詞」と「瞬間動詞」、「完遂」と「極度」は完全に分けて説明するのが難しい。例えば、なぜ「なり切る」、「変わり切る」は継続動詞の「完遂」として扱われるのか、その中に「極度」の意味もあるのではないか。そして、「やり切る」は「継続動詞」の「完遂」を表すのが真っ当であるが、「やり切った」後の達成感が含まれ、一種の精神的「極度」とも言えよう。第四は、「こもり切る」は瞬間動詞の状態を保持する意味で「完遂」になるという解釈も妥当性が十分ではないと言えよう。

次節から、姫野の意味分類を踏まえ、「～切る」の各意味要素が中国語に翻訳すれば、どんな表現になるか、具体例を挙げながら説明する。その上で、姫野分類の妥当性を再検討してみる。

## 2. 「～切る」の中国語訳

1.2節では、「～切る」に関する中国語の統合関係や文成分を説明している。以上の姫野の意味分類において、「切断」の場合は、V1が「切断」の手段になるのが多いため、典型的な「先行事象+結果事象」であるため、中国語の「動詞+結果補語」で表す<補充関係>に対応しやすい。「極度」は、結果状態に対する「程度」の限定であるため、「程度副詞+動詞・形容詞」という偏正関係あるいは「動詞・形容詞+程度補語」という補充関係に対応しやすい。しかし、「終結」は抽象事象に対する「中止、断念、決断」であるため、単純動詞だけで表せると推測する。「完遂」には、「極度」が含意される可能性があるため、「動補構造」のほかに「状語」も必要になると推測する。

以下は、具体例を挙げながら、以上の推測を検証してみる。そして、中国語との対照によって、「～切る」の新たな意味分類を試みる。例文は基礎資料を主として、「中日対訳コーパス」<sup>1</sup>（以下は「対訳コ」）、「weblio日中・中日辞書」<sup>2</sup>（以下は「web辞書」）、また姫野（1980）の原文から抽出する。

### 2.1. 「切断」を表す場合

姫野（1999）の指摘によると、このグループにおいて、本動詞「切る」の「切断」意味を保っている。「切る」が物理的切断を表す場合、V1はその方法や様相を示す。つまり、「～して切る」、「～するようにして切る」という形に対応しているということである。しかし、姫野の挙げた「～切る」のリストにおいて、具体物に対する物理的切断のほか、空間や抽象的事柄に対する「切断」を表す例もある。中国語に訳すと、それぞれ異なる補語で表すことになる。具体的に言えば、次の（6）のとおりである。

#### （6）切断を表す場合の中国語訳

##### a 物理的切断

「V1切る」 → 「V1断 (duan)」 <V1結果補語>

##### b 空間的横断

「V1切る」 → 「V1过 (guo)」 <V1方向補語>

劉月華他（2002：534）は、結果補語は主として動作や状態の結果を表す—動作主や動作の受動者の状態変化を引き起こすという意味であると述べている<sup>3</sup>。「V1断 (duan)」とは、受動者にV1という動作をすることによって、受動者が「断 (duan)」（切れる）という結果になるという意味を表す。例えば、

#### （7）a 物理的切断

複合動詞：噛み切る

中国語訳：<咬断 (yao duan)>

例文：歯で糸を噛み切る。

（web辞書）

<sup>1</sup> 「中日対訳コーパス」（第一版）2003. 北京日本学研究中心発行

<sup>2</sup> <http://cjjc.weblio.jp/>

<sup>3</sup> 劉月華他（2002：534）指摘の原文は、「结果补语主要表示动作或状态的结果——引起动作者或动作受事的状态发生变化，如“打破了一个杯子”意思是由于动作“打”，动作的受事“杯子”发生了变化：破了」である。

中国語訳：用牙把线咬断。

そして、空間的切断を表す場合は、中国語に訳すと、「V1过 (guo)」という<V1方向補語>の構造になる。劉月華他 (1983: 337, 342) は、方向補語は動詞の後に接続して動作の方向を表す動詞であり、方向補語「过 (guo)」は人間や物事がある場所を「経過」か「通過」するという意味を表すと述べている<sup>4</sup>。例えば、

(8) b 空間の切断

複合動詞：突っ切る

中国語訳：<穿过 (chuanguo) >

例文：田んぼの中を突っ切るように一本の道路が伸びている。

(基礎資料)

中国語訳：有一条路穿过田野。

姫野 (1999) の分類において、「噛み切る」も「突っ切る」も「切断」のグループに含まれているが、中国語の対訳からみれば、具体物に対する物理的「切断」は結果補語「断 (duan)」で表し、空間に対する「切断」は方向補語「过 (guo)」になる。つまり、動作によって引き起こされた状態変化の結果は、動作主や受動者自身の変化であるか、動作主の位置の変化であるかによって、中国語ではそれぞれ結果補語と方向補語で表されているということである。

2.2. 「終結」を表す場合

姫野 (1999) の指摘によると、「～切る」が抽象的な事柄を対象とする場合は、「続き広がっていく行為や事柄にけりをつけ、打ち切る終結行為を表すが、前項動詞と「～きる」との意味関係は語によって異なる。しかし、どの語も、人が目的を完遂するため、余分なことは切って捨て、決断したことに踏み出すという意味を共通に持っている」ということである。

しかし、「終結」を表す「～切る」のリストにおいて、「続いてきた抽象的な事柄にけりをつけ、余分なことを切り捨てる」という意味は共通であるが、必ずしも「どの語も」これからの事柄に「踏み出す」という「決断」の意味があるというわけでもない。この場合は、本動詞「切る」の「切断」という意味の抽象化であるが、中国語では、「現実事象」の「切断」と同じように「動詞+結果補語」という構造で表す場合が少なく (例えば (9) aの「打断」)、ほぼ一語化された動詞になる。それらの動詞の意味からみれば、すべて「終結」に包括することが難しい。本稿では、「終結類」、「断念類」、「決断類」という新たな下位分類を試み、中国語と対照しながら説明する。その訳し方は (9) の通りである。

(9) 「終結」を表す場合の中国語訳

a 終結類

「V1切る」 → 「打断、结束」 <V> (一語の動詞)

b 断念類

「V1切る」 → 「断念、放弃」 <V> (一語の動詞)

c 決行類

「V1切る」 → 「決定...、下定決心...」 <V> (一語の動詞)

2.2.1. 終結類

「終結類」は、姫野の指摘した「終結」の共通の意味を表し、即ち、「続いてきた抽象的な事柄にけりをつけ、余分なことを切り捨てる」ということである。例えば、「打ち切る」、「振り切る」など。中国

<sup>4</sup> 劉月華他 (1983: 337) 指摘の原文は、「趋向补语是指用在动词后由表示趋向的动词“来”、“去”和“上”、“下”、“进”、“出”、“回”、“过”、“起”、“开”、“到”等充任的。(简单趋向补语)」である。劉月華他 (1983: 342) の指摘は、「「过」表示动作是人或事物“经过”或“通过”某处」である。

語に訳すと、一語化された動詞になるが、細かく分けて分析してみれば、〈V1結果補語〉という構造で形成された複合動詞もある。ただし、「切断」を表す場合との区別は、具体物や空間など「目で見える」対象ではなく、「目で見えない」抽象的な事柄を対象とするということである。例えば、

(10) 複合動詞：打ち切る

中国語訳：〈打断 (da duan)〉〈结束 (jie shu)〉

例文a：浜田は私の愚痴ッぽい言葉を打ち切るように云うのでした。「それじゃとにかく調べて見ますよ」。(対訳コ)

中国語訳：浜田打断我的话，“那么不管怎样我先查一查吧。”

例文b：彼女は、これから人と会う約束があるからと言って、話を打ち切って出掛けてしまった。(基礎資料)

中国語訳：她说接下来和别人约好了见面，就结束了谈话出门了。

(11) 複合動詞：振り切る

中国語訳：〈抛在一边 (pao zai yi bian)〉〈摆脱 (bai tuo)〉

例文a：息子は母の忠告を振り切るようにして、大股に奥へは行って行った。(対訳コ)

中国語訳：儿子把母亲的忠告抛在一边<sup>5</sup>，大步地往里间走去。

例文b：母の愛を振り切るようにわたしはこうして、あてどない彷徨を繰り返した(対訳コ)

中国語訳：恍如要摆脱母爱，我这样漫无目的地在四处彷徨。

以上の例文から見れば、「打ち切る」と「振り切る」の対象は「言葉」、「話」、「忠告」、「愛」など、いずれも抽象的な事柄である。例(10a)と(11a)のように、中国語では、〈V1結果補語〉の形をした動詞に対応しているが、例(10b)と(11b)のようにさらに抽象化して一語化の動詞になる場合もある。「抽象的な事柄に対する「終結」を表す「～切る」は、「切断」の抽象化と見なすことができると言えよう。そのため、中国語の〈V1結果補語〉に訳すことができる。ただし、この場合の「動補構造」が抽象化され、一語の動詞として使われるようになっていく。そして、さらに抽象化して、終結行為を表す本格的な「動詞」で訳すこともできる。

## 2.2.2. 断念類

このグループは、「思い切る」と「見切る」を代表的な例にして説明する。V1と「切る」の関係からいえば、その意味は「V1を切る」という構造から出てくるだろう。例えば、「思い切る」は「人や物事に対する何らかの「思い」を切る」という意味があり、「見切る」は「人や物事に対する何らかの「見(込み)」を切る」という意味があり、いずれも「断念」の意味を表すことができる。中国語に訳すと、「断念 (duan nian)」、「放弃 (fang qi)」などで表すこともできる。例えば、

(12) 複合動詞：思い切る

中国語訳：〈断念 (duan nian)〉〈放弃 (fang qi)〉

例文：家庭の事情で進学を思い切る。(web辞書)

中国語訳：由于家庭的原因，放弃了升学。

(13) 複合動詞：見切る

中国語訳：〈绝望 (jue wang)〉〈放弃 (fang qi)〉

例文：もう彼を見切りました。(web辞書)

中国語訳：我已经放弃他了。

<sup>5</sup> [劉他著、片山他訳(1988:452)]の指摘によると、「在(zai)+場所目的語」は「結果補語」であり、「動作を通じて人または事物をある場所に位置させること」を表す。

「断念類」の「～切る」は、中国語に訳す時は、<V1結果補語>に対応できなくなり、「放弃 (fang qi) ...」や「断念 (duan nian)」、「死心 (si xin)」などの一語化された動詞で表すのが適切である。ただし、いずれも「断念」という意味を表すことが共通である。

### 2.2.3. 決行類

このグループの「～切る」は、焦点が「今まで続いてきた事柄を終結する」ことから「これから続いていくべき事柄に決断する」ことへと移っている。例えば、「思い切る<sub>2</sub>」は、「やりにくい事を決意を固めてする、決心する」という意味であり、「踏み切る」は「心を決めて物事に乗り出す」という意味である。中国語に訳す時、「決定(jue ding)...」「下定決心(xia ding jue xin)...」という形が一般的であり、これから決行する事柄は、目的語としてその後に来る。それに対して、日本語の場合は、「思い切る<sub>2</sub>」は「思い切って～する」という形でよく使われているため、場合によって、「思い切って」はほかの副詞的成分になる。そのために、中国語において、「思い切って」を「毫不犹豫地(hao bu you yu de)」などの「状語」成分を用い、後の動詞への連用修飾をする場合もある。例えば、

#### (14) 複合動詞：思い切る<sub>2</sub>

中国語訳：<下定決心(xia ding jue xin)...>

例文a：私たちは思い切ってそのプロジェクトを実行した。

(web辞書)

中国語訳：我们下决心展开了那个项目。

例文b：そのネックレスを思い切って買いました。

(web辞書)

中国語訳：我毫不犹豫地买下了那条项链。

#### (15) 複合動詞：踏み切る

中国語訳：<下定決心(xia ding jue xin)...> <決定(jue ding)...>

例文：大手ハンバーガーチェーン店が主要なメニューの値上げに踏み切った。

(基礎資料)

中国語訳：大型汉堡连锁店决定提高主要餐品的价格。

以上をまとめると、中国語と対照してみれば、「動補構造」にほぼ対応する「終結類」と、「動補構造」に対応せず、「断念類動詞」に対応する「断念類」、「決定類動詞」に対応する「決行類」に分けられるということが明らかになった。つまり、中国語を通してみると、姫野(1999)の分類において、「断念」も「決行」も「終結」に含まれているということは妥当性が十分とは言えない。

### 2.3. 「完遂」を表す場合

姫野(1999)の指摘によると、「～きる」は補助動詞として継続動詞(ほとんど人の意志的行為を表す)について、その行為の単なる終了を表すのではなく、行為者の予定どおり(量、質ともに)完全に行われることを表しているということである。しかし、このグループに挙げている例には、「なりきる」、「つききる」など、継続動詞で説明するのが難しく、どのように「完遂」の意味を表すかは疑問である。また、完遂度が数値で表せるかどうか、前項動詞が動作動詞であるか変化動詞であるかによって、中国語の<V1結果補語>に訳せる場合もあれば、訳せない場合もある。本稿では、姫野の指摘を踏まえ、中国語と対照した上、「完遂」という意味について再検討する。具体的には(16)のとおりである。

#### (16) 「完遂」を表す場合の中国語訳

□ 動作の完遂 (V1が動作動詞)

a 完遂までの経緯を数値で表せる類

「V1切る」 → 「V1完 (wan)」

<V1結果補語>

b 完遂までの経緯を数値で表せない類

(ア)精神的・心理的な「作業量」を量る場合

「V1切る」 → 「V1尽 (jin)」

<V1結果補語>

(イ)精神的な達成感を表す場合

「V1切る」 → (坚持 jian chi)「V1完 (wan) /到 (dao) 最后 (zui hou)」

<V1結果補語>

□ 変化の結果 (V1が変化動詞)

a 変化結果の達成

「V1切る」 → 「完全 (wan quan) V1」

<程度副詞V1>

b 変化結果の継続

「V1切る」 → 「一直 (yi zhi) /始终 (shi zhong) V1」

<時間副詞V1>

### 2.3.1. 動作の完遂 (V1が動作動詞)

#### 2.3.1.1 完遂までの経緯を数値で表せる場合

まず、姫野は、数値で表せる場合を、「作業量」で表せる類と「期限」を表す語と共起する類に分けている。いずれも、中国語に訳すと、「V1完 (wan)」という<V1結果補語>の構造になる。張岩紅 (2006: 129) は、結果補語としての「完 (wan)」は本動詞「完 (wan)」と同じように二つの意味があり、一つは“結束”、“完成”(完了する、終了する、仕上げる、完成する)の意味であり、客体との関係により、出来事の終了と完成とを問題にし、もう一つは“尽”、“光”(尽す、残さない、全部である、なくなる)の意味であり、数量を問題にすると指摘している。例えば、

(17) 複合動詞：走り切る

中国語訳：<跑完 (pao wan) >

例文：彼女は10キロを40分で走り切った。

(基礎資料)

中国語訳：她用40分钟跑完了10公里。

(17)において、「跑完 (pao wan)」は「40分」という期間に、「10キロ」という作業量を完成するという意味を表し、張 (2006) の指摘した二番目の意味になる。つまり、完遂度が数値で表せる場合は、「～切る」の意味が「完 (wan)」の二番目の意味、数量的完遂に対応すると言えよう。しかし、「完 (wan)」の一番目の意味、出来事の終了と完成は、「～切る」ではなく、「～終わる」に対応していると推測する。

#### 2.3.1.2 完遂までの経緯を数値で表せない場合

(ア) 精神的・心理的な「作業量」を量る場合

姫野 (1999) は、数値で表せない場合は、期待される程度までの達成度が百パーセントだという意味になると述べている。つまり、このグループの「完遂度」とは、「作業量」が抽象的であり、心理的限界に達するということであると言えよう。意味上は、中国語で極限を表す「尽 (jin)」と対応しやすい。

(18) 複合動詞：出し切る

中国語訳：<全部拿出 (quan bu na chu)、用尽 (yong jin)>

例文：選手たちは、「試合には負けたが、力を出し切ったので悔いはない」と言っていた。

(基礎資料)

中国語訳：运动员们说，“虽然输了比赛，但是我们尽力了，所以不后悔。”

(19) 複合動詞：描き切る

中国語訳：<刻画殆尽 (ke hua dai jin)>

例文：ウィリアム・ワイラー演出は精密に登場人物を描き切って見事だった。

(姫野1980: 28)

中国語訳：威廉的演出非常精彩，将剧中人物精妙地刻画殆尽。

ただし、動作と客体の関係により、「尽 (jin)」は本動詞として使う場合もあれば、結果補語として使う場合もある。「尽 (jin)」は本動詞として、そもそも「出し切る、尽くす」の意味があるため、(18)のように、「力を出し切る」は、「用尽全力」という「V1結果補語+目的語」の構造にも、「尽力 (jin li)」という「V+目的語」にも訳すことができる。また、(19)の「描き切る」のように、「刻画殆尽 (ke hua dai jin)」<sup>6</sup>という「V1尽 (jin)」という「V1結果補語」の構造になる。

(イ) 精神的な達成感を表す場合

寺村 (1984) は、「～切る」の中に、「動作をするのにつけられた努力の特別な強さとか、特別な完成、達成の感じとかを比喩的に表す」意味があると指摘している。杉村 (2008) も「行為の完遂」を表す「～切る」には、文脈によって、「物事を諦めずにやり通す」という意味を付随させると指摘している。つまり、このグループの「～切る」は、「行為の完遂」、「動作の時間的経過」、「動作をするのにつけられた努力」、「結果に対する達成感」という四つの意味要素が含まれると言える。しかも、その中核として、結果に対するポジティブな評価の意味を表すということである。

この場合は、中国語に訳すと、<V1完 (wan)>という「V1結果補語」で表すのが一般的である。2.3の(□a)で述べたように、結果補語「完 (wan)」は、動作行為の「時間的終了」と「量的終了」を表すことができる。また、劉月華他 (2000: 534) は、結果補語「完 (wan)」は「動作への評価、判断」を表すこともできる<sup>7</sup>と指摘している。しかし、その「評価」というのは、動作対象に対する働きは、「量的に残りがない」や「技術的に完備する」などの意味であるため、「～切る」で表す「努力の特別な強さ」や「特別な完成、達成の感じ」などのポジティブな意味には対応しにくいのである。「努力の特別な強さ」は、「堅持」のような動詞で表すことが可能であるが、中核的な意味としての「達成感」は訳しにくい。そして、<V1到底 (daodi) /到最后 (dao zui hou)>という「V1結果補語」で表すこともできる。結果補語「到 (dao)」の後に、また「底」や「最后」などの時間 (時点) を表す目的語を接続し、「動作をいつまで続けていくか」という「時間的経過」の意味を表すことができる。

(20) 複合動詞：やり切る

中国語訳：<做完 (wan) > <做到底 (dao di) /到最后 (dao zui hou) >

例文：どんな小さなことでも、一つのことを最後までやり切ることができれば、それが自信につながる。 (基礎資料)

中国語訳：再小的事情，只要你坚持把一件事情做到底，那它就能给你带来自信。

(21) 複合動詞：守り切る

中国語訳：<保持到最后 (dao zui hou) >

例文：〔サッカーの試合で〕後半に相手の猛攻があったが、(私たちは)前半に入れた1点をなんとか守り切って勝つことができた。 (基礎資料)

中国語訳：(在足球比赛中) 虽然下半场对方进攻猛烈，但我们凭借上半场进的一球，将比分保持到最后，取得了胜利。

以上をまとめると、「～切る」で表す「精神的な達成感」という意味は、中国語で直接に対応できないのである。「動作の完遂」の面は結果補語「完」で、「動作の時間的経過」の面は「結果補語「到」+時間を表す目的語」で、「努力」の意味は動詞「堅持」で表すことができるが、「達成感」の意味は文脈に依存しなければならず、ニュアンスまでは完全に訳せないのである。

<sup>6</sup> 「殆尽」は、一語になっているが、「殆」は「ほとんど」の意味であり、「尽」と合わせて結果補語として使うと、「ほとんど尽きる、ほとんど限界に達する」という意味である。

<sup>7</sup> 張 (2006: 129) を参照。例：「功课做完了」。「完」は「做」という動作に対する評価を表す。

### 2.3.2. 変化の結果 (V1が変化動詞)

#### 2.3.2.1. 変化結果の達成

数値で表せない場合には、心理的の「作業量」も量られず、抽象度がさらに進んでいけば、主体や客体の変化達成の程度に焦点が置かれる場合もあり、中国語に訳すと、<V1結果補語>に対応しにくく、「完全 (wan quan) V1」という<程度副詞V1>の構造になる。

(22) 複合動詞：なり切る

中国語訳：「完全 (wanquan) 成为 (cheng wei) ...」

例文：彼女は、このドラマの主人公の役になりきっていた。

(基礎資料)

中国語訳：她已经完全进入那部电视剧主人公的角色里了<sup>8</sup>。

(23) 複合動詞：信じ切る

中国語訳：「完全(wan quan)相信(xiang xin)」

例文：しかし彼はまだ何となく運命を信じ切れず、不安を何処かに感じている。

(対訳コ)

中国語訳：但是，不知为什么，他总有些不安，不能完全相信命运。

杉村 (2008: 74) は、V1が「諦める」や「治る」のような変化動詞である場合、「変化の達成」は当該の変化が最後まで滞りなく生じることを表し、当該事態の裏の事態が100パーセント消滅することを含意すると指摘している。つまり、変化の結果がどれほど達成しているかに焦点が置かれると言えよう。中国語では、「結果事象」に対する描写より、「結果達成の程度」を限定する範疇に近づいているため、程度副詞の「完全 (wan quan)」で「100パーセント達成する」という意味を表す。

#### 2.3.2.2. 結果の継続

姫野 (1999) は、ある状態を保持することが「完遂」になる語もあると指摘した。例えば、「つく」や「かかる」は瞬間動詞的であるが、状態反復が継続的に捉えられている例を挙げている。

(24) 複合動詞：つききる

中国語訳：「一直 (yizhi) 守(shou)在身边(zai shen bian)」

例文：準之助は早目に店から帰っておゆきのそばにつききっていた。

(姫野1980: 29)

中国語訳：准之助提早从店里回来，一直守在小雪的身旁。

(25) 複合動詞：こもり切る

中国語訳：「一直(yizhi)待(dai)/关(guan)在屋里(zai wu li)」

例文：最近では家族ともほとんど話をしなくなり、食事もひとりできり、自室にこもりきりです。

(姫野1980: 29)

中国語訳：最近也不怎么跟家里人说话，吃饭也是一个人，一直待在屋里。

しかし、「継続」を「完遂」に見なすかどうかは問題になる。「つく」、「こもる」などの動詞は、主体の瞬間的变化を表すため、変化の結果が時間的に継続し、それ以上には及ばない場合は、「～切る」で表すと考える。ただし、(24)の「つききっていた」のように、「～ている」と共起したり、(25)の「こもりきり」のように、名詞形にしたりして使われている。中国語に訳すと、時間の面から事象を限定する範疇になるため、補語は使いにくく、「時間副詞V1」の構造になる。

<sup>8</sup> 「なり切る」自体は、「完全成为」に訳せるが、「～役になり切る」なら、「完全成为...角色」より、「进入...角色」のほうがよく使われている。また、「～役になり切っている」という結果状態を表すため、「进入...角色」の後ろに方向補語「里」を付けているのである。

以上をまとめると、V1が「継続動詞」である複合動詞「～切る」は「完遂」を表すという姫野の論説は十分ではない。それから、「なりきる」、「変わりきる」、「つききる」などの「変化動詞」も「完遂」に分類して説明するのは恣意的であると言えよう。本稿では、姫野の「完遂」に属するV1を「動作動詞」と「変化動詞」に分け、V1が動作動詞の場合、「客体を100パーセント尽くすために動作をする」と「主体が期限内で動作を100パーセントする」と二つの意味を表し、V1が変化動詞の場合、「100パーセントの変化結果」を表し、程度も時間もそれ以上進まないという意味があると考えられる。中国語に訳せば、動作動詞で表す「完遂」の場合は、「動詞+結果補語 完(wan)/尽(jin)/到(dao)最后 zui hou)」に対応している。動作主の努力の強さを表す場合は、また動補構造の前に動詞「坚持(jian chi)」などを付けて訳すことができるが、「達成感」の意味は直訳しにくい。そして、変化動詞で表す「100パーセントの変化結果」の場合は、程度上で捉えると、「(程度副詞) 完全(wan quan)+動詞」になり、時間上で捉えると、「(時間副詞) 一直(yi zhi)+動詞」になる。

#### 2.4. 「極度」を表す場合

姫野(1999)の指摘によると、このグループの前項動詞は瞬間動詞であるが、その中でも変化の過程をもち、結果の状態が残るもの、いわゆる結果動詞の類であるということである。そして、このグループの「～きる」はその変化が進み、それ以上はないというほどの究極まで達することを表し、その究極の状態は自然現象、人の生理的現象、精神や感情の働きを表すものが多いと述べている。このグループのV1は、中国語の形容詞に対応するのが多いため、(26)のように、<V1程度補語>や<程度副詞V1>に訳すことができると予測する。

##### (26) 極度を表す場合の中国語訳

###### a 自然現象

「V1切る」→「極度(ji du) V1」／「V1得(de)很(hen)」 <程度副詞V1>／<V1程度補語>

###### b 生理的現象

「V1切る」→「極度(ji du) V1」／「V1得(de)很(hen)」 <程度副詞V1>／<V1程度補語>

###### c 感情や精神の働き

「V1切る」→「極度(ji du) V1」／「V1得(de)很(hen)」 <程度副詞V1>／<V1程度補語>

##### 2.4.1. 自然現象の極度を表す場合

この場合は、前項動詞は中国語の「形容詞」に対応するのが多いため、程度副詞「極度(ji du)」などで修飾することができる。そして、「V1得(de)很(hen)」という<V1程度補語>の構造も使える。「很(hen)」は、程度副詞にも程度補語にもなるが、程度を表す補語になる場合の方が状語になる場合より高い程度を表す<sup>9</sup>。そのため、(27)において、「異常(yi chang)乾燥(gan zao)」と「乾燥(gan zao)得(de)很(hen)」と同じように、「乾燥」の極度を表す。しかし、ここの「乾燥」は定語(連体修飾語)として使われているため、程度補語の形に変換することができない。

##### (27) 複合動詞：乾燥し切る

中国語訳：異常干燥

例文：窓の外には乾燥し切った空気の中に、朝の光が朗かに照り、一つ一つの毛孔が数えられるほど明るい。(対訳コ)

中国語訳：窗外明媚的晨光投射在异常干燥的空气中，亮得几乎数得清一个个的毛孔。

そして、(28)の「澄み切る」のように、「清澈(qing che)／晴朗(qing lang)」という形容詞に対応しているが、その修飾語の「青空」の一部の意味を入れ込んで、合わせて新しい形容詞「湛蓝(zhan lan)」に訳す場合もある。

<sup>9</sup> 劉月華他著. 片山博美他訳, 1988 : 525.

(28) 複合動詞：澄み切る

中国語訳：「清澈 (qingche) / 晴朗 (qinglang)」

例文：彼女は澄み切った青空を見上げて大きく深呼吸をした。

(基礎資料)

中国語訳：她抬头看着湛蓝的天空 (晴朗的蓝天)，用力地深呼吸。

2.4.2. 生理的現象の極度を表す場合

この場合は、前項動詞は中国語の「形容詞」か「感知動詞」に対応するのが多い。蔡 (2012: 82) は、中国語の「感知動詞」で表す人の「感覚や知覚」に程度があると言えるため、程度副詞で修飾することもできるし、「高程度補語」と合わせて使うこともできると指摘している。

(29) 複合動詞：弱り切る

中国語訳：极度虚弱 / 虚弱得很

例文：体力などが弱り切る。

(web辞書)

中国語訳：体力等极度虚弱 / 虚弱得很。

(30) 複合動詞：疲れ切る

中国語訳：「极度(ji du)疲劳」「累得(de)要死(yao si)」「精疲力尽 (jing pi li jin)」

例文：花子は、新しい職場になじめず、人間関係で疲れ切ってしまった。

(基礎資料)

中国語訳：花子不适应新的工作单位，为人际关系搞得精疲力尽。

(29)、(30) のように、「极度(ji du) V1」にも「V1得 (de) 很(hen)」にも訳すことができる。また、「疲れ切る」のように、「精疲力尽 (jing pi li jin)」という慣用表現に対応する場合もあるが、もちろん「极度(ji du)疲劳(pi lao)」のような <程度副詞V1>、「累(lei)得(de)要死(yao si)」のような <V1程度補語>で訳すこともできる。

2.4.3. 精神や感情の働きの極度を表す場合

この場合は、V1は中国語の「形容詞」か「心理動詞」に対応するのが多い。蔡 (2012: 82) は、中国語の「心理動詞」に「+程度性」という意味特徴があるため、程度副詞で修飾することもできるし、高程度を表す補語と合わせて使うこともできると指摘している。例えば、

(31) 複合動詞：張り切る

中国語訳：很起劲

例文：楽しみにしていたスポーツ大会とあって、みんな張り切って練習している。(基礎資料)

中国語訳：期待已久的运动会即将到来，大家都训练得很起劲。

(32) 複合動詞：安心し切る

中国語訳：彻底安心

例文：事実向いたら心細かったかも知れない。事実何処かで安心し切っていたのかも知れない。

(対訳コ)

中国語訳：事实上，若果然如此，我也许又会不安的，或者是彻底安心了。

(31) の「張り切る」と (32) の「安心し切る」は、人間の精神や感情の状態の極度を表す。中国語に訳せば、「很起劲」、「彻底安心」のような「程度副詞+形容詞」という構造になる。また、「安心し切る」は、「彻底放心」のように、「程度副詞+心理動詞」に訳すこともできる。

以上をまとめてみると、「極度」の部分に姫野 (1999) の挙げられている「～切る」の例において、「治る」、「諦める」、「信じる」などと、「澄む」、「疲れる」、「困る」などを同じように「瞬間動詞」として分析すると、難しいところがあるということが分かった。中国語に訳してみれば、前者は中国語の「動詞」に対応しているが、後者は「形容詞」（「感知動詞」と「心理動詞」もある）に対応するのが多

い。2.3.2.1で述べたように、「諦める」と「治る」は変化動詞として考えられ、「～切る」をつけると、「変化の達成」を表し、中国語では「完全 (wan quan+V1)」(「程度副詞+動詞」に訳す場合が多い。それに対して、「澄む」、「疲れる」、「困る」のような動詞のほうは変化というより、静的状態を表すため、「～切る」をつけると、「静態状態の極度」を表す。中国語では、「程度副詞+形容詞」というパターンに訳すことができる。

### 3. まとめ

#### 3.1. 対訳の傾向

以上、姫野 (1999) の意味分類に従い、基礎資料における例文を主として、中日対訳コーパス、weblio辞書、姫野 (1980) 原文からも一部の例文を抽出し、中国語への翻訳を行った。その結果、「～切る」は、「結果補語」に翻訳するのが一部だけであり、他には「方向補語」、「程度補語」との対応する例もあり、「程度副詞+動詞/形容詞」、「一語化動詞」に訳す場合もある。そういう対訳傾向から、姫野の分類に対して、さらに新しく下位分類をし、「完遂」と「極度」の重なっている部分を明らかに分けられるだろう。具体的に、次の表1にまとめたようである。

表1 「～切る」の意味分類及び中国語に対応するパターン

「切る」の意味		日本語の例	対応する中国語		
			結果補語へ翻訳可	結果補語へ翻訳不可	
切 断	物理的	噛み切る、断ち切る、 焼き切る	V-断 「動詞+結果補語」		
	空間的	突き切る		V-过 「動詞+方向補語」	
終 結	終結	打ち切る、振り切る、 押し切る		V 「一語の動詞」	
	断念 (※劉)	思い切る <sub>1</sub> 、見切る		V 「一語の動詞」	
	決行 (※劉)	思い切る <sub>2</sub> 、踏み切る		V 「一語の動詞」	
完 遂 ・ 極 度	動 作 の 完 遂	量的	食べ切る、走り切る、 読み切る	V-完 「動詞+結果補語」	
		量的 (心理的)	出し切る、描き切る、 歌い切る、なり切る (※姫) <sup>10</sup>	V-尽 「動詞+結果補語」	
		達成感	やり切る、守り切る	(坚持) V-到 (最后) 「動詞+結果補語」	
	変 化 の 結 果	結果の達成	なり切る (※劉)、諦め 切る (※杉)、治り切る (※杉)、信じ切る (※ 劉)		完全-V 「程度副詞+動詞」
		結果の継続 (※劉)	つき切る、こもり切る		一直-V 「時間副詞+動詞」
	状 態	自然現象	澄み切る、乾燥し切 る、静まり切る		極度-A/A得... 「程度副詞+形容詞」 /

<sup>10</sup> (※姫) という記しが付いたのは、姫野 (1999) の分類にある動詞である。(※杉) は、杉村 (2008) の分類にある動詞である。(※劉) は中国語訳による本稿の分類である。

の 極 度	生理的現象	疲れ切る、弱り切る、 やせ切る 酔い切る、冷え切る、 治り切る（※姫）		「形容詞+程度補語」 極度-A <sup>11</sup> /A得... 「程度副詞+形容詞」／ 「形容詞+程度補語」
	感情や精神 の働き	困り切る、安心し切 る、緊張し切る、慌て 切る、 諦め切る（※姫）、信じ 切る（※姫）		極度-A <sup>12</sup> /A得... 「程度副詞+形容詞」／ 「形容詞+程度補語」

表1から見れば、「～切る」の中国語訳には、次のように二つの傾向性があると言えるだろう。

第一は、結果補語への翻訳可能である。主に「切断」と「量的完遂」の場合は、ほぼ結果補語に対応することができる。空間的切断は方向補語に対応しているが、位置変化の結果を表すため、一種の結果表現にみなすことができると言えよう。翻訳可能の原因とえば、「先行事象／原因事象—結果事象」を時間順に把握することで日中語は共通であるためであろう。

第二は、結果補語への翻訳不可能である。まず、「終結」、「断念」や「決断」は、「先行事象／原因事象—結果事象」の関係が薄くなるため、固定表現で訳す。そして、「変化の結果」は、「結果状態」に対する時間的、程度的の限定であるため、「時間副詞や程度副詞+動詞」に翻訳する。また、「状態の極度」というグループのV1は、ほとんど中国語の形容詞に対応しているため「程度副詞+形容詞」で訳すのが一般的であるが、「形容詞+程度補語」という形も同じ意味を表す。

### 3.2. 対訳特徴による考察

まず、「切る」の中国語訳の傾向から見れば、姫野（1999）の分類は問題点があるということが明らかになった。一つは、姫野の「終結」には、「断念」や「終結した後の決行」に注目するのもあるため、「終結」とは言い切れない。本稿では、姫野の「終結」を「終結類」、「断念類」、「決行類」に分けてみた。もう一つは、「結果状態」と「状態変化」が区分されていないことである。そのため、「完遂」と「極度」の意味が混同しているのである。本稿は、姫野の「完遂」と「極度」を合併させ、また「動作の完遂」と「変化の結果」と「状態の極度」の三つの下位分類を行った。

そして、「～切る」は、補助動詞として「完了」というアスペクト的意味のみならず、その結果状態が数量的、時間的、程度的に、それ以上進まない極限になるという意味もある。そのため、「完遂」と「極度」は分け切れるものではなく、「～切る」の結果状態に共存している。しかし、日本語の複合動詞に「情動的内包」と「感化的内包」が融合しているのに対して、中国語はより区分されている特徴がある。つまり、中国語において、「情動的内包」は結果補語で表し、「感化的内包」は状語や程度補語など（連用修飾成分）で表す場合が多いと言えよう。そのため、「切断」と「行為の完遂」は「結果補語」へ翻訳可、「変化の結果」と「状態の極度」は「結果補語」へ翻訳不可であるという傾向が見られる。

### 3.3. 今後の課題

本稿は、「～切る」の中国語訳から、「結果事象」に対する把握は、日中両言語においてどんな異同があるかを考察した。しかし、まだ解けない謎が残っている。「～切る」は、主に「状態変化」を表す後項動詞であっても、「結果状態」と「状態変化」を持ち合わせる場合も少なくない。中国語の補語は、豊富な意味や使い方があるが、「結果状態」と「状態変化」が重なった場合がある。今後は、「～切る」の豊かな用例を収集し、共起するアスペクト的マーカーや名詞句、副詞句、類義の後項動詞との比較も考えに入れて分析したい。両言語の「結果表現」と「状態表現」の異同を明らかにするのが期待される。

<sup>11</sup> 「形容詞」を主としているが、「感知動詞」に訳す場合もある。

<sup>12</sup> 「形容詞」を主としているが、「心理動詞」に訳す場合もある。

そして、姫野(1999)の指摘によると、「～切る」の打消し表現にもずいぶんバラエティを見せている。「～きれない」の形が圧倒的に多く、「～きることができない」、「～きらない」、「～きっていない」などの形も使われている。それらの形は、中国語に訳せば、可能補語「V不完」、「V不了」の形になると推測できるが、対応関係はどんな様子なのか、意味にはずれがあるのか、今後の課題に譲る。

注：

言語の持つ内包は、情動的な内包(informative connotations)と感化的内包(affective connotations)に分けることができる。(〔S・I・イトカワ 大久保忠利訳, 1985〕:71) 語の情動的な内包とは、社会的に同意された「非個人的」(公共的、社会的、真理的)の意味で、定義と外縁を含む。公共的に客観的なコトやモノの意味があることを了解することで意味が形成される。語の感化的な内包とは、それが引き起こす個人的感情の雰囲気のことである。こうした感情に必然的な一致はないが傾向はある。集団内で了解された主観的な、あるいは文化的、習慣的なコトやモノの意味があることを了解することで意味が形成される。

(佐野洋 2017:2)

## 参考文献

- 蔡麗. (2012). 《程度范畴及其在补语系统中的句法实现》. 世界图书出版公司.
- 姫野昌子. (1980). 複合動詞「～きる」「～ぬく」「～とおす」. 『日本語学校論集』7. 23-46.
- 姫野昌子. (1999). 複合動詞の構造と意味用法. ひつじ書房.
- 影山太郎. (1993). 文法と語形成. ひつじ書房.
- 劉月華他著. (1983). 《实用现代汉语语法》. 外语教学与研究出版社.
- 劉月華他著, 片山博美他訳. (1988). 現代中国語文法総覧(上、下). くろしお出版.
- 小柳昇他. (2017.6). 日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1(添付資料を参照).
- 佐野洋. (2017.6.5). 多言語による複合動詞翻訳プロジェクト
- 申亜敏, 望月圭子. (2011) 「日本語と中国語の複合動詞の語形成」. 『汉日语言对比研究论丛第二辑』2 卷. 汉日对比语言学研究(协作)会. 北京大学出版社, 46-72.
- 杉村泰. (2008). 複合動詞「～切る」の意味について. 『言語文化研究叢書』7, 63-79.
- 寺村秀夫. (1984). 日本語のシンタクスと意味□. くろしお出版
- 鳥井克之. (2005). 中国語の構文分析法. 『関西大学外国語教育研究』9. 関西大学, 33-49.
- 張黎. (2010). 中国語における「動作-結果」の統語表現とその認知類型学的な解釈について. 『大阪産業大学論集』人文・社会科学編10. 大阪産業大学, 1-25.
- 張岩紅. (2006). 結果補語“完”と“过”とについて—“吃完”、“吃过”を例にして. 『中国語の補語』. 日中対照言語学会. 白帝社, 123-143.



## 韓国語からみた日本語複合動詞 — 「～あがる」と「～あげる」を中心に—

崔正熙 (チェ・ジョンヒ)  
東京外国語大学 博士後期課程

### 1. はじめに

日本語の複合動詞は「押し開ける」「持ち上げる」「泣き叫ぶ」など「自立語(V)」+「自立語(V)」タイプの他にも「言い出す」「考え込む」「炊き上がる」などのように後項動詞が補助動詞のような働きをする「自立語(V)+付属語(v)」タイプのものが非常に発達しており、その一部はアスペクト的機能も担当している。一方、韓国語の複合動詞は、「自立語」+「自立語」タイプが大半を占めており、日本語に比べると複合動詞の語形成が乏しいと言える。例えば、以下のような日本語のアスペクト複合動詞は韓国語では複合動詞ではなく、名詞化接尾辞(-ki)や副詞(olay/長く)などを含む動詞句で表れる。

(1) a. 雨が降り出す。

b. 비가 오기 시작하다.<sup>1</sup>

pi=ka o-ki sicakhata.

雨=NOM 降る-NMLZ 始める

(2) a. 使い込む。

b. 오래 사용하다.

olay sayonghata.

長く 使用する

このように日本語と韓国語の複合動詞は担当する機能の領域が異なると言える。そのため、日本語を学習する韓国語母語話者は、日本語の複合動詞の習得に困難を覚えることが多く、複合動詞の非用や誤用が目立つ。本稿では上方への移動を表す「上がる」「上げる」という動詞が複合動詞の後項動詞として用いられる場合、その意味や機能が拡大し、高い造語力を持つことに注目し、韓国語への翻訳における諸特徴を分析する。まず、「V1+あがる」「V2+あげる」を意味・用法別に分類し、韓国語翻訳において複合動詞（または動詞+補助動詞<sup>2</sup>）で表せる場合と表せない場合を明らかにし、後者の場合は具体的にどのような形式で表れるかを考察する。これらの分析は学習者の「V1+あがる」「V2+あげる」の非用や誤用の原因を究明することにもつながるため、日本語教育においてより効果的な教授法を考える上で参考になると考えられる。

なお、本稿における研究の方法としては、姫野(1999)で提示されている「～あがる」「～あげる」の分類法と該当する複合動詞のリストをベースとしており、分析のデータとしては、国立国語研究所の「複

<sup>1</sup> 本稿でのハングルのローマ字転写はイェール式を採用している。これはイェール大学のサミュエル・マーティンが考案した朝鮮語の翻字法として、言語学の学術論文などで主に用いられている。

母音: ㅏ [a], ㅑ [ya], ㅓ [e], ㅕ [ye], ㅗ [o], ㅛ [yo], ㅜ [u], ㅠ [yu], ㅡ [u], ㅣ [i], ㅞ [ay], ㅟ [yay], ㅠ [ey], ㅡ [yey], ㅢ [wa], ㅣ [way], ㅤ [oy], ㅥ [we], ㅦ [wey], ㅧ [wi], ㅨ [uy]

子音: ㄱ [k], ㅋ [kk], ㄴ [n], ㄷ [t], ㅌ [tt], ㄹ [l], ㅁ [m], ㅂ [p], ㅃ [pp], ㅅ [s], ㅆ [ss], ㅇ [ng], ㅈ [c], ㅉ [cc], ㅊ [ch], ㅋ [k], ㅌ [th], ㅍ [ph], ㅎ [h]

<sup>2</sup> 韓国語は「動詞+動詞（複合動詞）」と「本動詞+補助動詞」のいずれも連結語尾「-a/e」で結合されるため、これらを区別することは容易ではない。また、「本動詞+補助動詞」の場合でも使用頻度が高く、動詞間の結合性が強い場合は、一つの語として認められ、辞書の見出し語になり「複合動詞」として分類される。しかし、見出し語としての登録の有無が辞書によって異なるなど、複合動詞か否かの判断は極めて難しい。本稿では「動詞+動詞」のタイプとその他の形式を区別することに焦点を置いているため、「本動詞+補助動詞」とも捉えられる一部のタイプを複合動詞の類に含めることとする。

合動詞レキシコン」(以降【レキ】と略)と東京外国語大学プロジェクトによる「日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1」(以降【基礎資料】と略)の韓国語翻訳データを用いている。

## 2. 分析の結果

### 2.1. 「～あがる」とその韓国語訳における傾向分析

本節では姫野(1999)の分類に従って「～あがる」の意味・用法を「上昇」「完了」「強調」「増長」「尊敬語」の5つに分類し、それぞれの韓国語翻訳においてどのような傾向が見られるかを考察する。

#### 2.1.1. 上昇

「～あがる」が持つ意味・用法の一つである「上昇」を姫野(1999)では「全体的上昇」と「部分的上昇」に分け、さらに「全体的上昇」を「空間的上昇」と「序列の上昇」「地位の上昇」の3つに、「部分的上昇」を「形の伸長」「形の縮小」「量の減少による形の縮小」の3つに下位分類している。

まず、「全体的上昇」の「空間的上昇」の場合は、該当する24件の「V1+あがる」のうち、「浮き上がる」「跳び上がる」などを含む18件が日本語の「～上がる」に対応する「～오르다(oluta)」で表れている。また「持ち上がる」を含む4件は「上がっていく」という意味を持つ「～올라가다(ollakata)」で、「打ち上がる」を含む2件は「上げられる」という意味を持つ「～올려지다(ollyecita)」で訳されている。

#### (3) a. ヘリコプターが上空に飛び上がった。【レキ】

##### b. 헬리콥터가 상공으로 날아올랐다.

heyllikhopthe=ka sangkong=ulo nal-a-olla-ss-ta.

ヘリコプター=nom 上空=dat 飛ぶ-cvb-上がる-pst-decl

「序列の上昇」に含まれるのは「繰り上がる」の1件であり、韓国語訳は「～oluta)ではなく、「前に引かれる」という意味を持つ単純動詞の「앞당겨지다 (aphtangkyecita)」に対応している。

#### (4) a. 開園時間が1時間繰り上がって8時になった。【基礎資料】

##### b. 개원 시간이 1시간 앞당겨져서 8시로 바뀌었다.

kaywen sikan=i han sikan aphtngkye-cye-se yetelp si=lo pakkwi-ess-ta.

開園 時間=NOM 1時間 前引く-CVB-PASS-CVB 8時=DAT 変わる-PST-DECL

「地位の上昇」に当たるのは「勝ち上がる」「のしあがる」「成りあがる」の計3件であり、「勝ち上がる」は「勝って上がっていく」という意味を持つ動詞連続構文の「이겨 올라가다 (ikye ollakata)」で、「のしあがる」は「～oluta)を後項動詞とする複合動詞の「뻘어 오르다/ppete oluta(伸び上がる)」で、「成りあがる」は「突然の出世をする」という意味を持つ動詞句の「벼락 출세를 하다 (pyelak chwulsyelul hata)」でそれぞれ訳されている。

次に「部分的上昇」の「形の伸長」の場合は、合計8件のうち、「燃え上がる」「膨れ上がる」を含む6件が「～oluta)を後項動詞とする複合動詞に対応しており、残りの「起き上がる」「伸び上がる」はそれぞれ「～oluta)を伴わない複合動詞、単純動詞で表れている。

#### (5) a. 炎が空中高く燃え上がった。【レキ】

##### b. 불길이 하늘 높이 타올랐다.

pwulkil-i hanul noph-i tha-(a)-olla-ss-ta.

炎=NOM 空 高い-ADLZ 燃える-CVB-上がる-PST-DECL

「形の縮小」の場合は、4件すべて「～oluta)ではなく、「～ollakata (上がっていく)」という複合動詞を含む動詞連続構文 (serial verb construction) に対応している。

「量の減少による形の縮小」に該当するのは、「はげあがる」「抜けあがる」「切れあがる」の3件であり、それぞれ「(머리가) 벗어지다/ (melika) pesecita ((頭が) 脱げる)」「빠지다/ppacita (抜ける)」

「찢어지다/ccicecita (切れる)」という動詞(句)で訳されており、いずれも「V1+oluta」の形式では表れなかった。

以上、「上昇」の意味を持つ「V1+あがる」の韓国語訳における表現形式をまとめると【表1】のようになる。

表1 「上昇」の意味を持つ「V1+あがる」の韓国語訳における表現形式

大分類	中分類	小分類	韓国語訳における表現形式
上昇	全体的 上昇	空間的上昇	V1+oluta (一部V1+ollakata, V1+ollyecita)
		序列の上昇	V1+ollakata, 単純動詞
		地位の上昇	V1+oluta, 動詞句
	部分的 上昇	形の伸長	V1+oluta, 単純動詞, olutaを伴わない複合動詞
		形の縮小	V1+ollakata
		量の減少による形の縮小	単純動詞, 動詞句

### 2.1.2. 完了

「V1+あがる」の意味・用法のうち、「完了」の場合は「作業活動の完了」と「自然現象の完了」の二つに分かれる。まず、「作業活動の完了」に該当するのは計25件であり、韓国語訳においてはいずれも「다 (ta/すべて) + V1(受動形)」の形式で表される。また一部、「出来上がる」「仕上がる」などは「wansengteyta (完成される)」という単純動詞でも、「干しあがる」「煮え上がる」は「程度を強調する副詞+V1」の形式でも表すことができる。

(6) a. パスタが茹で上がった。【レキ】

b. 파스타가 다 삶아졌다.

phasutha=ka ta salm-a-cy-ess-ta.

パスタ=nom すべて 茹でる -cvb-pass-pst-decl

次に「自然現象の完了」の場合は、「晴れあがる」「干あがる」「涸れあがる」の3件とも「程度を強調する副詞(表現) + V1」の形式で表れた。ただし、すでに程度を強調する副詞が文中に含まれている場合は、V1のみで表れるケースもある。

(7) a. 台風が過ぎて、空がからっと晴れ上がった。【基礎資料】

b. 태풍이 지나가고 하늘이 아주 맑게 개었다.

thaphwung=i cinaka-ko hanul=i acwu malk-ke kay-ess-ta.

台風=NOM 過ぎる-CVB 空=NOM とても 清い-ADLZ 晴れる -PST-DECL

### 2.1.3. 強調

「強調」の場合は、8件中3件が「程度を強調する副詞+V1」の形式で表れ、3件が「tulata (入る)」を後項動詞とする複合動詞で、2件が単純動詞で表れた。「tulata」は内部への移動を表す動詞であるが、複合動詞の後項動詞として用いられる場合は、その動作の進行・状態を強調する機能を持つ。

(8) a. 一歩外に出ると、あまりの寒さに震えあがった。【基礎資料】

b. 한 발 밖으로 나가자 매서운 추위에 벌벌 떨었다.

han pal pakk=ulo naka-ca mayse-wun chwuwi=ey pelpel ttel-ess-ta.

一歩外=DAT 出る-ADVC.COND ひどい-ADNC.NPST 寒さ=DAT ぶるぶる 震える -PST-DECL

2.1.4. 増長

「思いあがる」「つけあがる」の2つの動詞がこのタイプに当たり、いずれも「기어오르다/kieoluta」で訳されている。「기어오르다/kieoluta」は「這い上がる」を原義としているが、その意味が拡張し、「思い上がる」「つけ上がる」という意味としても使われる。

(9) a. 私たちがやさしい態度をとると、彼は付け上がった。【レキ】

b. 우리가 친절하게 대하면 그는 기어올랐다.

wuli=ka chincelha-key tayha-myen ku=nun ki-e-oll-ass-ta.

私たちは=NOM 親切だ-ADLZ 接する-ADVC.COND 彼=TOP 這う-CVB-上がる-PST-DECL

2.1.5. 尊敬語

「召しあがる」がこれに当たり、韓国語では「먹다(mekta/食べる)」の尊敬語である「드시다/tusita」で訳される。

(10) a. 刺身を召し上がりますか？【レキ】

b. 회를 드시겠습니까?

hoy=lul tusi-keyss-supnikka?

刺身=acc 召し上がる -prob-intr.pol

これまでの「～あがる」とその韓国語訳における傾向分析の結果を「～上がる」という意味を持つ「～오르다(oluta)」という動詞との対応関係で示すと【表2】の通りとなる。

表2 複合動詞の後項動詞としての「～あがる」と「～오르다(oluta)」の意味領域

	「～あがる」	「～오르다(oluta / 上がる)」
上昇	○	○
完了	○	×
強調	○	×
増長	○	△
尊敬語	○	×

なお、2.1節における分析結果を次のようにまとめることができる。

- ① 「V1+あがる」は韓国語では複合動詞 (V1+olutaなど)、動詞句 (副詞+動詞, 動詞連続構文)、単純動詞など様々な形式で表れる。
- ② 「空間的上昇」の場合は「V1+oluta (上がる)」で訳されるケースがほとんどであり、一部「V1+ollakata (上がって行く)」「V1+ollyecita (上げられる)」などの形式で表れる場合もある。
- ③ 「oluta (上がる)」を後項動詞とする複合動詞で表れる場合は「上昇」の意味を持つケースにほぼ限定されており、「完了」「強調」「尊敬語」の場合は「oluta」は見られなかった。韓国語の「oluta」は一部意味の抽象化は起きるものの、ほとんどの場合、「上昇」という原義にとどまっており、日本語の「～あがる」ようなアスペクト的意味は持っていないことがわかる。
- ④ 「V1+oluta」には「完了」の意味がないため、「完了」を表す「～あがる」はほとんどの場合、「ㄷ(すべて)+動詞(受動形)」の形式で表れる。そのため、「完了」の「～あがる」は、日本語を学習する韓国語母語話者にとっては非用の可能性が高いケースと言える。
- ⑤ 「V1+oluta」には「強調」の意味がないため、「強調」を表す「～あがる」は「程度を強調する副詞+動詞」などの形式で表れる。同じく日本語を学習する韓国語母語話者にとっては非用の可能性

が高いケースと言える。

## 2.2. 「～あげる」とその韓国語訳における傾向分析

「～あげる」の意味・用法は姫野(1999)の分類に従って「上昇」「社会的行為」「体内の上昇」「完了」「強調」「その他」の6つのタイプに分けて考察を行う。

### 2.2.1. 上昇

姫野(1999)で提示されている「上昇」の下位分類は「全体的上昇」と「部分的上昇」であり、さらに「全体的上昇」は「空間的上昇」と「序列の上昇」の2つに、「部分的上昇」は「形の伸長」「形の縮小」「量の減少による形の縮小」の3つに分類されている。「～あげる」の場合、「～あがる」の「全体的上昇」の下位分類にあった「地位の上昇」は含まれていない。

「全体的上昇」の「空間的上昇」の場合、「上げる」の意味を持つ「올리다 (ollita)」を後項動詞とする複合動詞で表れるケースは10件中6件であり、残りの4件はそれぞれ「올라오다/ollaota (上がってくる)」、「올라가다/ollakata (上がっていく)」, 単純動詞, 「～ollita」を伴わない複合動詞で表れている。

#### (11) a. ロケットは種子島の宇宙センターから打ち上げられた. 【基礎資料】

b. 로켓은 다네가시마의 우주 센터에서 쏘아 올려졌다.

lokheys=un taneykasima=uy wucwu seynte=eyes sso-a olly-e-cye-ss-ta.

ロケット=TOP 種子島=GEN 宇宙センター=LOC 打つ-CVB 上げる-CVB-PASS-PST-DECL

「序列の上昇」には「繰りあげる」「切りあげる」「競りあげる」の3件が含まれるが、「繰りあげる」「切りあげる」はそれぞれ「앞당기다/aphtangkita(前(に))引く)」、「올림하다/ollimhata(\*上げする)」という単純動詞で、「競りあげる」は「다투어 끌어올리다/tathwue kkuleollita(競って引き上げる)」という動詞連続構文で表れている。

#### (12) a. 彼はマグロの値段を競り上げた. 【レキ】

b. 그는 참치 가격을 다투어 끌어올렸다.

ku=nun chamchi kakyekek=ul tathwu-e kkul-e-olly-ess-ta.

彼=TOP マグロ価格=ACC 競う-CVB 引く-CVB-上げる-PST-DECL

「部分的上昇」の「形の伸長」に含まれるのは、「持ちあげる」「積みあげる」などの4件であり、これらに対応する韓国語はいずれも「V1+ollita」の複合動詞となっている。

#### (13) a. 男は100kgのバーベルを持ち上げた. 【レキ】

b. 남자는 100kg의 바벨을 들어올렸다.

namca=nun paykkihillogulaym=uy papeyl=ul tul-e-olly-ess-ta.

男=TOP 100kg=GEN バーベル=ACC 持つ-CVB-上げる-PST-DECL

「形の縮小」には「巻きあげる」「折りあげる」「まくしあげる」の3件が該当し、韓国語訳においてはいずれも「V1+ollita」に対応している。

#### (14) a. その漁船は釣り糸をモーターで巻き上げる. 【基礎資料】

b. 그 어선은 낚시줄을 모터로 감아 올린다.

ku esen=un nakksicwul=ul mothe=lo kam-a olli-nta.

その漁船=TOP 釣り糸=ACC モーター=INS 巻く-CVB 上げる-DECL.NPST

「量の減少による形の縮小」には「刈りあげる」と「剃りあげる」の2つが含まれ、データ上ではいずれも「V1+ollita」の複合動詞で表れた。

(15) a. 彼は頭を刈り上げた. 【レキ】

b. 그는 머리를 깎아 올렸다.  
 ku=nun meli=lul kkakk-a olly-ess-ta.  
 彼=top 頭=acc 刈る-cvb 上げる-pst-decl

以上、「上昇」の意味を持つ「V1+あげる」の韓国語訳における表現形式をまとめると【表3】のようになる。

表3 「上昇」の意味を持つ「V1+あげる」の韓国語訳における表現形式

大分類	中分類	小分類	韓国語訳における表現形式
上昇	全体的 上昇	空間的上昇	V1+ollita (その他V1+ollaota, V1+ollakata, 単純動詞, ollitaを伴わない複合動詞)
		序列の上昇	単純動詞, 動詞連続構文(ollitaを含む)
	部分的 上昇	形の伸長	<u>V1+ollita</u>
		形の縮小	<u>V1+ollita</u>
		量の減少による形の縮小	<u>V1+ollita</u>

### 2.2.2. 社会的行為

「社会的行為」は「下位者から上位者に対する行為」と「上位者から下位者に対する行為」の二つに分類される。前者に該当する複合動詞の中で「申しあげる」「願いあげる」の2件は「名詞+드리다/tulita(ささげる)」で、残り1件の「さしあげる」は「tulita(ささげる)」という単純動詞で表れている。なお、「tulita」は場合によっては「말씀 올리다(お言葉+上げる)」のように「올리다(ollita/上げる)」に置き換えることもできる。

(16) a. 心からお礼を申し上げます.

b. 진심으로 감사 말씀드립니다. 【基礎資料】  
 cinsim=ulo kamsa malssum tuli-pnita.  
 心身=INS 感謝 お言葉-ささげる-DECL.NPST.POL

「上位者から下位者に対する行為」に該当する「買いあげる」「借りあげる」「召しあげる」「巻きあげる」「取りあげる」の5件のうち、「ollita」を後項動詞とする複合動詞で表れるケースは1件もなかった。それぞれ単純動詞, ollitaを伴わない複合動詞などで訳されている。

(17) a. 先生はその生徒から漫画を取り上げた. 【レキ】

b. 선생님은 그 학생한테서 만화를 압수했다.  
 sensayngnim=un ku haksayng=hantheyse manhwa=lul apswuhay-ss-ta.  
 先生=TOP その生徒=ABL 漫画=ACC 押収する-PST-DECL

### 2.2.3. 体内の上昇

「体内の上昇」に当たる6件のうち、「ollita」を後項動詞とする複合動詞で表れるケースは1件もなかった。「咽びあげる」「しゃくりあげる」は「흐느껴 울다/hunukkye wulta(すすり泣く)」という動詞連続構文に、「すすりあげる」「咳あげる」は「흡쩍 (hwulccek/グスン)」「콜록 (khollok/ゴホン)」などのオノマトピアから成る単純動詞に対応している。

(18) a. 彼女は突然, 咽び上げ始めた. 【基礎資料】

b. 그녀는 갑자기 흐느껴 울기 시작했다.  
 kunye=nun kapcaki hunukky-e-ul-ki sicakhay-ss-ta.

彼女=TOP 突然 咽ぶ-CVB 泣く-NMLZ 始める-PST-DECL

#### 2.2.4. 完了

「～あげる」の「完了」は「完成品を伴う作業活動の完了」と「作業活動の完了」の二つに分かれている。前者に該当する7件のうち、「焼きあげる」「炒りあげる」「育てあげる」などを含む6件は「～내다(nayta)」を後項動詞とする複合動詞に対応している。「nayta」は「出す」のように「外部への移動」を原義とする動詞であるが、複合動詞の後項動詞として用いられる場合は、「試練を乗り越えてV1の行動を全うする」という「完了」の意味を持つ。日本語の「～ぬく」「～とおす」「～きる」などがこれに対応する。

残り1件の「読みあげる」は、「～아가る」の「完了」と同様に「다 (ta/すべて)」という副詞が用いられている。ただし、「～아가る」で観察されたように動詞が「受動形」になることはない。

(19) a. 麵を茹で上げた.

b. 면을 삶아 내었다.

myen=ul salm-a nay-ess-ta.

麵=acc 茹でる-cvb 出す-pst-decl

「作業活動の完了」に該当する4件のうち、「調べあげる」は「철저히 조사하다/chelcehi cosahata(徹底して調査する))」で、「数えあげる」は「다 세다/ta seyta(すべて数える))」で、「売りあげる」は「다 팔아 버리다/ta phala pelita(すべて売ってしまう)」で、「勤めあげる」は「근무를 다 마치다/kunmulul ta machita(勤務をすべて終える)」でそれぞれ訳されている。

(20) a. デパートはすべての商品を売り上げた. 【レキ】

b. 백화점은 모든 상품을 다 팔아 버렸다.

payhwacem=un motun sangphwum=ul ta phal-a pely-ess-ta.

デパート=TOP あらゆる 商品=ACC すべて 売る-CVB しまう-PST-DECL

#### 2.2.5. 強調

「強調」に当たるのは計5件であり、「ほめあげる」「縛りあげる」は「程度を強調する副詞+V1」, 「おだてあげる」「締めあげる」は「ollita」を伴わない複合動詞, 「おどしあげる」は単純動詞で表れている。

(21) a. 彼は泥棒を縛り上げた.

b. 그 남자는 도둑을 퐁퐁 묶었다.

ku namca=nun totwuk=ul kkongkkong mukk-ess-ta.

その男=TOP 泥棒=ACC ぎゅうぎゅう 縛る-PST-DECL

#### 2.2.6. その他

「(声を) 張りあげる」「読みあげる」はそれぞれ「(소리를) 지르다/ (soli-lul) ciluta( (声を) 張る)」「소리 내어 읽다/soli naye ilkta(声に出して読む)」という動詞(句)で、「歌いあげる」「引きあげる」「切りあげる」は単純動詞で表れている。

(22) a. 大声を張り上げて歌う必要はありません.

b. 큰소리를 지르며 노래할 필요는 없습니다.

khunsoli=lul cilu-mye nolayha-l philyo=nun eps-supnita.

大声=acc 張る-cvb 歌う-adnc.irr 必要=top ない-decl.npst.pol

これまでの「～あげる」とその韓国語訳における傾向分析の結果を「～あげる」という意味を持つ「～올리다(ollita/上げる)」という動詞との対応関係で示すと【表4】の通りとなる。

表4 複合動詞の後項動詞としての「～あげる」と「～올리다(ollita)」の意味領域

	「～あげる」	「～올리다(ollita/上げる)」
上昇	○	○
社会的行為	○	△ <sup>3</sup>
体内の上昇	○	×
完了	○	×
強調	○	×
その他	○	×

なお、2.2節における分析結果を次のようにまとめることができる。

- ① 「～あげる」は韓国語では複合動詞 (V1+ollitaなど)、動詞句 (副詞+動詞, 動詞連続構文)、単純動詞など様々な形式で表れる。
- ② 「空間的上昇」の場合は「V1+ollita (上げる)」で訳されるケースがほとんどであり、一部「V1+ollaota (上がってくる)」「V1+ollakata (上がっていく)」などの形式で表れる場合もある。
- ③ 「ollita (上げる)」を後項動詞とする複合動詞で表れる場合は「上昇」の意味を持つケースにほぼ限定されており、一部、「社会的行為」において「名詞+ollita」の形式で「ollita」が用いられる場合がある。「体内の上昇」「完了」「強調」「その他」の場合は「ollita」は見られなかった。韓国語の「ollita」は日本語の「～あげる」のようなアスペクト的意味は持っていないことがわかる。
- ④ 「体内の上昇」「完了」「強調」「その他」は「V1+ollita」にはない用法であるため、これらの意味を持つ「V1+あがる」は、日本語を学習する韓国語母語話者にとっては非用の可能性が高いケースと言える。
- ⑤ 「完了」の場合、「完成品を伴う作業活動の完了」では、完了の意味を表す「nyata (出す)」を後項動詞とする複合動詞に、「作業活動の完了」では、「～あがる」の「作業活動の完了」と同様にほとんどの場合、「다 (ta/すべて)+動詞」または「程度を強調する副詞+動詞」に対応している (表5)。
- ⑥ 「強調」の場合はほとんどが「程度を強調する副詞+動詞」の形式で表れる。

表5 「～あがる」「～あげる」の「完了」に対応する韓国語の表現形式

		～あがる	～あげる
作業活動の完了	完成品と伴う場合	다 (ta/すべて) + V1(受動形) (または程度副詞+動詞)	V1 + nyata (または다 (ta/すべて) + V1)
	完成品を伴わない場合	-	다 (ta/すべて) + V1 (または程度副詞+動詞)
自然現象の完了		程度副詞+動詞	-

### 3. まとめと今後の課題

以上の考察から日本語の「～あがる」「～あげる」は原義である「上昇」の意味以外にも様々な拡張義を持ち、語としての領域を超え、アスペクトを表す機能を持つ場合もあるのに対して、韓国語の「～oluta」「～ollita」は意味や機能の拡張はほとんどなく、「上昇」という原義にとどまっていることがわかった。

<sup>3</sup> 「下位者から上位者に対する行為」を表す「～올리다(ollita/あげる)」のみ存在する。

佐野(2017)では姫野(1999)の分類は結局「位置変化(空間移動)」と「状態変化(時間経過)」の二つに再分類でき、前者には「上昇」、後者には「上昇以外のもの」が含まれるとした。本稿での考察の結果をこの分類に当てはめると「位置変化」の場合は、「～あがる」「～あげる」と「～oluta」「～ollita」の対応関係が成立し、「状態変化」の場合はほとんど成立しないことがわかる。つまり、「位置変化」から「状態変化」へ意味が拡張する場合、言語によってそれを表現する道具が異なるが、日本語の場合は複合動詞が、韓国語の場合はその他の形式が担当するということである。

また、塚本(2009)では日本語と韓国語の形態・統語的仕組みの違いについて次のように述べている。

日本語は「語と節・文が重なり合わさって融合している性質のものが存在する。朝鮮語は語なら語、節・文なら節・文といったように語と節・文の地位を明確に区別する仕組みになっている。(塚本2009:332)

このような両言語の根本的な違いが複合動詞における意味や機能範囲の違いを生み出しているのではないかと考えられる。今後は「～あがる」「～あげる」以外の複合動詞に関する考察も順次行い、両言語の複合動詞の全体像を明らかにする必要がある。

表6 略号一覧

ABL	ablative	奪格	LOC	locative	位格
ACC	accusative	対格	MNN	manner	様態
ADLZ	adverbializer	副詞化	N-	non-	非-
ADNC	adnominal clause	連体節	NMLZ	nominalizer	名詞化
ADVC	adverbial clause	連用節	NOM	nominative	主格
CVB	converb	副動詞	NPST	non-past	非過去
COND	conditional	条件形	PASS	passive	受動形
DAT	dative(-locative)	与(位)格	POL	polite	丁寧
DECL	declarative	叙述	PST	past	過去
GEN	genitive	属格	TOP	topic	主題
INS	instrumental	具格	-		接辞境界
IRR	irrealis	非現実	=		接語境界

#### 参考文献

韓国語で書かれたもの

Kim Ilpyeng.2000. “kwuke hapsenge yenkwu” [国語合成語研究], Seoul: Yeklak.

Son seymotol.1996. “Kwuke pocoyongen yenkwu” [国語補助用言研究], Seoul: Hankwukmwunhwasa.

日本語で書かれたもの

塚本秀樹(2009)「日本語と朝鮮語における複合動詞考察-対照言語学からのアプローチ-油谷幸利先生還暦記念論文集刊行委員会(編)『朝鮮半島のことばと社会-油谷幸利先生還暦記念論文集』pp.313-341, 明石書店.

(2013)「日本語と朝鮮語における複合動詞として成立不成立とその様相-新影山説に基づく考察-, pp.301-329, 影山太郎(編)『複合動詞研究の最先端-謎の解明に向けて-』pp.331-373, ひつじ書房.

影山太郎(2013)「語彙的複合動詞の新体系」, 影山太郎(編)『複合動詞研究の最先端-謎の解明に向けて-』pp.331-373, ひつじ書房.

佐野洋(2017)「多言語による複合動詞翻訳プロジェクト」(非公開)

姫野昌子(1976)「複合動詞・「～あがる」, 「～あげる」および下降を表す複合動詞類」日本語学校論集,  
東京外国語大学.  
(1999)『複合動詞の構造と意味用法』, ひつじ書房.

用例の出典

小柳昇他「日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1」(2017年6月)  
国立国語研究所「複合動詞レキシコン(日本語複合動詞辞典)」<http://vvlexicon.ninjal.ac.jp>

## ベトナム語から見た日本語複合動詞「～あがる／あげる」

PHAM THI THANH THAO (ファム ティ タイン タオ)

東京外国語大学 大学院総合国際学研究所 博士前期課程

### 1. はじめに

日本語の複合動詞はベトナム人日本語学習者にとって習得が困難な項目の一つである。この習得の困難さは両言語における複合動詞の体系に共通点が少なく、相違点が多く存在することに由来すると言えるだろう。

本稿は東京外国語大学・国際日本研究センター・多言語複合動詞プロジェクトの一環として、日本語複合動詞「～あがる／あげる」(以下、「～あがる／あげる」という)をベトナム語に翻訳した上で、「～あがる／あげる」がベトナム語ではどのように表されるのか、言い換えると、どんな構造になるかについて考察したものである。

ベトナム人日本語学習者にとっては、「立ちあがる」、「飛びあがる」、「持ちあげる」、「打ちあげる」などの「上方移動」という基本的な意味を表す複合動詞は習得しやすいが、「焼きあがる」、「褒めあげる」、「思いあがる」などの「完了・完成」、「強調」、「凶々しさ」といった基本的な意味から抽象化・文法化された意味を表す複合動詞は非常に習得し難い。「上方移動」という基本的な意味においては、日本語の「～あがる／あげる」はベトナム語の“～lên”と対応するから、ベトナム人日本語学習者が理解しやすい。拡張された他の意味においては、ベトナム語訳で多様な表現が表れるから、習得が困難な原因になると予想できる。

本稿では、多言語複合動詞プロジェクトの共通資料をデータベースに、姫野(1999)の「～あがる／あげる」の意味分類に基づき、共通資料に挙げる「～あがる／あげる」の語義と例文をベトナム語に翻訳した上で、「～あがる／あげる」とベトナム語との対応関係をまとめる。

### 2. 「～あがる／あげる」のベトナム語訳

#### 2.1. 両言語における複合動詞の体系

##### 2.1.1. 日本語の複合動詞

日本語の複合動詞は、影山(1993)の分類によれば、「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」の二種類に分類される。「統語的複合動詞」とは、後項動詞V2が、V1を主要部とする補文をとる複合動詞である。例えば、「書き始める」「書き続ける」「書き終わる」は、統語的複合動詞である。

一方、「語彙的複合動詞」とは、後項動詞V2が直接、前項動詞V1の連用形に結合する。すなわち、二つの語彙範疇が直接的に複合しているという点で「語彙的」である。

さらに、影山(2013)は、語彙的複合動詞の下位分類として、「主題関係複合動詞」と「アスペクト複合動詞」を提案している。影山(1993)及び影山(2013)の複合動詞の分類を整理すると、以下の表1のようになる。

表1 日本語における複合動詞の分類(影山太郎1993、2013)

統語的複合動詞	語彙的複合動詞	
	主題関係複合動詞	アスペクト複合動詞
～終わる、～始める、～出す、～かける、～続ける、～すぎる、～そこなう、～合う、～まくる、～たおす、～ぬく、～なおす、～慣れる、	1. 手段：突き落とす、踏みつぶす、押し開ける 2. 様態：流れ着く、転げ落ちる、忍び寄る、舞い降りる 3. 原因：歩き疲れる、抜け落	1. 補分関係：聞き逃す、編みあがる、死に急ぐ 2. 副詞的：晴れ渡る、使い果たす、居合わせる

～はる（関西方言。主語の動作に対する敬意）	ちる、焼け死ぬ 4. 並列：忌み嫌う、恋い慕う、慣れ親しむ
-----------------------	----------------------------------

### 2.1.2. ベトナム語の複合動詞

ベトナム語にも、複合動詞が存在し、「並列複合動詞」と「従属複合動詞」に分類されている。「並列複合動詞」とは語構成成分素が対等の関係にある語である。「従属複合動詞」とは語構成成分が対等でなく、一方がもう一方に従属している語である。Nguyen Thi Ngu (2014) によると、影山 (1993) の語彙的複合動詞は、並列複合動詞と相当し、統語的複合動詞は従属複合動詞と相当するということである。具体的な例を表2に表す。

表2 ベトナム語における複合動詞の分類

並列複合動詞	従属複合動詞
Ăn uống (飲食する)、chạy nhảy (走り跳ねる)、mua bán (売買する)、ra vào (出入する)、co giãn (伸縮する) 等	Kéo ra (引き出す)、đi vào (入り込む)、nhảy vào (飛び込む)、rút xuống (引き下げる)、đứng lên (立ち上がる) 等

### 2.2. 「～あがる／あげる」の意味分類

姫野 (1999) では、「～あがる／あげる」の意味を「上昇」という基本的な意味とその基本的な意味から拡張された「完結・完成」、「強調」、「増長（～あがる）」、「尊敬語（～あがる）」、「体内の上昇（～あがる）」、「社会的行為（～あげる）」という意味に大別する。

表3 複合動詞「～あがる／あげる」が表す概念と語彙例（姫野、1999）

上昇	<p><b>～あがる</b></p> <p><b>全体的な上昇</b></p> <p>a. 空間的上昇：跳びあがる、駆けあがる</p> <p>b. 序列の上昇：繰りあがる</p> <p>c. 地位の上昇：勝ちあがる</p> <p><b>部分的な上昇</b></p> <p>a. 形の伸長：立ちあがる、盛りあがる</p> <p>b. 形の縮小：めくりあがる</p> <p>c. 量の減少による形の縮小：はげあがる</p> <p><b>～あげる</b></p> <p><b>全体的な上昇</b></p> <p>a. 空間的上昇</p> <p>+対象が上昇する：持ちあげる、打ちあげる</p> <p>+主体と対象がともに上昇する：追いあげる</p> <p>+対象は上昇せず、主体の動作が上に向かって行われる：見あげる</p> <p>b. 序列の上昇：切りあげる</p> <p><b>部分的な上昇</b></p> <p>a. 形の伸長：積みあげる</p> <p>b. 形の縮小：巻きあげる</p> <p>c. 量の減少による形の縮小：刈りあげる</p>
体内の上昇	込みあげる
完了・完成	～あがる

	人間の作業活動の完了：仕あがる、焼きあがる 自然現象の完了：晴れあがる ～あげる 完成品を伴う作業活動の完了：作りあげる 作業活動の完了：調べあげる、勤めあげる、読みあげる
強調	～あがる 震えあがる ～あげる 縛りあげる
増長	付けあがる
尊敬（語）	召しあがる
社会的な行為	下位者から上位者に対する行為：申しあげる 上位者から下位者に対する行為：取りあげる

### 2.3. 「～あがる／あげる」のベトナム語訳

#### 2.3.1. 上昇

共通資料に挙げる「上昇」という意味を表す「～あがる／あげる」の語義と例文をベトナム語に翻訳し、どのような表現になるのかを見よう。

##### 2.3.1.1. 全体的な上昇

###### A. ～あがる

###### (1) 跳びあがる（空間的上昇）

ベトナム語訳：nhảy lên（飛ぶ＋あがる）

例文：男の子は足元にへビがいるのを見て、思わず跳びあがった。

訳文：Cậu-bé nhìn-thấy con rắn dưới chân liền nhảy-lên.

3SG.M 見る CFL へビ 下 足 CONJ 跳びあがる

###### (2) 繰りあがる（序列の上昇）

ベトナム語訳：được đòi lên（PASS＋繰る＋あがる）

例文：開園時間が1時間繰りあがって8時になった。

訳文：Thời-gian mở cửa công-viên được đòi-lên sớm 1 tiếng thành 8 giờ.

時間 開くドア 公園 PASS 繰りあがる 早く 1時間 なる 8時

###### (3) 勝ちあがる（地位の上昇）

ベトナム語訳：chiến thắng và tiến vào vòng trong（勝って、次の段階へ進む）

例文：あのチームは順当にトーナメントを勝ちあがっていった。

訳文：Đội-tuyển kia đã chiến-thắng các trận-đấu như mong-đợi.

チーム あの PRF 勝つ PL トーナメント CONJ 期待

###### B. ～あげる

###### (4) 持ちあげる（空間的上昇－対象が上昇する）

ベトナム語訳：nâng lên（持つ＋あげる）

例文：二人でたんすを持ちあげて隣の部屋に運んだ。

訳文：Hai người nâng cái tủ lên và khiêng vào phòng bên-cạnh.

NUM 人 持つ たんすあげる そして 運ぶ 込む 部屋 隣

###### (5) 追いあげる（空間的上昇－主体と対象がともに上昇する）

ベトナム語訳：đuổi lên（追う＋あげる）

例文：犬が獲物を木の上に追いあげた。

訳文：Con chó đã đuổi con mồi lên cây.

CLF 犬 PRF 追う 獲物 あげる 木

- (6) 見あげる (空間的上昇—対象は上昇せず、主体の動作が上に向かって行われる)

ベトナム語訳：nhìn lên (見る+あげる)

例文：外に出て夜空を見あげると、明るく輝く星が見えた。

訳文：Tôi ra ngoài và nhìn-lên bầu-trời đêm, các vì-sao chiếu lấp lánh.

1SG 出る 外 そして 見あげる 空 夜 PL 星 輝く きらきら

- (7) 切りあげる (序列の上昇)

ベトナム語訳：làm tròn lên

例文：子どもの料金は大人の半額だが、1円未満の端数は切りあげる。

訳文：Phí dành cho trẻ em bằng một-nửa người-lớn nhưng nếu phân-lê

料金 ため BEN こども CONJ 半分 大人 CONJ COND 端数

không đủ 1 yên sẽ được làm-tròn-lên.

NEG 足りる NUM 円 COND PASS 切りあげる

### 2.3.1.2. 部分的な上昇

#### A. ～あがる

- (8) 立ちあがる (形の伸長)

ベトナム語訳：đứng lên (立つ+あがる)

例文：彼女はゆっくりいすから立ちあがった。

訳文：Cô-ấy thông-thả từ ghế đứng lên.

3SG.F ゆっくり から いす 立ちあがる

- (9) めくれあがる (形の縮小)

ベトナム語訳：bị lật lên (PASS+めくれる+あげる)

例文：強風でスカートがめくれあがるので、押えながら歩いた。

訳文：Vì gió to nên váy bị lật lên,

CONJ(原因) 風 強いCONJ(結果) スカートPASS めくれあがる

Tôi phải vừa đi vừa giữ.

1SG OBL (～ながら) 歩く ～ながら 押さえる

- (10) はげあがる (量の減少による形の縮小)

ベトナム語訳：bị hói đi nhiều (PASS+はげる+いく+たくさん)

例文：彼は、若い時の写真と比べると、禿げ上がって額がずいぶん広がったことがわかる。

訳文：So với bức-ảnh khi còn trẻ thì bạn thấy rằng anh-ấy đã

比較する と 写真 時まだ 若い TOP 2SG わかる CONJ 3SG.M PRF

bị hói-đi nhiều, phần trán rộng hẳn-ra.

PASS はげあがる 沢山 額 広い ずいぶん

#### B. ～あげる

- (11) 積みあげる (形の伸長)

ベトナム語訳：chồng lên

例文：ピラミッドは石を積み上げてつくったものだ。

訳文：Kim tự tháp được xây-dựng bằng cách chồng các viên đá lên.

ピラミッド PASS 作る で 方法 積む PL CLF 石 あげる

- (12) 巻きあげる (形の縮小)

ベトナム語訳：quán lên, cuốn lên

例文：その漁船は釣り糸をモーターで巻き上げる。

訳文：Chiếc thuyền-dánh-cá đó quán chi-câu lên bằng mô-tơ.  
CLF 漁船 その 巻く 釣り糸 あげる で モーター

(13) 刈りあげる (量の減少による形の縮小)

ベトナム語訳：cạo lên

例文：彼は長髪をばっさり切って、後ろ髪を刈り上げた。

訳文：Anh-ấy cắt hẳn mái tóc dài và cao tóc phía-sau lên.  
3SG.M 切るばっさり CLF 髪 長い そして 刈る 髪 後 あげる

(1) から (7) までの例文は「～あがる／あげる」の「全体的な上昇」という意味、(8) から (13) までの例文は「～あがる／あげる」の「部分的な上昇」という意味を表すものである。翻訳文から見ると、全体的な上昇でも部分的な上昇でも、ベトナム語の“～lên”と対応するものが圧倒的に多い。

その中で、“～lên”と対応しないものがいくつある。それらは、地位の上昇を表す(3)の「勝ちあがる」と量の減少による形の縮小を表す(10)の「はげあがる」である。「勝ちあがる」の場合は、語義レベルの翻訳では、「～あげる」の拡張される意味がまだ現れているが、文レベルの翻訳では、その意味が無くなり、「勝つ」の意味しか残っていない。「はげあがる」の場合は、「上方移動」という意味よりも「髪の毛が少なくなっていく」という意味のほうがはっきり現れるいるので、“～lên”の代わりに、“～đi (いく)”に訳される。

また、ベトナム語では、動詞の自他が形態的に区別されていないから、自動詞の「～あがる」の意味を表す場合、“được (利益) / bị (被害)”という被動マーカが使われている。PASS+「～あがる」という構造になる。例えば、(2)の「繰りあがる」は“được dôi lên” (PASS + 繰る+あがる)、(9)の「めくれあがる」は“bị lật lên” (PASS+めくれる+あげる)に訳される。

もう一つの注意すべき点は、ベトナム語訳においては前項動詞と後項動詞の間に名詞句を挿入することができるのである((4)、(5)、(11)、(12)、(13)の例文)。しかし、この現象は他動詞の「～あげる」に限られている。自動詞の「～あがる」には、生じない。そのため、“V + lên”をしか使っていないことなく、“V+名詞句+lên”というパターンも可能である。

### 2.3.2. 体内の上昇

共通資料に挙げるのは「込みあげる」である。語義と例文を見よう。

(14) 込みあげる

ベトナム語訳：dâng lên

例文：子どもの虐待のニュースを見て、激しい怒りが込み上げた。

訳文：Xem tin tức về bạo-hành trẻ-em, sự-phẫn-nộ dữ dội dâng lên trong tôi.  
見る ニュース について 虐待 子ども 怒り 激しい込みあげる 中 1SG

「上昇」という意味をもつため、ベトナム語の“～lên”と対応する。つまり、「全体的な上昇」や「部分的な上昇」「体内の上昇」などの「上昇」の下位分類に拘わらず、「上方移動」という意味を持つならば、“～lên”と訳される可能性が高いと思われる。

### 2.3.3. 完了・完成

#### A. ～あがる

(15) 仕あがる (人間の作業活動の完了)

ベトナム語訳：được hoàn thành (PASS+完了)

例文：何度も修正して、ようやく作品が仕上がった。

訳文：Sau khi chỉnh-sửa nhiều-lần thì cuối-cùng tác-phẩm cũng đã được hoàn thành.  
～てから 修正 何度も TOP ようやく 作品 も PRF PASS 仕あがる

(16) 晴れあがる (自然現象の完了)

ベトナム語訳: trở nên quang đặng (なる+晴れる)

例文: 台風が過ぎて、空がからっと晴れ上がった。

訳文: Bão đi-qua và bầu-trời trở-nên quang-đặng.  
台風 過ぎる そして 空 なる 晴れる

B. ~あげる

(17) 作りあげる (完成品を伴う作業活動の完了)

ベトナム語訳: hoàn thành, làm xong (完了)

例文: 一つのをみんなで作りあげることに大きな意義があると思う。

訳文: Tôi nghĩ rằng việc mọi-người cùng-nhau hoàn-thành một công-việc có ý nghĩa  
1SG 思うと こと みんな 一緒に 作りあげる NUM もの ある 意義  
rất lớn.  
とても 大きい

(18) 調べあげる (作業活動の完了)

ベトナム語訳: điều tra kỹ, điều tra triệt để (調べる+詳しく/調べる+徹底的に)

例文: 警察は彼がこの一か月いつどこでだれと接触したのか調べあげた。

訳文: Cảnh-sát đã điều-tra kỹ việc anh-ta trong một tháng này đã tiếp-xúc  
警察 PRF 調べる 詳しく こと 3SG.M 中 NUM 月 この PRF 接触する  
với những ai, khi-nào và tại-đâu.  
と PL だれ いつ そして どこで

「~あがる/あげる」が表す「完了・完成」という意味用法はベトナム語の“~lên”とまったく対応しない。その代わりに、アスペクトという意味を持つ hoàn thành (完了する/完了させる) または“~xong” (～終わる/終える) という表現で表されている。加えて、「自然現象の完了」を表す「晴れあがる」はベトナム語で trở-nên quang-đặng (なる+晴れる) と訳され、「BECOME動詞+形容詞」という構造になる。

また、(18) の「調べあげる」は「徹底的に調べる」という意味であるので、ベトナム語訳では、「動詞句 (動詞+副詞)」と対応する。

2.3.4. 強調

A. ~あがる

(19) 震えあがる

ベトナム語訳: run bần bật (震える+がくがく)

例文: 一歩外に出ると、あまりの寒さに震えあがった。

訳文: Chỉ bước 1 bước ra-khỏi nhà thôi tôi đã run bần bật vì quá lạnh.  
ただ 歩く NUM 歩 出る 家 INT 1SG PRF 震えあがる ~ので あまり 寒い

B. ~あげる

(20) 縛りあげる

ベトナム語訳: trói chặt (縛る+しっかり)

例文: 強盗は警備員をロープで縛りあげて、金品を奪って逃げた。

訳文: Tên-cướp đã trói-chặt nhân-viên-bảo-vệ bằng dây-thừng, cướp tiền và hàng hóa  
強盗 PRF 縛りあげる 警備員 で ロープ 奪う お金 と 品  
rồi bỏ-trốn.  
CONJ 逃げた

強調の意味の場合、前項動詞に後項動詞の「～上がる／上げる」をつけると、すぐに前項動詞の動作や様態を強調する意味になる。ベトナム語では、強調を表すため、動詞による特定の表現がある。2語から合わさった動詞句、3語から合わさった動詞句もある。例えば、「縛りあげる」は *trói chặt* に「震え上がる」は *run bản bật* に訳される。さらに、このグループに属する「おびえ上がる、のぼせ上がる」のような人間の表情を表すものはベトナム語に訳すとき、多くの場合は品詞が変わり、*khíép sợ* (おびえ上がる)、*kiêu căng* (のぼせ上がる) などの形容詞になる。

### 2.3.5. 増長

#### (21) 付けあげる

ベトナム語訳：*kiêu căng, vênh váo*

例文：彼は、こちらが下手（したて）に出ると、ますます付けあがるから、一度厳しく注意したほうがいい。

訳文：Khi chúng ta nhún-nhuòng thì anh-ta càng vênh-váo nên chúng ta nên  
～と 1PL 下手に出る TOP 3SG ますます 付けあがる CONJ 1PL べき  
*nhắc-nhở nghiêm-khắc một lần.*  
注意 厳しく NUM 度

凶々しさを表す「付けあがる」はベトナム語訳では、人の態度・表情を表す形容詞の *kiêu căng, vênh váo* になる。

### 2.3.6. 尊敬

#### (22) 召しあげる

ベトナム語訳：*dùng*

例文：ランチは2つのコースから選べるようですが、どちらの料理を召し上がりますか。

訳文：*Buổi-ăn-trưa hình-như có 2 thực đơn để chọn, anh dùng thực đơn nào?*  
ランチ ～ようあるNUM コース CONJ 選ぶ 2SG.M 召しあげる コースどちら

「召し上がる」と相当するベトナム語は *dùng* である。敬意を表す一つの動詞になる。「召す」に近い意味が現れる。

### 2.3.7. 社会的な行為

#### (23) 申しあげる（下位者から上位者に対する行為）

ベトナム語訳：*xin gửi lời, xin được phép trình bày*

例文：心からお礼を申しあげます。

訳文：*Tôi xin gửi lời cảm ơn từ đáy lòng mình.*  
1SG 申しあげる お礼 から 底 心 自ら

#### (24) 取りあげる（上位者から下位者に対する行為）

ベトナム語訳：*tịch thu, lấy đi*

例文：小学生の息子がゲームばかりしているので、母親は怒ってそのゲーム機を取りあげた。

訳文：*Vì đứa con trai học-sinh-tiểu-học chơi game suốt nên người-mẹ đã nổi giận*  
～のでCLF 息子 小学生 遊ぶゲームばかり CONJ 母親 PRF 怒る  
và tịch thu máy-chơi-game.  
そして 取りあげる ゲーム機

社会的行為を表す「～あげる」に相当するベトナム語訳が存在する。下位者から上位者に対する行為の「申しあげる」は *xin gửi lời* または *xin được phép trình bày* と訳され、動詞句と相当する。下位者から

上位者に対する行為の「取りあげる」は、*tịch thu, lấy đi*という一語動詞になる。

### 3. まとめと今後の課題

上記の分析結果に基づき、日本語の「～あがる／あげる」と対応するベトナム語の表現を表4のように、まとめる。

表4 日本語の「～あがる／あげる」と対応するベトナム語の表現

	日本語の「～あがる／あげる」	ベトナム語と対応する表現	ベトナム語における複合動詞構造に相当する
(1)	上昇	“～lên” (圧倒的に多い)	○
(2)	体内の上昇	“～lên”	○
(3)	完了・完成	“～xong”	○
		一語動詞	×
		動詞句	×
(4)	強調	動詞句、形容詞	×
(5)	増長	形容詞	×
(6)	尊敬語	一語動詞	×
(7)	社会的な行為	動詞句・一語動詞	×

この分析結果は共通資料に挙げられている「～あがる／あげる」に止まるものである。より正確かつ客観的な結果を手に入れるため、数多くの複合動詞の「～あがる／あげる」を考察する必要があると思われる。

本稿は「～あがる／あげる」が表す「完了・完成」のアスペクトを考察しているが、他の複合動詞「～込む」「～出す」「～かかる／かける」におけるアスペクトの意味も考察したい。これを今後の研究課題にする。

### グロス略語一覧

1: 一人称	PL: 複数	NEG: 否定
2: 二人称	BEN: 受益者マーカー	NUM: 数詞
3: 三人称	CLF: 助数詞	OBL: 義務
M: 男性	COND: 条件	PASS: 受身
F: 女性	CONJ: 接続詞	PRF: 完了相マーカー
SG: 単数	INT: 間投詞	TOP: 主題

### 参考文献

- 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』 ひつじ書房.
- 影山太郎. 2013. 「語彙的複合動詞の新体系」『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』 .pp: 3-46. ひつじ書房.
- 姫野昌子. 1999. 『複合動詞の構造と意味用法』 .ひつじ書房.
- Nguyen Thi Ngu. 2014. 『日本語とベトナム語における従属複合語の構成』 .修士論文. ハノイ国家大学外国語大学.
- Diệp Quang Ban. 2006. *Ngữ pháp tiếng Việt (tập hai)*. Nxb Giáo dục, Hà Nội.
- Hoàng Phê (chủ biên). 2011. *Từ điển Tiếng Việt*. Nxb Đà Nẵng.
- Hồ Lê. 2003. *Vấn đề cấu tạo từ trong tiếng Việt hiện đại*. Nxb Khoa học Xã hội, Hồ Chí Minh.

## Aspectual Compound Verbs in Japanese: from the Perspective of Aspectual Prefixes in Polish

Agata KULIKOW  
Tokyo University of Foreign Studies

### 1. Research goals

This research aims to elucidate the similarities and differences between Japanese compound verbs, which form one part of the aspectual system in Japanese, and Polish verbs, which are formed by the addition of aspectual adpositions, for pedagogical purposes in the second language acquisition of both languages. It is hoped that through contrast with Polish, which possesses a highly prominent system of aspectual forms, the position occupied by compound verbs in the Japanese aspectual system as well as the characteristic of Japanese whereby verbs do not necessarily guarantee an action's telicity (for simple verbs at least, the *-ta* form does not guarantee telicity) will become clearer.

### 2. Background to the research: Japanese aspectual compound verbs and aspectual system in Polish

Compound verbs are often considered a unique form typical for the Japanese language. Due to their great variety and the difficulty of their acquisition for learners, compound verbs have also been highlighted in the field of Japanese language education. There are a few types of compound verbs in Japanese. Some of them are described as grammatical. These verbs, represented by *-hajimeru* and *-owaru* (as in *yomihajimeru*, begin to read, and *yomiowaru*, finish reading), can be added to almost every verb, and not only the simple verb, but also passive or causative form (for example *yomasarehajimeru*, to begin being forced to reading). Compound verbs of this type are relatively easy to learn. The problem is the other type, namely lexical compound verbs. For lexical compound verbs, V2—unlikely *-hajimeru* or *-owaru*—can only be added to some verbs (there are even verbs which only combine with one verb, such as *-wabiru*, only combining with *matsu*, as in *machiwabiru*, to wait), also adding V2 to passive or causative forms of V1 is not possible. Lexical compound verbs were usually divided into six classes, but Kageyama (2013) proposes a new classification—into thematic compound verbs, in which case V1 modifies V2, as in *tatakitsubusu*: to knock down, to smash up (*tataku* means to hit or knock and *tsubusu* to crush, to smash), and aspectual compound verbs, whereby V2 modifies V1, describing the way action expressed by V1 was conducted: Lexical-aspect. Thematic compound verbs are common in many other languages, but aspectual compound verbs are said to be unique, typical probably only for Japanese language (Kageyama 2013, 5). This research focuses on aspectual compound verbs and their relation to Polish aspectual adverbs.

In the traditional discourse compound verbs were not likely discussed as aspectual forms in Japanese language, with most research and papers focusing on *-te-iru* form as the main representation of aspect in Japanese. However recent studies, such as Kageyama (2013) describe compound verbs as a part of the Japanese aspectual system.

Considering Japanese compound verbs a part of aspectual system seems even more appropriate if discussed from Polish language perspective.

The Polish aspectual system is based on the opposition between perfective-form verbs and imperfective-form verbs. As used in this research, the term perfectivity “indicates the view of a situation as a single whole, without distinction of the various separate phases that make up that situation; while the imperfective pays essential attention to the internal structure of the situation.” (Comrie 1987, 16)

The opposition between imperfective- and perfective-forms in Polish language is primarily realized in the following three ways, although there are also—very numerous—examples of verbs which do not possess oppositions between imperfective- and perfective-form (*żyć*, to live) and verbs that can be used in function of perfective-form verb as well as imperfective- form verb, such as *abdykować*, to abdicate.

- a. apophony (stem mutation) – as showed in Table 1., some pairs of the imperfective- and perfective-form verbs in Polish base on apophony.
- b. perfective adpositions—in this case the perfective-form verb is derived from the imperfective-form by adding one of many perfective adpositions functioning in Polish; some of perfective adpositions only modify the verb's aspect, some of them also add new meaning to the imperfective-form verb. In the pair of verbs showed in Table 1. below adposition *na-* in the verb *napisać* (to write up) only has function of modifying verb aspect to perfective.
- c. pairs of verbs only bound by meaning—pairs of verb with different stem, but analogical meaning (it's the same

phenomenon as in Japanese verbs *korosu* 殺す (to kill) and *shinu* 死ぬ (to die), often regarded as a pair in terms of transitivity in Japanese language)

**Table 1. Opposition of imperfective- and perfective-form verbs in Polish**

perfective adposition type		apophony type		irregular	
imperfective-form	perfective-form	imperfective	perfective	imperfective	perfective
pisać	napisać	rzucać	rzucić	brać	wziąć
to write		to throw		to take	

### 3. Aspectual compound verbs and perfectivity in Japanese language

As showed in section 2, Polish language possesses a highly prominent system of aspectual forms, in which opposition between imperfective- and perfective-form of verbs is fundamental. Almost every verb in Polish has two “versions”: imperfective and perfective one, and speakers have to choose between them every time they use a verb.

However, in Japanese, a speaker is not constantly aware of a verb’s telicity, nor do grammatical forms express such a characteristic. Probably not all of native speakers and definitely not all of Japanese language learners are aware of it, but most of Japanese verbs do not guarantee actions’ perfectivity: for simple verbs at least, the *-ta* form does not guarantee telicity, which is the reason why sentences such as (1)a are considered grammatically correct in Japanese language (but often sound strange and unfamiliar to Japanese language learners).

- (1)a Koroshita kedo shinanakatta.  
 殺したけど死ななかった。  
 to kill-PAST but to die-NEG.PAST  
 (1)b I killed him, but he didn’t die.

Of course Japanese has numerous linguistic form to express action’s telicity; one of them are aspectual compound verbs. In general, compound verbs in Japanese seem to share the tendency of general imperfectivity with simple verbs, but some of the aspectual compound verbs, namely: *-ageru/-agaru*, *-dasu* and *-kiru*, do modify verbal aspect of V1. Therefore, sentences such as (2)a become ungrammatical.

- (2)a \*Nigedashita kedo nigenakatta.  
 \*逃げ出したけど逃げなかった。  
 to run away-PAST but run-NEG.PAST  
 (2)b She ran away but didn’t escape.

By examining Japanese compound verbs from this perspective the peculiarities of *-ageru/- agaru*, *-dasu* and *-kiru* become apparent.

### 4. Polish perfective adpositions and Japanese compound verbs

As mentioned above, Polish perfective adpositions not only modify verbal aspect but may also add new meaning to the verb. Both functions are also attested in Japanese compound verbs. Although verbs with transparent meaning and perfective aspect (*kaki-ageru* 書き上げる “write up”) also exist and there are verbs with both functions (*ii-dasu* 言い出す “suggest”) too, V2 usually only assigns new meaning to V1. Phenomenon showed below clearly doesn’t apply to each compound verb in Japanese and each Polish verb with adpositions, but Table 2 shows how Japanese compound verbs and Polish perfective adpositions correspond in case of the verb “write”: *pisać* in Polish and *kaku* 書く in Japanese.

**Table 2 Verb *pisać* with perfective adpositions and corresponding Japanese compound verbs**

Polish verb	Japanese verb
pisać (imperfective) write	kaku 書く write
napisać (perfective) write up	kaki-ageru 書き上げる write up
zapisać (perfective) write down, record, enroll	kaki-shirusu 書き記す write down, record, enroll

wypisać (perfective) write out	kaki-dasu 書き出す write out
wpisać (perfective) write in	kaki-komu 書き込む write in
przepisać (perfective) rewrite	kaki-utsusu 書き写す copy, transcribe
...	...

Although main function of Polish perfective adpositions (modification of the verb aspect) and V2 in Japanese (adding new meaning to V1) may not be the same, it can be clearly seen in Table 2 that there certainly is a correlation between compound verbs and Polish perfective adpositions. This phenomenon requires further research.

### 5. From perspective of language teaching

Japanese compound verbs display great variety and the difficulty of their acquisition for learners, the author included, has been highlighted in the field of Japanese language education. Many of Japanese language learners, regardless of their mother tongue, learn compound verbs as a vocabulary rather than understand them as a system. Since Japanese language learners, even at an advance level, cannot fully understand and apply the rules of forming compound verbs, they tend to only use few compound verbs they often hear and managed to remember. In case of compound verbs, unlike many other items considered difficult to learn (for example *-te-iru* form), not errors made by student are the problem, but rather students' tendency to avoid using compound verbs at all. Considering significant similarity between Japanese compound verbs and Polish perfective-form verbs (especially adpositions-type verbs), showing this similarities to Polish language speakers in process of teaching Japanese language could presumably help them understand the phenomenon of Japanese compound verbs.

On the other hand, the fundamental opposition in usage of perfective- and imperfective-form verbs in Polish also presents issues for Polish language education. Previous research by the author has revealed that even at an advanced level, native Japanese learners of Polish display a strong tendency to use imperfective-form verbs in contexts where a native speaker would typically use a perfective-form verb. The two sentences below come from essays written by Japanese students as a homework for their Polish language classes at the Tokyo University of Foreign Studies: (3)a and (4)a show sentences as written by the students, while (3)b and (4)b present the way a native Polish language speaker would most likely couch the same sentence.

- (3)a Pojechaliśmy do Shibuya i jadliśmy krowie języki.  
go-PRF.PST.1PL to Shibuya-LOC and eat-IPRF.PST.1PL cow tongue-ACC.PL
- (3)b Pojechaliśmy do dzielnicy Shibuya i zjadliśmy ozory wołowe.  
go-PRF.PST.1PL to district-LOC Shibuya and eat-PRF.PST.1PL cow tongue-ACC.PL (3)c We went to Shibuya and ate beef tongues.
- (4)a Pamiętasz, poszliśmy do sklepu i kupowaliśmy takie same sukienki.  
remember-2SG. go-PRF.PST.1PL to shop-LOC and buy-IPRF.PST.1PL same-ACC.PL dress-ACC.PL
- (4)b Pamiętasz, poszliśmy do sklepu i kupiliśmy takie same sukienki.  
remember-2SG. go-PRF.PST.1PL to shop-LOC and buy-PRF.PST.1PL same-ACC.PL dress-ACC.PL
- (4)c Remember, we went to the store and bought us same dresses.

As potential causes to this phenomenon following three can be suggested.

First, in Polish language classes at TUFS students are first introduced to the imperfective- forms of verbs and during the first semester only learn – and use - imperfective-forms. Although, due to the complicatedness of the Polish language aspectual system, introducing students to both, imperfective- and perfective-form of Polish verbs simultaneously seems too difficult and could cause students to lose their motivation, this may be one of the causes to the overuse of imperfective-form verbs by the students.

Secondly, in compare to imperfective-form verbs, perfective-forms tend to be more complicated in form (since they are often derived by adding an adposition). Since there are many different adpositions in Polish and no clearly rules which of them should be chosen for which verb, students may feel confused and tend to avoid using the adposition-type perfective- form verbs. As mentioned above, during previous research on this topic the author didn't find many errors including perfective adpositions by Japanese students, however the strong tendency to use imperfective-form verbs was remarkable regardless of the students' level.

Finally, as proved in the section 3, most of Japanese verbs do not guarantee telicity; unlike native speakers of Polish, Japanese language speakers aren't constantly aware of an action's telicity, and imperfectivity doesn't appear unnatural to them.

However, teaching perfective adpositions by using analogies between Japanese compound verbs and Polish adpositions, could be effective also for Japanese speakers Polish language students.

## 6. Conclusion

From the perspective of Polish language, similarity of Japanese aspectual compound verbs and Polish perfective-form verbs becomes visible. Based on this similarity, it also appears clear that aspectual compound verbs should be considered a part of the aspectual system of Japanese language, not only vocabulary. Analogies between the two languages can presumably be used in process of teaching Japanese as a foreign language to Polish language speakers, and teaching Polish to Japanese language speakers.

## Reference list

- Comrie. Bernard. 1987. *Aspect: An Introduction to the Study of Verbal Aspect and Related Problems*. Cambridge Textbooks in Linguistics
- Kageyama. Taro. 2013. Ed. *New explorations into the Mysteries of Compound Verbs*. Tokyo: Hituzi Syobo.
- Kaletka. Zofia. 1995. *Polish grammar for foreigners*. Cracow: Uniwersytet Jagielloński.
- Nagórko. Alicja. 1996. *Outline of Polish Grammar*. Warsaw: Wydawnictwo Naukowe PWN.

# 日本語の複合動詞と英語の句動詞の対照研究— 「-上がる」「-上げる」とupを中心に

ローレンス・ニューベリーペイトン

東京外国語大学 大学院総合国際学研究所 博士後期課程

## 概要

本発表では日本語の複合動詞と英語の句動詞の関係を明らかにすることを目的とする。「-上がる」「-上げる」を後項動詞とする複合動詞を事例として取り上げ、複合動詞の表す意味がどのように英語において表現されるかを考察する。[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]が提案している「-上がる」「-上げる」の分類を用いて、英語の表現がどのように対応しているかを確認する。その結果、「-上がる」「-上げる」の下位分類に英語の句動詞に対応する場合と対応しない場合があることを示す。特に「-上がる」「-上げる」と同様に〈上〉の概念を表すとされる小辞 (particle) upを複合動詞との対応において考察し、upを含む句動詞(「up句動詞」と呼ぶ)と「-上がる」「-上げる」を後項とする複合動詞における表現性の差を明白にする。また、姫野の分類の限界を指摘したうえで、対照言語学にとってより有意義な分析の可能性を検討する。具体的に、「経路表現」と「状態表現」を分類することによって、「-上がる」「-上げる」とup句動詞の相違が浮き彫りになることを提案する。これは日本語の複合動詞と英語の句動詞全体にさらに拡張できると期待される。

## 1. はじめに

本発表は6か国語の対照を目的とする「多言語による複合動詞翻訳プロジェクト」の一環として東京外国語大学国際日本研究センターの支援を受けている。本プロジェクトでは、日本語の複合動詞を英語・韓国語・中国語・ベトナム語・ポーランド語に訳して多言語でどのような言語形式が用いられているのかを明らかにしようとしている[佐野洋, 多言語による複合動詞翻訳プロジェクト, 2017.6.5]。本発表では「-上がる」「-上げる」を後項とする複合動詞とそれに対応する英語の表現を分析の対象とする<sup>1</sup>。

本発表は次のように進める。1.1節と1.2節では日本語の複合動詞と類似している英語の句動詞と結果構文を簡単に紹介する。1.3節では小辞upの意味用法をまとめる。1.4では[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]による「-上がる」「-上げる」の分類を導入する。2章では姫野の分類に沿って、翻訳作業の結果からどのような表現傾向が見えてくるか概観する。3章では全体的な傾向を示したうえで、姫野分類の問題点及び新分類の可能性について論じる。4章ではまとめと今後の課題を述べる。

### 1.1. 日本語の複合動詞と英語の句動詞

2章で詳しく考察するように、「立ち上がる」や「見上げる」がそれぞれstand up, look upに対応していることなどから、日本語の複合動詞と英語の句動詞に何らかの対応関係が想定できる。本節では両形式の類似点及び相違点をまとめる。これにあたって、[谷脇康子・當野能之, 2009]を参考にする。

句動詞は基本的に動詞と小辞 (particle ; 「不変化詞」とも呼ぶ) から構成されている。小辞の付加によって複雑述語が作られるという点においては日本語の複合動詞と同様の働きをしていると言える。小辞は前置詞と誤解されがちであるが、両者は統語的な振る舞いが異なる。これは句動詞と前置詞付き動

<sup>1</sup>本プロジェクトでは[姫野昌子, 1999]であげられている複合動詞のうち、コーパスにおいてある程度高頻度かつ母語話者にとって代表的と感じるものを取り上げて翻訳の対象としている。そうすれば、小規模のデータであってもある程度代表性が期待できると考えられる。なお、本プロジェクトは「-上がる」「-あげる」のみならず、アスペクト複合動詞を複数取り上げているが、詳細は添付資料[小柳昇等, 2017]を参照されたい。

詞 (prepositional verb) を比較すると明らかである。(1-4) から動詞と小辞のひとまとまり性が見てとれるだろう<sup>2</sup>。

- ① 前置詞は必ずその後にも名詞を必要とするが、小辞は単独で現れる。
  - (1) a. He walked by my house without noticing me. (前置詞)
  - b. He walked by without noticing me. (小辞)
- ② 小辞は目的語の前にも後ろにも来るが、前置詞は目的語の後に来ることはできない。
  - (2) a. Mary called on her friend./\*Mary called her friend on. (前置詞)
  - b. Mary turned on the light./Mary turned the light on. (小辞)
- ③ 目的語が代名詞の場合、前置詞は代名詞の前に現れるのに対して、小辞は必ず代名詞の後ろに回る。
  - (3) a. Mary called on {her friend/him}. (前置詞)
  - b. Mary turned on {the light/\*it}. (小辞)
  - Mary turned {the light/it} on.
- ④ 副詞は動詞と前置詞の間には介入できるが、動詞と小辞の間には割り込めない。
  - (4) a. Mary called angrily on her friend. (前置詞)
  - b. \*Mary turned suddenly on the light. (小辞)

[谷脇康子・當野能之, 2009]p296に基づく

句動詞のもう一つの特徴として、小辞の動詞に対する働きがあげられる。すなわち、小辞の付加によって、動詞の性質が変わってくるのである。これは [姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]も指摘している自他のバリエーションと似た現象であると考えられる (1.4節を参照)。[谷脇康子・當野能之, 2009]の実例を見てみよう。

- (5) a. 基体動詞が自動詞の場合、小辞が付くことで新たな目的語が作れる。
  - sleep off the hangover (眠って二日酔いを治す)、
  - run off the extra weight (走って余分な体重を減らす)
- b. 基体動詞が他動詞だが、小辞が付くことで、基体動詞が選択しない新たな目的語が導入される。
  - rinse off the dirt (汚れを洗い落とす)、
  - talk out the problem (話し合って問題を解決する)

[谷脇康子・當野能之, 2009]は日本語の複合動詞との関係について、表1のように記述している。A行の「並立」に対応する句動詞はないというが、BからEには対応する句動詞があると指摘している。

表1 英語の句動詞と日本語の語彙的複合動詞

	日本語 (語彙的) 複合動詞	英語 句動詞
A:並列 (2つの類似の行為が同時に起こることを表す)	忌み嫌う、耐え忍ぶ、恐れおののく、ほめたたえる	×
B:様態 (V1またはV2が表す行)	転げ落ちる、駆け上がる、歩き回	roll down, run up, walk around

<sup>2</sup> 語の形態的緊密性 (lexical integrity) については [谷脇康子・當野能之, 2009]p304を参考。なお、同概念で日本語における語彙的複合動詞と統語的複合動詞を区別することができるが本発表では立ち入らないことにする。

為の様態を描写する)	る、遊び暮らす、訪ね歩く、忍び寄る、すすり泣く、降り注ぐ	
C:手段 (V1はV2が表す行為の手段を表す)	切り倒す、投げ飛ばす、勝ち取る、泣き落とす、言い負かす	cut down, knock down, throw away, push aside
D:因果関係 (V1はV2が表す原因を示す)	ふきこぼれる、抜け落ちる、待ちくたびれる、歩き疲れる、酔いつぶれる、溺れ死ぬ	boil over, blow off, erode away, rain off, snow in
E:補文 (「V1すること {が・を} V2する」という意味関係)	見逃す、書き落とす、使い果たす、寝付く、呼びならわす、売れ残る	use up, sleep on, talk away, read through

[谷脇康子・當野能之, 2009]p321

一方、(6) のように英語の句動詞ではup, on, awayという「アスペクトを表す小辞 (aspectual particle)」がみられる。本発表では「動詞+up」(「up句動詞」)に焦点を絞って考察するが、「干し上がる」とdry upの間には、(後項)動詞でアスペクトを表すか動詞以外の要素で表すかという相違点がある。

- (6) a. The lake dried up. (干し上がった)  
 b. He talked on but I was no longer listening. (しゃべり続けた)  
 c. They worked away for the rest of the night. (働き続けた)

[谷脇康子・當野能之, 2009]p321；下線は発表者による

## 1.2. 英語における結果構文

英語で(6a)と似た働きをするのが結果構文である。[影山太郎, 2001]によれば、結果構文の基本公式は以下のとおりである。結果述語には主として前置詞句または形容詞になるが、本発表で特に関心になるのは前者である。

- (7) 主語+動詞[自動詞または他動詞] (+目的語) +結果述語

[影山太郎, 2001]p156

また、[影山太郎, 2001]p165-171は本来的な結果構文と派生的な結果構文を区別している。前者の場合、(8)のように結果述語が「主動詞そのものから含意される変化状態を具体的に表すもの」でなければならない。一方、派生的な結果構文では「それ自体では変化結果を含意しない動詞—典型的にはshake, kick, poundといった物理的な働きかけを表す他動詞—に限られる」。(9)のように、日本語では後者が不可能である。

- (8) The stained glass broke to pieces.  
 「ステンドグラスが粉々に割れた。」  
 (9) He pounded the metal flat.  
 \*「彼は金属を平らにたたいた。」

[影山太郎, 2001]p154

結果構文には以上みた状態変化だけではなく、位置変化を表す例もある。これを[影山太郎, 2001]p178は「使役移動構文 (caused motion construction)」と呼んでいる。日本語では主として複合動詞を用いていることが英語との顕著な相違点であろう。

- (10) I smoked one cigarette..., shaking it out of the pack.  
 「箱を振って、中からタバコを1本取り出した」  
 (11) He wiped the dirt off.

「彼は汚れをふき取った」

[影山太郎, 2001]p154、下線は発表者による

以上をまとめると、英語は日本語よりも結果構文（使役移動構文を含めて）の使用範囲が広い。複合動詞も句動詞も、その言語におけるその他の形式によって使用範囲が変わってくると考えられる。今後の課題として、日本語における複合動詞の位置づけ及び英語における句動詞の位置づけをより明白にする必要がある。次節では先行研究を参考に本発表の分析対象となる *up* の様々な意味用法を概観する。

### 1.3. 小辞UPの意味

(Bolinger, 1971)は結果状態を句動詞の不可欠な側面としており、さらに以下のように述べている。

*up*をはじめ、完全な結果的意味の代わりに「結果達成」程度の意味を持つ小辞もある...*he wrote his report* と言うと、*he wrote-finished his report* と似た意味になる<sup>3</sup>。

(Bolinger, 1971)p96、和訳:発表者

すなわち、*climb up* など物理的な移動を表すものとは違って、*write up* では *report* が「*up*である」という結果状態になるわけではなく、単にそれを書く行為が完了したという意味にすぎない。(Bolinger, 1971)は専ら英語について議論しているが、以上の指摘はまさに日本語の「書き上がる」の形式を捉えている。なお、英語では実際に *write-finish* のような複合動詞を作ることが不可能なので、その代わり句動詞の形式が用いられると考えられる。

また、(Bolinger, 1971)は以下の例文で示すように、*up* には少なくとも5つの意味を持ち、その5つを分けることが困難であると述べている<sup>4</sup>。これは次節で見る「-上がる」「-上げる」と顕著な類似点であると言える。

- |   |                 |
|---|-----------------|
| (12) a. The work piled up.                | (i原始的な方向義)      |
| b. Turn up the volume.                    |                 |
| (13) a. He grew up.                       | (ii方向義の拡張)      |
| b. They brought up a different argument   |                 |
| (14) a. It shriveled up.                  | (iii結果状態で現れる完了) |
| b. He laced up his shoes.                 |                 |
| (15) a. She choked up and started to cry. | (iv完成または開始の完了)  |
| b. She took up dancing.                   |                 |
| (16) a. They hurried up.                  | (v高強度を表す完了)     |
| b. Let's brighten up the colors.          |                 |

(Bolinger, 1971)p99-101に基づく

ただし、「-上がる」「-上げる」と *up* の類似性を認めたとして、当然ながら両者は完全には一致していない。本発表では基本的に「-上がる」「-上げる」の意味用法にあって *up* の意味用法にない例を見ていくことになる。*up* 自体の使用範囲の細かい分析及びそれに対応する（または対応しない）日本語の複合動詞の実態は今後の課題としたい<sup>5</sup>。

<sup>3</sup> (Bolinger, 1971)p96: "It simply appears that some particles – most particularly *up* – have in some cases traded their full resultative meanings for the bare meaning of 'result achieved'... To say *He wrote up his report* is like saying *He wrote-finished his report*."

<sup>4</sup> a. と b. はそれぞれ自動詞の用法と他動詞の用法の例である。

<sup>5</sup> 例えば、2章でみるように、*up* 句動詞は「完了」を表す「-上がる」「-上げる」に対応しない傾向がある。だからといって、*up* に「完了」の用法がないとは言えない。(12-16) などの和訳を行って、*up* の様々な用法がどのような日本語に訳さ

1.4. 「-上がる」「-上げる」の意味分類

[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]は「-上がる」「-上げる」をそれぞれ表2と表3のように分類している。次節から、各分類（姫野の用語は「意味特徴」）がどのように英語で表現されるのを見ていく。なお、英語との対照を重点において、[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]のように「-上がる」と「-上げる」を完全に分けて論じるというよりも、「上昇」の概念がどの程度拡張しているのかを考察する。

表2 「-上がる」複合動詞の下位分類

「-上がる」の複合動詞	自動詞か他動詞か	意味特徴
1. ふもとから頂上へ駆け上がる 地面から空に向かって伸び上がる 空中を飛び上がる	自+上がる=自 他+上がる=自	上昇
2. 産物[が]~上がる 料理が出来上がる	自+上がる=自 他+上がる=自	完了・完成
3. 観客が震え上がる	自+上がる=自	強調
4. 相手が付け上がる	他+上がる=自	増長
5. 目上の方が飲食物を召し上がる	他+上がる=他	尊敬語

[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]p36に基づく

表3 「-上げる」複合動詞の下位分類

「-上げる」の複合動詞	自動詞か他動詞か	意味特徴
1. 地上から月に向かってロケットを打ち上げる 1階から2回まで荷物を運び上げる	自+上げる=他 他+上げる=他	上昇
2. 社長に用件を申し上げる 農民から米を買い上げる	他+上げる=他	社会的行為
3. 子供がしゃくり上げる	自+上げる=自 他+上げる=他	体内の上昇
4. パンを焼き上げる	他+上げる=自	完了・完成
5. 賊を縛り上げる	他+上げる=他	強調
6. 本を読み上げる 軍隊を引き上げる 人生を歌い上げる	他+上げる=他	その他

[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]p44に基づく

2. 「-上がる」「-上げる」と対応する英語表現

本節では [姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]の下位分類を代表すると思われる複合動詞と英語母語話者である発表者による英訳を比較して、英語で句動詞を用いることが可能かどうかという点を中心に考察する。対象となった複合動詞及び例文の詳細に関しては [小柳昇等, 2017]を参照されたい。必要に応じて、実例を現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) から引用している。全ての例文に対して、その文でどの要素が複合動詞の意味を表しているかを下線で示す（複合動詞の英訳と一致しない場合もある）。

2.1. 「上昇」を表す「-上がる」「-上げる」

[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]p35によれば「上がる」の基本的な意味は「下方から上方

れるのかという研究が必要になるとされる。

への移動」であり、そのことから、「上昇」を表す用法を先に取り上げていると思われる。同様に、「上げる」の基本的な意味を「対象とするものを下方から上方へ移動させること」としている。2.1.1節、2.1.2節、2.1.3節ではそれぞれ「上昇」「上昇<抽象化>」「体内の上昇」を考察する。

### 2.1.1. 「上昇」

「上昇」を表すとされている複合動詞は主として空間において上昇していると言える。(12~18)で示すように、これらの動詞は概ねup句動詞に対応する。

#### (17) 駆け上がる run up

「彼は3階まで階段を一気に駆け上がった。」

He ran up two flights of stairs in one go.

#### (18) 持ち上げる lift up

「二人でたんすを持ち上げて隣の部屋に運んだ。」

The two of them lifted up the chest of drawers and moved it into the next room.

up句動詞で表現不可能なものには、launchのように「上昇」の意味を既に含んでいる動詞がみられる(以下、小辞などを伴わない動詞を「単独動詞」と呼んでおく)。このような動詞にupを付け加えると意味が重複してしまうため不自然に感じる。また、「勝ち上がる」に対応させているprogressが思わせる経路はupが表す縦軸のそれではなく横軸のそれである。「繰り上がる」の場合は(21b)のように縦に並べられる順位に対してupが用いられるのに対して、(21a)のように時間の経過が注目される場合は縦軸を意識しupが用いられない。

#### (19) 打ち上げる launch

「ロケットは種子島の宇宙センターから打ち上げられた。」

The rocket was launched from Tanegashima Space Center.

#### (20) 勝ち上がる progress

「あのチームは順当にトーナメントを勝ち上がっていった。」

That team progressed through the rounds of the tournament as expected.

#### (21) 繰り上がる move forward, move up

a. 「開園時間が1時間繰り上がって8時になった。」

The garden's opening time was brought forward one hour to 8 o'clock.

b. 「もし前の人がキャンセルすれば、順番が繰り上がるのでチケットを購入できるかもしれない。」

If the people in front of me cancel then I'll move up the waiting list so I might be able to buy a ticket.

### 2.1.2. 「上昇<抽象化>」

(22~23)で示すように、抽象化した上昇も基本的にup句動詞に対応すると考えられる。本発表で扱う複合動詞に限って言えば、対応を持たないのは(24)の「立ち上がる」のみである。この場合、単独動詞recover(「回復する」)が対応するのである。ただし、get back on one's feetという慣用句は「(転んだときに)再び立ち上がる」の意味を表しており、日本語の「立ち上がる」との共通性が否定しがたい。つまり、英語に「回復」と〈上〉がまったく別々の概念というよりは、複合動詞との対応において直接対応していないと考えたほうが適切なのではないか。

#### (22) 盛り上がる liven up

「ビンゴゲームが始まると、パーティーはとても盛り上がった。」

When the bingo game began, the party really livened up.

(23)持ち上げるbig up (俗語)

「マスメディアはあのタレントをさかんに持ち上げているが、本当に実力があるとは思えない。」

The media are heaping praise on that celebrity, but I don't think they have any real talent.

(24)立ち上がるrecover

「住民たちはあの震災から立ち上がった。」

The residents recovered from the earthquake.

また、(22)の例文で「盛り上がる」とliven upが対応しているとしても、「脚の筋肉が盛り上がっている」といった状態を表す表現は英語ではbe bulgingのように形容詞で表す。したがって、ある複合動詞とある句動詞に対応関係があると認めた際、一方の全ての用法にもう一方がもれなく対応すると結論付けるのは現実的ではない。また、(23)のように、1対1の対応があったと思える例であっても、例文によっては他の表現を用いたほうが自然な文になることが少なくない。本発表では便宜上、ある程度の対応が認められた場合対応関係があるとしている。

### 2.1.3. 「体内の上昇」

「上昇」と「上昇〈抽象化〉」とは違って、「体内の上昇」を表すとされている複合動詞は、幅広い英語表現に訳されている。(25)のようにup句動詞に対応するものもあれば、(26)のように単独動詞に対応するものや、(27)のように動詞の様態を副詞で指定するものもある。この違いはおそらく、同じ泣く行為でも生理的な感覚として「込み上げる」(または「咽び上げる」)は頭に涙などが上昇してくるのに対して、「すすり上げる」や「しゃくり上げる」はどちらかという泣く行為に伴う音を描写しているという違いによる可能性がある。

(25)込み上げるwell up

「彼女は、映画のラストシーンで涙がこみ上げてきた。」

Tears welled up in her eyes during the last scene of the film.

(26)すすり上げるsniffle

「着物のそでで涙をぬぐい、喜助は涙をすすりあげた。」(BCCWJ\_PB2n\_00162)

Yoshisuke wiped his tears on his sleeve and gave a sniffle. (英訳: 発表者)

(27)しゃくり上げるsob convulsively

「普通に観てたんですが、観れば観るほど泣けてきて最後までしゃくりあげてしまいました」(BCCWJ\_OC01\_07328)

I was just watching it, but the longer I watched the more I felt like crying and I was sobbing until the very end. (英訳: 発表者)

## 2.2. 「完了・完成」を表す「-上がる」「-上げる」

[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]は「完了」のカテゴリを「作業の完了」「自然現象の完了」(「-上がる」の場合)「完成品を伴う完了」「それ以外の作業の完了」(「-上げる」の場合)というように下位分類しているが、以下でみるように、これらは必ずしも英語における形式の選択に対応しているとは限らない。表4で完了・完成の例をまとめる(以下、「完了」と略す)。

表4 姫野分類における「完了」とup句動詞の対応関係

後項動詞	下位分類	対応する例	対応しない例
上がる	作業の完了	仕上がる finish (up)	[be+形容詞]

			炊き上がるbe ready 出来上がるbe finished, be ready ゆで上がるbe completely boiled (パンが) 焼き上がるbe baked, be ready 編み上がるbe finished
上がる	自然現象の完了	晴れあがるclear up 干し上がるdry up (cf. dry out) 涸れ上がるdry up	[動詞+副詞] 澄み上がるclear completely
上げる	完成品を伴う 作業の完了		[単独動詞][局面動詞+動詞]など 作り上げるmake 縫い上げるfinish sewing 焼き上げるbake, finish baking ゆで上げるboil (until ready), boil up (+結果物)
上げる	それ以外の 作業の完了	数え上げるcount up, enumerate 売り上げるsell up (cf. sell out)	[動詞+副詞][単独動詞]など 調べ上げるinvestigate exhaustively 並べ上げるlist 勤め上げるwork until (retirement/the end of one's term)

「作業の完了」を表す「-上がる」の場合、英語はむしろ結果状態を注目し形容詞で表す傾向がある。「自然現象の完了」を表す「-上がる」は(14)の「結果状態で現れる完了」をupが表せる(ただし「澄み上がる」は動詞+副詞で表す)。「完成品を伴う作業の完了」を表す「-上げる」は、英語では「完成品」への言及によって、他の手段を以て完了を明示する必要はないと考えられる。「それ以外の作業の完了」の「-上げる」は副詞や単独動詞を用いて英語で表せる。この類の「勤め上げる」は「勝ち上がる」「繰り上がる」と同様の説明が可能であろう。つまり、横軸で捉えられる時間の経過は縦軸を含意する「上昇」の概念とは性質が異なるのである。

全体として、「-上がる」でも「-上げる」でも、完全な対応または不対応はないので一般化が難しいが、以下の事実を考えると、「完了」の意味においてupは「-上がる」「-上げる」より生産性がかなり低いと考えられる。あるいは、英語においてup句動詞が完了を表す主要な手段ではないと思われる(ただし1.3節で紹介した(Bolinger, 1971)の指摘を参考)。

- i 「仕上がる」に対応するfinish (up)では小辞が任意である
- ii 「干し上がる」及び「売り上げる」が表す意味にout句動詞も一部対応している
- iii 「数え上げる」に対して単独動詞enumerateも存在する
- iv sew upは「縫い上げる」と対応すると思われるが、実は「縫い合わせる」を意味する

[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]が「完了」においてあげていない「刈り上げる」「剃り上げる」について一言を付け加えておく。「刈り上げる」と「剃り上げる」は両方とも「上昇」の意味と「完了」の意味を持ち合わせていると考えられる。そこで、対応する英語を考えると、(28~29)で示すように「上昇」の意味のほうがup句動詞に対応しているのに対して、「完了」の意味は他の形式で表現されている。shave off及びshave cleanは1.2節で紹介した結果構文に当たる。

- (28)刈り上げる・剃り上げる(「上昇」の意味) mow; shave (upwards)
- (29)刈り上げる・剃り上げる(「完了」の意味) mow; shave off, shave clean

このことが示唆するのは、**up**はその空間義が根付いており（28-29）のように空間的上昇が想定可能な文脈では完了などの意味解釈が生じにくい（上昇の解釈が優先されやすい）。一方、「上昇」はもはや「完了」などと「-上がる」「-上げる」の意味をいわば有機的になしているように思われる。この相違は、各形式の抽象化の度合いによるのか、品詞の違いによるのかなど様々な要因があり得る。3.2節では、[佐野洋, 多言語による複合動詞翻訳プロジェクト, 2017.6.5] [佐野洋, 動きの表彰表現について（ドラフト）, 2017.6.7]が提案している「経路表現」と「状態表現」の区別に基づいた分析を試みる。

### 2.3. 「強調」を表す「-上がる」「-上げる」

[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]が呼んでいる「強調」の例のうち、実は他のカテゴリに入れるべきと思われる例もある。例えば、(30)で示す「縛り上げる」は前節で考察した「完了」の意味を表していると考えられる。「縛り上げる」の意味を「(人)動けないようにしっかりと縛る」とすれば [小柳昇等, 2017]、これは、「縛る」行為が完了した、という意味になるからである。換言すれば、「縛る」行為が完了していないにもかかわらず「しっかりと縛られている」という状況は生じないはずである。このことから、本発表では「縛り上げる」を「完了」の例として考えたい。

同様のことが「ひねり上げる」についても言える。[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]はこれを「強調」とみなしているが、それが表す動作は「上昇」に他ないであろう。なお、(30-31)のように「縛り上げる」と「ひねり上げる」はそれぞれ *tie up*, *twist up* に対応しているが、両者を「強調」のカテゴリから取り除けば、残っている複合動詞には (32-33) のように句動詞には対応せず、動詞と副詞の組み合わせによって表されるという共通性が見えてくる。唯一 *up* 句動詞になり得るのは「おだて上げる」 *butter up* であるが、これは句動詞の中でも俗語の響きが強いこと、また同様の意味を表す単独動詞 *flatter* の存在から、一般傾向として「強調」を表す複合動詞は *up* 句動詞に対応しないと言えるのではないかと考えられる。

#### (30) 縛り上げる *tie up*

「強盗は警備員をロープで縛り上げて、金品を奪って逃げた。」

The robber tyed up the security guard with a rope and escaped with the valuables.

#### (31) ひねり上げる *twist up*

「なんと、男が女の腕をひねりあげて、私の仕事場の向かいのアパートに引きずってゆく。」

(BCCWJ\_LBg9\_00141)

Then, would you believe it, the man wrenched up the woman's arm and pulled her towards the apartment opposite where I work. (英訳:発表者)

#### (32) ほめ上げる *praise profusely*

「社長は優秀なスタッフを誉め上げた。」

The company president showered the excellent staff with praise. [国立国語研究所, 2015]

#### (33) 震え上がる *shake wildly*

「一歩外に出ると、あまりの寒さに震えあがった。」

I took one step outside and shook from the sheer cold.

### 2.4. その他: 「増長」「尊敬語」「社会的行為」を表す「-上がる」「-上げる」

「-上がる」「-上げる」の全ての用法が「上昇」または「完了」にまともまらない。[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]は「付け上がる」を「増長」と名付けているが、「上昇」の中の「地位の上昇」<sup>6</sup>や「強調」、「社会的行為」のいずれかに入れることが可能と思われる。なぜわざわざ「付け上がる」のために「増長」のカテゴリを設けているか不明である。(34)の英語と比べると、俗語ではあるが、対

<sup>6</sup>[姫野昌子, 1999]は「のし上がる」や「勝ち上がる」を「地位の上昇」を表す複合動詞としている。

応するup句動詞がある。これはどちらかという (Bolinger, 1971)の「□高強度を表すパーフェクトの意味」に相当するであろう。

(34) 付け上がる big oneself up (俗語)、be presumptuous

「彼は、こちらが下手に出ると、ますます付け上がるから、一度厳しく注意したほうがいい。」

When we take a conciliatory tone he gets more and more presumptuous, so it would be a good idea to give him a serious warning.

「尊敬語」は「社会的行為」の一部として考えることができるはずである。(35~36)で「社会行為」の例をあげるが、これらは概ね単独動詞に対応する。各言語はそれ特有の文化や社会と必然的に結びついているのだから、通言語的な概念であろう「上昇」や「完了」よりも対応がみられないのはさほど驚くべきではない。

(35) 巻き上げる swindle

「多くの投資者をだまして金を巻き上げていた男が逮捕された。」

A man who swindled many investors out of their money has been arrested.

(36) 申し上げる state, express

「心からお礼を申し上げます。」

Please allow me to express my deepest thanks.

### 3. 考察

本節では以上の現象をまとめる。まず、姫野分類に沿った分析の結果を表5~表7で示す。データの規模が大きくないが、代表的と思われる複合動詞を考察しているので、ある程度の一般性は期待できる。全体の傾向を示す表5をみると、対応しやすい項目は「上昇」及び「上昇<抽象化>」であり、対応しがたい項目は「完了」「強調」「社会的行為」の3つである。すなわち、upの意味拡張が「-上がる」「-上げる」の意味拡張ほど進んでいないと思われる。この傾向は [影山太郎, 語彙的複合動詞の新体系, 2013]が提案している語彙的複合動詞の新しい分類と関係しているように思われる。すなわち、[影山太郎, 語彙的複合動詞の新体系, 2013]が語彙的複合動詞を「主題関係複合動詞」と「アスペクト複合動詞」に二分しているが、up句動詞で表せない「-上がる」「-あげる」の用法は概ね「アスペクト複合動詞」に相当すると考えられる。

また、参考に [姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]の分類に沿って「-上がる」「-あげる」と対応する英語の形式をまとめる。なお、表8及び表9は網羅的な記述ではないことを断っておく。「英語の形式」の列には最も一般的な形式を表示するようにしている。例えば、表8の「自然現象の完了」に関して、ほとんどの複合動詞がup句動詞になることを反映して「英語の形式」に「up句動詞等」を記述している。

表5 姫野分類の「-上がる」「-上げる」とup句動詞の対応関係

姫野分類	up句動詞との対応			
	不可	難	可	総計
完了	13	3	4	20
強調	8		3	11
社会的行為	6			6
上昇	4	1	13	18
上昇 (抽象化)	1		4	5
増長	1		1	2

尊敬	1			1
体内の上昇	3	1	2	6
その他	1			1
総計	38	5	27	70

表6 姫野分類の「-上がる」とup句動詞の対応関係

姫野分類	up句動詞との対応			総計
	不可	難	可	
完了	5	2	1	8
強調	3			3
上昇	3	1	5	9
上昇（抽象化）	1		1	2
増長	1		1	2
尊敬	1			1
総計	14	3	8	25

表7 姫野分類の「-上げる」とup句動詞の対応関係

姫野分類	up句動詞との対応			総計
	不可	難	可	
完了	8	1	3	12
強調	5		3	8
社会的行為	6			6
上昇	1		8	9
上昇（抽象化）			3	3
体内の上昇	3	1	2	6
その他	1			1
総計	24	2	19	45

表8 姫野分類に沿った「-上がる」の用法と対応する英語の形式

姫野大分類	姫野中分類	姫野小分類	複合動詞（例）	対応する英語	英語の形式
上昇	全体的上昇	空間的上昇	駆け上がる、持ち上がる等	run up, rise up	up句動詞
		序列の上昇	繰り上がるのみ	move forward, move up	up句動詞等
		地位の上昇	のし上がる、勝ち上がる等	rise, progress	単独動詞
	部分的上昇	形の伸長	起き上がる、立ち上がる等	stand up	up句動詞
		形の縮小	巻き上がる、めくれ上がる等	wind up, blow up	up句動詞
		量の減少による形の縮小	はげ上がる、切れ上がる等	go bald	動詞+形容詞
完了・完成	作業活動の完了		焼き上がる、炊き上がる等	be baked, be ready	be動詞+形容詞
	自然現象の完了		晴れあがる、澄み上がる等	clear up, clear completely	up句動詞等

強調	震え上がる、 おびえ上がる等	shake wildly, be terribly scared	動詞+副詞、 be動詞+副詞+ 形容詞
増長	思い上がる、 つけ上がるのみ	be conceited, be presumptuous	be動詞+形容 詞等
尊敬語	召し上がるのみ	partake (of)	単独動詞

表9 姫野分類に沿った「-上げる」の用法と対応する英語の形式

姫野大分類	姫野中分類	姫野小分類	複合動詞 (例)	対応する英語	英語の形式
上昇	全体的上昇	空間的上昇	持ち上げる、 打ち上げる等	lift up, launch	up句動詞等
		序列の上昇	繰り上げる、 切り上げる等	bring forward, round up	up句動詞等
	部分的上昇	形の伸長	盛り上げる、 積み上げる等	heap up, pile up	up句動詞等
		形の縮小	巻き上げる、 折り上げる等	wind up, fold up	up句動詞
		量の減少に よる形の縮小	刈り上げる、 剃り上げる等 <sup>7</sup>	shave, mow	単独動詞等
社会的行為	下位者から上位者に		申し上げる、 願いあげる等	state, beg	単独動詞
	上位者から下位者に		巻き上げる、 取り上げる	swindle, confiscate	単独動詞
体内の上昇			しゃくり上げ る、 込み上げる等	sob convulsively, well up等	動詞+副詞、 up句動詞等
完了・完成	完成品を伴う 作業活動の完了		作り上げる、 縫い上げる等	make, finish sewing等	動詞、 局面動詞+動 詞
	作業活動の完了		調べ上げる、 数え上げる等	research exhaustively, count up	動詞+副詞、 up句動詞等
強調			ほめ上げる、 ひねり上げる <sup>8</sup>	praise profusely, twist up	動詞+副詞、 up句動詞等
その他			読み上げる、 引き上げる等	read out, finish等	句動詞、 単独動詞等

### 3.1. 姫野の問題点

本プロジェクトでは出発点として [姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999] の分類を用いている。この分類は日本語教育に基づくものであるが、複数の言語との対照的視点から考察する際、限界があり、「-上がる」「-上げる」の用法を〈上昇〉の概念に帰するという立場は必ずしも有用とは限らない。また、2.3及び2.4で述べているように、分類の妥当性への疑問も残っている。次の3.2節では、姫野とは別の視点から複合動詞の問題を考える。

<sup>7</sup> [姫野昌子, 1999] はこれらの動詞の「完了」の意味に言及していないので表9に含まれていない。対応する英語も同様。  
<sup>8</sup> 節で分類の再検討を提案したが、ここでは [姫野昌子, 1999] のままにしてある。

3.2. 対照研究的視点からみた分類に向けて：「経路表現」と「状態表現」

2.2節の最後に言及したように、「動きの表象」を「経路表現」と「状態表現」という二分類が、日本語の複合動詞を多言語からみた際に有効であることを、「-上がる」「-上げる」を例に簡単に述べる。

複合動詞の意味を再分類すると、「経路表現」（概ね [姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]の「上昇」に相当）は、英語ではup句動詞に対応する傾向があるが、一方「状態表現」（概ね [姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]の「上昇〈抽象化〉」、「完了」、「体内の上昇」、「強調」などに相当）は、up句動詞に対応しない場合も多い。本プロジェクトで扱う複合動詞に限ってみると [小柳昇等, 2017]、以下の図1～図3で示すように、「-上がる」「-上げる」を個別にみても合わせてみても、経路表現はup句動詞で表しやすく、状態表現はup句動詞で表しにくい。

この分類の利点は、1つ1つの言語における形態論的な特徴にとらわれなくて分析できるということになると想定される。本節で述べた捉え方が妥当であるとすれば、通言語的な立場から、一定の枠組みの中で本プロジェクトが含んでいる諸言語をはじめとする言語の比較対照がしやすくなるのではないかと期待される。

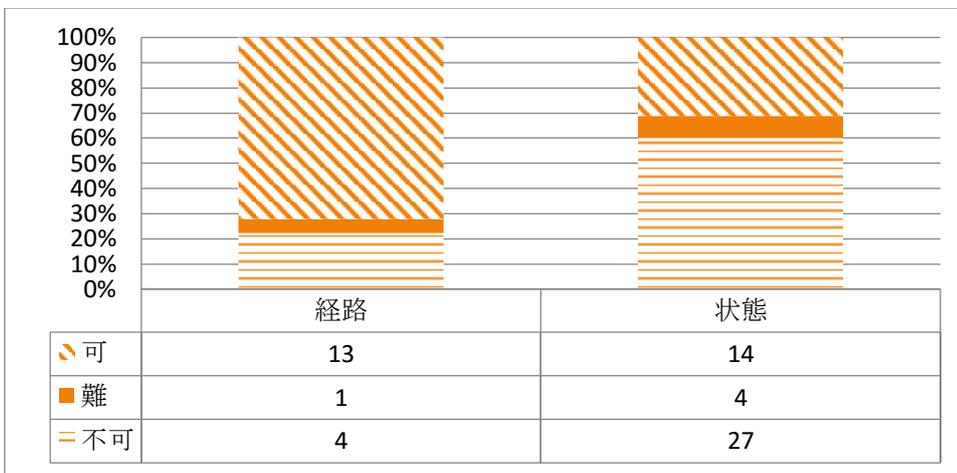


図1 「-上がる」「-上げる」とup句動詞の対応関係

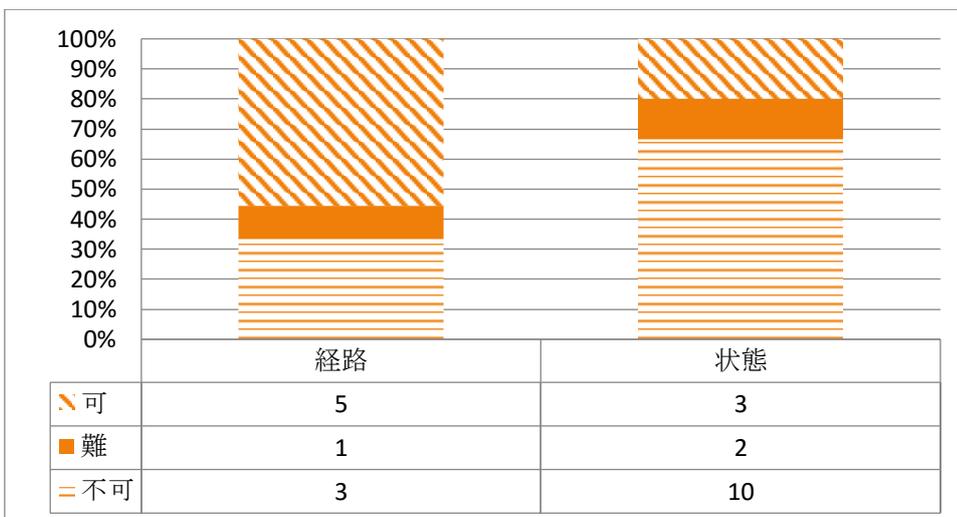


図2 「-上がる」とup句動詞の対応関係

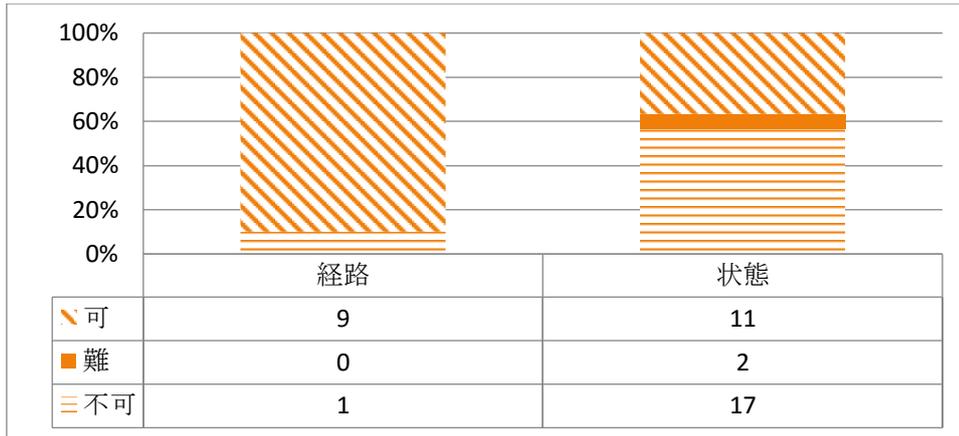


図3 「-上げる」とup句動詞の対応関係

#### 4. まとめ

本発表では「-上がる」「-上げる」を後項とする複合動詞とそれに対応する英語表現を、up句動詞との対応の有無を中心に考察した。「-上がる」「-上げる」の従来の分類を用いて、up句動詞がその「上昇」の意味を表しやすいのに対して、「完了」や「強調」などになると表しにくい傾向が観察した。そのうえで、より通言語的な観点をとって、英語と日本語における「経路表現」と「状態表現」の関係を考えた。[姫野昌子, 複合動詞の構造と意味用法, 1999]があげている全ての動詞はまだ対象にしていなので、本発表で考察した傾向が「-上がる」「-上げる」に関して妥当かどうか断言できない。さらに、「-上がる」「-上げる」のみならず、複数のアスペクト複合動詞を分析していかないといけない。翻訳作業の継続に加えて、「-出す」「-込む」など出現頻度の高い複合動詞の考察や、英語におけるupの立場の調査が今後の研究課題になるであろう。最終的には日英対照だけではなく、韓国語・中国語・ベトナム語・ポーランド語も含めた類型論的な研究になることが期待される。

#### 参考文献

Bolinger, D. (1971). *The Phrasal Verb in English*. Harvard University Press.

Moehle, A. M. (2016). *A Contrastive Study of Japanese Compound Verbs and English Phrasal Verbs: Building Toward a Typology of Linguistic Construal Operations Involved in Processes of Semantic Extension*. 大阪大学 (博士論文).

Nicole Dehé, R. J. (Ed.). (2002). *Verb-Particle Explorations*. Mouton de Gruyter.

影山太郎 (編). (2001). 日英対照動詞の意味と構文. 大修館書店.

影山太郎. (2013). 語彙的複合動詞の新体系. 著: 影山太郎, 複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて (ページ: 3-46).

国立国語研究所. (2009). コーパス開発センター 現代日本語書き言葉均衡コーパス. 参照先: [http://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)

国立国語研究所. (2015). 複合動詞レキシコン. 参照先: <http://vlexicon.ninjal.ac.jp/>

佐野洋. (2017.6.5). 多言語による複合動詞翻訳プロジェクト.

佐野洋. (2017.6.7). 動きの表彰表現について (ドラフト).

小柳昇等. (2017). 日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1.

谷脇康子・當野能之. (2009). 句動詞—動詞と小辞の組み合わせ. 著: 影山太郎, 日英対照形容詞・副詞の意味と構文 (ページ: 293-324). 大修館書店.

姫野昌子. (1999). 複合動詞の構造と意味用法. ひつじ書房.

## 本動詞「抜く」からアスペクトを表す複合動詞「V-抜く」への派生

片山 晴一

東京外国語大学大学院総合国際学研究所 博士後期課程

### 概要

「V-抜く」の表す[本動詞(としての意味)]と[アスペクト]の間の意味の連続性、派生の方向、派生を引き起こす要素について論じる。本動詞「抜く」の基本義「ものの一部の分離」に認められる「xのyに対する一方向への働きかけの過程を経て、ある境界を越えるとwの状態が変わる」という現実事象のうち、状態変化するものを言語化すると派生義「貫通(空洞を生じさせる)」の意味になり、過程の部分を“事態の進行の程度”に反映し、「ある境界」を「心理的到達点」とすることで、アスペクトを表す「V-抜く」の意味へ派生するという結論を得た。日本語の「過程重視」という特徴がこれを可能にしている可能性があることを考察した。

### 1. はじめに

V-V型複合動詞「V-抜く」は、意味・用法により(1)のように大きく2種類に分けられる。

- (1) 「V-抜く」 a. 引き抜く、切り抜く、射抜く、追い抜く、くり抜く…  
b. 生き抜く、攻め抜く、鍛え抜く、考え抜く、困り抜く…

(1a)が「ものの一部の分離」「貫通」「追い越し」などの本動詞<sup>1</sup>「抜く」の意味<sup>2</sup>を保持しているのに対して、(1b)の「V-抜く」は「抜く」の意味を離れ、複合動詞としての独自の意味を持っている。例えば、「生き抜く」は「苦難でも死なずに、最後まで生きる」<sup>3</sup>という意味を持つ。「生きる」と「抜く」が複合されることで「苦難でも死なずに、最後まで」という本動詞「抜く」にはない新たな意味が備わる。(1b)の「V-抜く」は共通して「最後までV1する」というアスペクトとしての意味を持っている。さらに前項に同じ動詞を取る「V-抜く」が異なる解釈を受ける場合もある(2b)(3b)。「V-抜く」がアスペクトの解釈になる場合、話者の脳内ではどのような形で派生が起こっているのだろうか。

- (2) a. 太郎は教科書から重要な部分を書き抜いた。<sup>4</sup> [本動詞(としての意味)]  
b. 太郎は長編小説を書き抜いた。 [アスペクト]
- (3) a. 太郎は床板を踏み抜いた。 [本動詞(としての意味)]  
b. 太郎は一晩中たたらを踏み抜いた。 [アスペクト]

【問題】 「V-抜く」の2つの意味([本動詞(としての意味)][アスペクト])の間にどのような意味の連続性・派生の方向が考えられるか。またその派生を引き起こす要素は何か。

<sup>1</sup> 本発表では複合していない動詞を「本動詞」と呼び、複合動詞を「V-抜く」、本動詞を「抜く」と表記する。

<sup>2</sup> 本発表での本動詞の意味記述は国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』(<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp>)によった。

<sup>3</sup> 複合動詞の意味記述は、国立国語研究所『複合動詞レキシコン』(<http://vlexicon.ninjal.ac.jp>)によった。

<sup>4</sup> 出典を明示していない文は筆者による作例である。

2. 「V-抜く」に関する先行研究

2.1. [影山, 文法と語形成 1993]・[姫野 1999]

[影山, 文法と語形成 1993, 75-97]では、複合動詞を、語彙部門で形成される語彙的複合動詞と統語部門で形成される統語的複合動詞に分類する考え方が示されている。語彙的／統語的複合動詞の分類を枠組みとして使用し、「V-抜く」の意味・用法を記述的に分析した研究として [姫野 1999]が挙げられる。[姫野 1999]では、語彙的複合動詞は「抜く」の本動詞の意味で用いられ、統語的複合動詞は「行為の貫徹」と「極度の状態」を表す場合があるとしている (4)。

(4) [姫野 1999]における「V-抜く」の分析

A 語彙的複合動詞

「～ぬく」の複合動詞	自動詞か他動詞か	意味特徴
対象「を」 ～ぬく 板を 打ちぬく 釘を 引きぬく	他+ぬく=他	貫 通 抜 去

B 統語的複合動詞

1. 人が 対象 [を] ～ぬく 親が 子を 鍛えぬく 人が ～ぬく 子供が 走りぬく	他+ぬく=他 自+ぬく=自	貫 徹
2. 人が ～ぬく 若者が 悩みぬく	他+ぬく=他	極 度

( [姫野 1999, 185],  
一部改編)

2.2. [影山 2013]・複合動詞レキシコン

[影山 2013]では、[影山 1993]で提唱された語彙的複合動詞のV1とV2の意味関係による分類を、「V1で、V2」と言い換えが可能かどうかという基準をもとに「主題関係複合動詞」と「アスペクト複合動詞」の2つのタイプに分類している。アスペクト複合動詞のV2は、日本語学で補助動詞的と呼ばれるものに概ね対応し、動詞としての機能（主語や目的語の項関係）を失って、補助的な機能動詞として語彙的アスペクト（アクツィオンスアルト）<sup>5</sup>の機能を果たしているという [影山 2013, 14]。

国立国語研究所『複合動詞レキシコン』（以降『複レキ』と表記）は主題関係複合動詞とアスペクト複合動詞を収録している。「V-抜く」を検索すると (5) の21語が抽出される<sup>6</sup>。

(5) 「V-抜く」－『複レキ』に掲載されている語彙的複合動詞

主題関係複合動詞 (VV)		アスペクト複合動詞 (Vs)	
射抜く [他]	染め抜く [他]	生き抜く [他]	
打ち抜く [他]	突き抜く [他]	勝ち抜く [他] [自・意]	
選抜く [他]	粘り抜く [他] [自・意]	困り抜く [自]	
選(え)り抜く [他]	引き抜く [他]	攻め抜く [他]	
追い抜く [他]	踏み抜く [他]	粘り抜く [他] [自・意]	
書き抜く [他]	掘り抜く [他]	走り抜く [他] [自・意]	

<sup>5</sup> 語彙的アスペクト (Aktionsart アクツィオンスアルト；動作の様態 (manner of action)、動作の方式) とは、完了・未完了といった時間的なアスペクトに限られず、広く「事態の展開の仕方」を表す概念である。[亀井他編著 1996]

<sup>6</sup> ここでは前項動詞が接頭辞化した「ぶち抜く」、一語化し語が固定されている「出し抜く」は除外している。「粘り抜く」はVV・Vsの両タイプに属している。「粘り抜く」は1語と数え、本文では異なり語数として21語とした。

切り抜く [他] くり抜く [他]	選 (よ) り抜く [他]	見抜く [他]
----------------------	---------------	---------

### 3. 「分離」「貫通」を表す本動詞「抜く」と「V-抜く」

主題関係複合動詞は後項動詞 (V2) が本動詞の意味を保持しているという特徴があるが、本動詞「抜く」自体が複数の意味・用法を持っている。そこで、まず「抜く」の意味を明示する。国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』(以降『基ハン』と表記)では、多義の動詞を中心となる意味から様々な意味が派生すると捉えている。『基ハン』によると「抜く」の中心となる意味は「ものの一部の分離」となっている。そこから「気体・液体の排出」「選抜による分離」「貫通 (空洞を生じさせる)」「唐突な暴露」などの意味が分岐している。

以下では「抜く」の各語義のうち、[アスペクト]を表す「V-抜く」への派生に関係すると本発表で捉えている「ものの一部の分離」「貫通 (空洞を生じさせる)」についてそれぞれ分析していく。動詞の分析にあたり、意味と統語の両方の特徴を捉えるため、語彙概念構造 (Lexical Conceptual Structure: 以下LCS) のモデルを用いて解説する<sup>7</sup>。

#### 3.1. 「ものの一部の分離」を表す「抜く」／「V-抜く」

(5) の主題関係複合動詞の中で「ものの一部の分離」の意味になるものは「切り抜く」「引き抜く」の2つである。「ものの一部の分離」を表す本動詞「抜く」は (6) の例のように<動作主><対象><起点>を表すことが可能である。( < > は意味役割を示す)

(6) 目のまえで、一人の若い男が<動作主>湾曲した短剣を<対象>鞘から<起点>【抜き】、それを自分の胸先に構えたのだ。 (今福竜太ほか編『旅のはざま』, 1996, 908. 下線・上付き文字・【 】は筆者による)<sup>8</sup>

(6) では<動作主 (男が)><対象 (短剣を)>は、省略すると意味が通じないため、必須項 (Obligatory Argument) となっているのに対し、<起点 (鞘から)>は省略しても文意に影響はないため、随意項 (Optional Argument) と考えられる。しかし省略されたとしても<対象>がどこから抜かれたのかという情報は話者の経験的知識によって推察が可能である (例: 釘を (木材などから) 抜く)。

このことから、「ものの一部の分離」の意味における「抜く」の<起点>は<対象>をその一部として含んでいるという関係を持っているということが分かる。考えられるLCSによる表記を (7) に示す。

(7) ものの一部の分離「抜く」のLCS

例: 太郎が鞘から剣を抜いた。

[x太郎ACT ON y剣] CAUSE [y剣BECOME [y剣BE NOT AT w鞘(∈ y剣)]]

主題関係複合動詞の「V-抜く」は (7) のLCSに前項動詞 (V1) のLCSを代入することで「ものの一部の分離」の意味を保持した「V-抜く」の解釈が得られると考えられる。[影山 2013, 22]ではLCSの意味概念 (ACT, CAUSE, MOVE, BECOME) はすべて「具体的な実行の仕方を表す様態成分 (manner component)」を持っており、主題関係複合動詞はV2が持ついずれかの様態成分にV1のLCSを代入することでV1はV2を手段・原因・様態など様々な意味関係で修飾している解釈を得るという分析を示している。LCSの代入という形で「V-抜く」のLCSを示すと (8) の形が考えられる。

(8) 太郎が大根を引き抜く。(手段の解釈)

抜く: [xi ACT ON<Manner> yj] CAUSE [yj BECOME [yj BE NOT AT w(∈ yj)]]

↑

引く: [xi ACT ON<PULLING> yj] 項構造: <xi「太郎」<yj「大根」>>

<sup>7</sup> LCSの定義は [影山 1996] [影山 2008]に従う。

<sup>8</sup> 出典を示す現代語用例は、国立国語研究所, Lago言語研究所『NINJAL-LWP for BCCWJ』による。

<起点>となるwは「地面から」「畑から」など随意項として具現化することもできる。

### 3.2. 「貫通（空洞を生じさせる）」を表す「抜く」／「V-抜く」

次に『基ハン』で派生義とされている「貫通（空洞を生じさせる）」の意味を持つ「V-抜く」を見ていく。(5)の主題関係複合動詞の中では「射抜く」「打ち抜く」「踏み抜く」がこの意味になると考えられる。前節と同様にまず本動詞「抜く」の意味・用法から確認する。

- (9) (私が<動作主>) 2部屋と階段、廊下の壁を<対象>【抜き】広々とした台所とリビングにした。(クロワッサン, 2002, 一般, 下線・上付き文字・( )・【 】は筆者による)

「ものの一部の分離」を表す「抜く」と異なり(9)では随意項の<起点(～から)>が現れない。このことからLCSの状態部分には前節で分析したような<起点>と結び付くwは現れないと考えられる。具体的には[y BE NOT AT w(= y)]の部分である。『基ハン』では「貫通（空洞を生じさせる）」の語義として「人・ものが、力を加えてものの一部を貫通させる」と記載されている。「ものの一部の分離」では、分離される<対象>(y)は<起点>となる全体(w)の一部であったが、yとwは基本的には別個のものであり、yはwからの分離の可能性を持っていた。一方「貫通（空洞を生じさせる）」の事象において貫通される<対象>となる部分は、そこに近接するものと基本的に均一の性質を有するものであり、通常の状態では分離の可能性を持っていない(例：クッキー生地を丸形に抜いた。→抜いた部分は「クッキー生地」の一部)。統語構造に<起点>が現れないことを考慮すると、LCSの状態の部分は変項(w)を用いず「貫通された」を示す意味述語(=PIERCED)に置き換えてよいと考えられる(10)。

(10)のLCSを「射抜く」に当てはめて見ていく。3.1と同様に具体的な実行の仕方を表す様態成分が前項動詞(V1)によって付加されると考えると(11)の構造が得られる。

- (10) 貫通（空洞を生じさせる）「抜く」のLCS

例：太郎が床を抜いた。 [x太郎ACT ON y床] CAUSE [y床BECOME [y床BE AT PIERCED]]

- (11) 太郎が的を射抜く。(手段の解釈)

抜く：[xi ACT ON<Manner> yj] CAUSE [yj BECOME [yj BE AT PIERCED]]

↑

射る：[xi ACT ON<SHOOT> yj] 項構造：<xi「太郎」<yj「的」>>

## 4. アスペクトを表す複合動詞「V-抜く」への派生

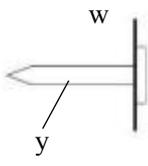
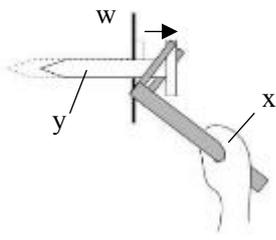
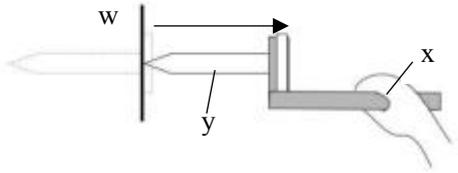
アスペクトを表す「V-抜く」は「最後までV1する」という意味を表すが、3節で考察した本動詞「抜く」の「ものの一部の分離」「貫通（空洞を生じさせる）」にはその語彙の中にアスペクトを表す「V-抜く」につながる要素は見当たらなかった。そこで本節では、言語化される以前の「現実の事象そのもの」という視点から「ものの一部の分離」「貫通（空洞を生じさせる）」を捉えなおし、アスペクトを表す「V-抜く」との関連を分析する。

### 4.1. 「ものの一部の分離」の現実事象

はじめに「ものの一部の分離」を意味する「抜く」の現実事象を分析する。例として「釘を抜く」という表現を取り上げると現実事象は図1のように捉えられる。図1の下線部以外は言語上では具現化していないが、現実の世界では存在している。<動作主><釘><木材>を変項x、y、wとし、現実事象を一般化すると「ものの一部の分離」を表す「抜く」は(12)のように表すことができる。

(12)を現実事象として認めた上で、これが本動詞の派生的意味「貫通（空洞を生じさせる）」、アスペクトを表す「V-抜く」につながるプロセスを4.2および4.3で考察する。

図1 「ものの一部の分離」を表す「抜く」の現実事象イメージ（「釘を抜く」）

静止状態	過程	結果状態
		
<p>①：木材&lt;起点w&gt;に釘&lt;対象y&gt;が刺さった状態。</p>	<p>②-1：&lt;動作主x&gt;が釘&lt;対象y&gt;に対して一方向への移動を働きかける。</p> <p>②-2：釘&lt;対象y&gt;は木材&lt;起点w&gt;の内部から外部へ徐々に移動する。</p>	<p>③：釘&lt;対象y&gt;と木材&lt;起点w&gt;が分離する。</p> <hr/> <p>③-A [釘の視点] &lt;対象y&gt;：木材の内部と外部の境界を越える。</p> <p>③-B [木材の視点] &lt;起点w&gt;：釘が刺さっていない状態になる。</p>

※下線部はLCS上で実現している部分を示す。

(12) 「ものの一部の分離」を表す「抜く」の現実事象

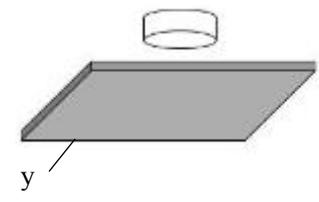
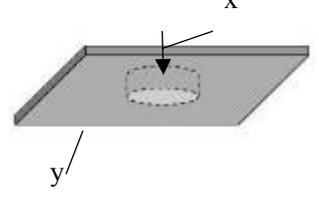
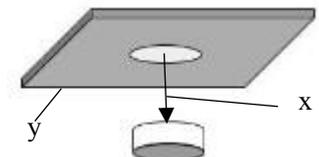
xのyに対する一方向への働きかけの過程を経て、ある境界を越えるとwの状態が変わる。

#### 4.2. 「貫通（空洞を生じさせる）」の現実事象

「貫通（空洞を生じさせる）」が「ものの一部の分離」からの派生であるとする [y BE NOT AT w(≡ y)] が [y BE AT PIERCED] に変化する要因を「ものの一部の分離」の現実事象に求めることができる。すなわち、図1のうち、「ものの一部の分離」では言語化されていなかった“一部を抜かれた側”の視点（③-B [木材の視点] <起点w>：釘が刺さっていない状態になる）が言語化されると（10）のようなLCSの構造が得られると考えられる。ただし力が加えられる部分とその周囲が均質なため<起点w>は<対象y>となり<対象y>の状態変化として捉えられることになる。「クッキー生地を丸形に抜く」を例にすると「貫通（空洞を生じさせる）」の現象事象は図2のように捉えられる。

図2の記述の下線部は言語化に使用されている部分である。このように「xのyに対する一方向への働きかけの過程を経て、ある境界を越えるとwの状態が変わる」という「ものの一部の分離」の現実事象から言語化する部分を③から③-Bの視点に切り替えることで、<起点w>は<対象y>に置き換わり、「貫通（空洞を生じさせる）」の意味が派生すると捉えることができる。この操作が加えられた後の現実事象を（13）に示す。

図2 「貫通（空洞を生じさせる）」の現実事象イメージ（「クッキー生地を丸型に抜く」）

静止状態	過程	結果状態
		
<p>①：クッキー生地&lt;対象y&gt;がある。</p>	<p>②-1：&lt;動作主x&gt;がクッキー生地&lt;対象y&gt;の一部に対して一方向への移動を働きかける。</p> <p>②-2：クッキー生地&lt;対象y&gt;の一部が徐々に外部へと移動していく。</p>	<p>③：一部と元のクッキー生地が分離する。</p> <hr/> <p>③-A：[一部の視点]：元のクッキー生地の内部と外部の境界を越える。</p> <p>③-B：[元のクッキー生地の視点]：丸形に抜かれた状態になる。</p>

※<動作主x>の姿はイメージ図では省略している。

(13) 「貫通（空洞を生じさせる）」を表す「抜く」の現実事象 xのyに対する一方向への働きかけの過程を経て、ある境界を越えるとyの状態が変わる。

#### 4.3. アスペクトを表す「V-抜く」

(14a) (14b) は客観的事実としては同一だが、両者の違いはどこにあるのだろうか。

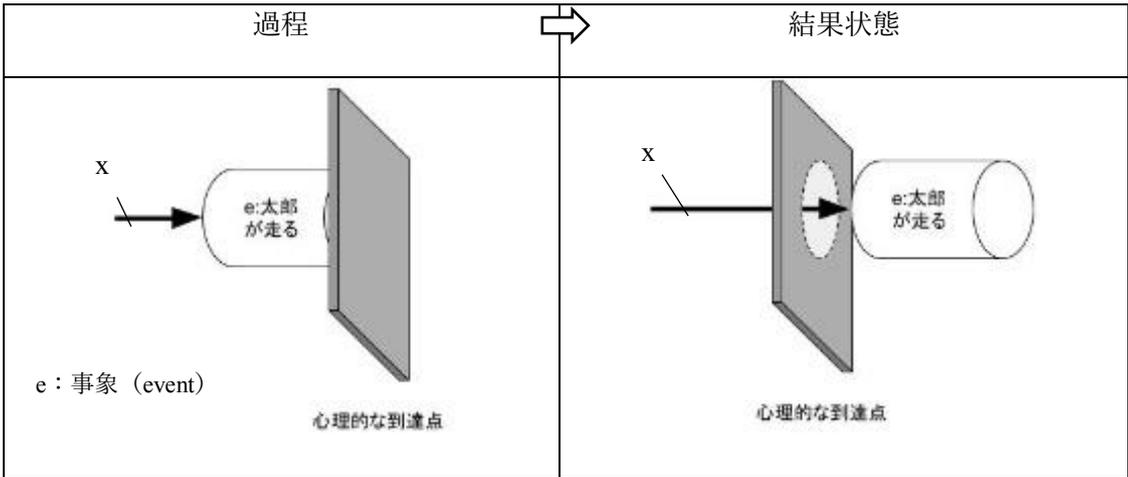
(14) a. 太郎は3日間走り抜いた。 b. 太郎は3日間走った。

[城田 1998, 145]によれば、「～ぬく」は「うごきが持続され最終段階に至ることを示すが、それに対する逆流（抵抗、困難な条件）のあることがなんらかの程度に予定される。」逆流に対しある期間最後まで当人の強固な意志に支えられて何かが行われるということを表すのである。したがって、期間の長さを示す語を伴うことが多い。

[姫野 1999, 187]

この分析中「最終段階」という表現があるが、これは「ある期間」という“時間的な幅”だけではなく、V1の“事態の進行の程度”という側面も含めて考えることができる。例えば「鍛え抜く」という語は、「鍛える」という事態が「最終段階に至る」ということであるが、この最終段階というのは時間的な幅の最終段階ではなく、「鍛える」という動作を行う<動作主>にとっての「心理的な到達点」のようなものを表していると考えられる。この点を考慮すると (14a) は客観的な事実は (14b) と同じでも<動作主>の中で“「心理的な到達点」を越えた”という事態認識があるかどうかという点が異なっている。<動作主>が「走る」という事態を「心理的な到達点」の方向へ向かうように働きかけた結果、心理的な到達点を越える、ということである。図3は「太郎が走る」という事象自体を<動作主x=太郎>の心理的な到達点の方向へ向かわせようと働きかける過程を経て、心理的な到達点を越える」ことを表している。図3中の矢印は“事態の進行”を表しており、物理的な移動を示していた図1図2とは異なるが、図3は図2の現実事象を概念上で反映させた形と見ることができる。「貫通（空洞を生じさせる）」では状態変化する対象が<対象y>であったのに対し、アスペクトを表す「V-抜く」ではxの内的状態が「心理的な到達点への未到達」から「到達」へと変化していると考えられる。ここからアスペクトを表す「V-抜く」の現実事象は (15) のように記すことができる。(15) を踏まえると (16) のようなLCSが想定できる。

図3 アスペクトを表す「V-抜く」の現実事象イメージ（「太郎が走り抜く」）



(15) アスペクトを表す「V-抜く」の現実事象  
 xのe（事象）に対する一方向への働きかけの過程を経て、心理的な到達点を越えるとxの状態が変わる。

- (16) アスペクトを表す「V-抜く」のLCS  
 a.  $e_1$  : V1のLCS : 便宜上 $e_1$ と表記しておく  
 b. 「V-抜く」のLCS  
 $e_1$  BECOME [ $e_1$  BE AT BEYOND-x's MENTAL TERMINUS]

(16) はある事象( $e_1$ )がxの「心理的な到達点」を越えた状態 ( $e_1$  BE AT BEYOND-x's MENTAL TERMINUS) になる (BECOME) ことを表している。状態変化のLCSの中にV1の事象 ( $e_1$ ) が合成された形になっている。「心理的な到達点」はxの認識上の問題なので客観的に明示することは難しいが、明らかにそこまで達していないと想定できるような現実事象の表現に「V-抜く」を用いると不自然な文になる (17)。

- (17) a. ?? その選手はゴール直前まで走り抜いた。 b. ?? 考え抜いた穴だらけの意見を言った。

(17) の例から「V-抜く」は「心理的な到達点」を越える以前の過程の段階では使いにくく、基本的に「到達点を越える」という瞬間的な変化の部分を言語化していると考えられる。しかし図3に示したように現実事象では過程が存在している。本動詞「抜く」がこの過程部分の共通性を介してアスペクトを表す「V-抜く」へと派生するには、「デキゴトの背景の過程に着目するような視点」「過程重視」という要素があることが必要になる。

この過程の部分を含めた共通フレームとしての (15) の中にどのような補足的価値<sup>9</sup>を持たせるかによって、「貫徹」や「極度」の意味が派生すると考えられる。例えば「生きる」の心理的到達点に向けて働きかけるという過程の中に「それに対する逆流 [城田 1998, 145]」を想起させれば「苦難でも死なずに、最後まで (『複レキ』)」という「貫徹」のニュアンスが含まれるし、「困る」が一方向へ向かっていく過程の中に「より深く進んだ状態に向かう」ことを想起させれば「非常に、とことんまで [姫野 1999, 188]」という「極度」のニュアンスが含まれると考えられる。

5. 「過程重視」の視点に関わる対照言語学的考察

4節では本動詞「抜く」の「貫通 (空洞を生じさせる)」の現実事象における過程を、“事態の進行の程度”に反映させることで「V-抜く」がアスペクトの意味につながるプロセスを分析した。本節ではこ

<sup>9</sup> 補足的価値 (subprementary values) とは、明示の意味 (denotative meaning) と対置され、特定の言語共同体や個人によって異なる、ある語に対して抱く周辺の意味、情意的意味である [木藤 1991, 1]。

のプロセスを可能にする「過程重視」の視点について他の言語との対照を通じて考察する。日本語の「過程重視」に対して「結果重視」と言われている言語に英語や中国語があるが、これらの言語では、アスペクトを表す「V-抜く」のニュアンスを動詞として表現しにくいようである。すなわち英語・中国語では、結果相に視点がおかれるため（[影山 1996, 289-290]、[Tai 1984, 295]）<sup>10,11</sup>、「V-抜く」の後項のように動詞一語の中で「継続相の様態（“困難にもめげずに最後まで”といった過程）＋結果相」という複合的なアスペクトを表現することが難しいのかもしれない。英語では（18）、中国語では（19）のように「V-抜く」のニュアンスを表現しようとするすると“to the end”や<到最后>（最後まで）のような副詞的な要素や成語での表現になる。

(18) アスペクトを表す「V-抜く」の英語（『複レキ』より英語による語義説明を引用）

- a. 生き抜く To continue living to the end, without dying in difficult circumstances.
- b. 走り抜く To run to the end.
- c. 困り抜く To be vexed but unable to see any solution no matter how much one thinks.

(19) アスペクトを表す「V-抜く」の中国語<sup>12</sup>

- a. 生き抜く 坚决地活下去（断固として<坚决地> 生き続ける<活下去>）
- b. 走り抜く 跑到最后（最後まで<到最后> 走る<跑>）／跑完（走り終わる）
- c. 困り抜く 束手无策（手をつけかねて成す術をしらない [成語]）

反対に日本語では「過程重視」の視点が作用し（脚注10参照）、「V-抜く」の中に「抜く」成立までの過程を読み込むことができ、それが「V-抜く」全体の意味（「貫徹」や「極度」のニュアンス）に反映されると考えることができる。

## 6. おわりに

本発表では「V-抜く」の2つの意味（[本動詞（としての意味）] [アスペクト]）の間にどのような意味の連続性・派生の方向が考えられるか。またその派生を引き起こす要素は何か」という問題について論じた。本動詞「抜く」の基本義「ものの一部の分離」の現実事象に認められる「xのyに対する一方向への働きかけの過程を経て、ある境界を越えるとwの状態が変わる」という要素のうち、状態変化するものを言語化すると派生義「貫通（空洞を生じさせる）」の意味になること、さらに、現実事象における過程の部分で“事態の進行の程度”に反映し、「ある境界」を「心理的到達点」とすることで、アスペクトを表す「V-抜く」の意味へ派生するという結論を得た。この派生には過程に着目する視点が必要であり、日本語の「過程重視」という特徴がこれを可能にしている可能性があることを考察した。図4に本動詞「抜く」の基本義「ものの一部の分離」から「貫通（空洞を生じさせる）」「アスペクトを表す「V-抜く」」へ至る現実事象上での関連と対応するLCSを示す。現実事象中の太字で示した要素がLCS上の意味の派生と関わる基本義からの変更部分であり、太字以外の部分は共通する概念として引き継がれるフレームである。現実事象の過程に着目することで、LCS上ではわからない本動詞「抜く」との連続性を捉えられることを示した。

<sup>10</sup> 影山（1996：10）では英語／日本語の結果／過程重視の例として以下のような違いを挙げている。

- a. AND THEN THERE WERE NONE (Agatha Christieの小説) /そして誰もいなくなった。
- b. [授業の始めに先生が] Where are we now? / 前はどこまで行きましたか？
- c. Don't be cross with Robert. (Hemingway. *The Sun Also Rises*) / ロバートに腹を立<sub>て</sub>ないで。

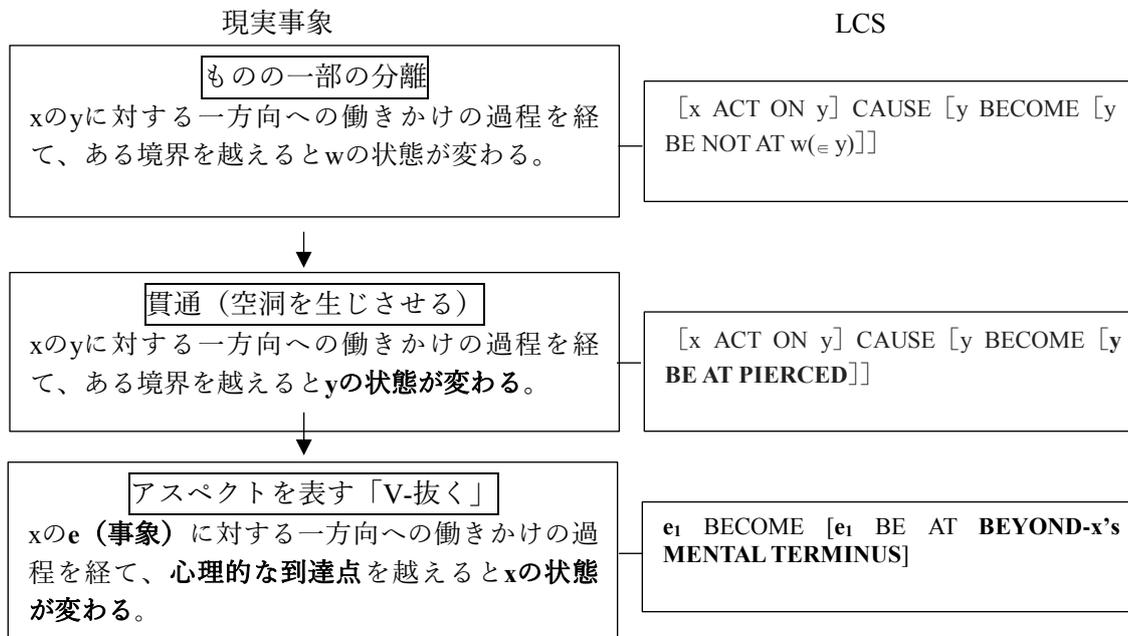
「日本語の動詞が状態変化の途中過程を描写するのに対して、英語ではbe動詞が使われている。be動詞は静止状態を表すから、英語は変化の途中経過は抜きにして、結果状態という1点に着目していることになる [影山 1996, 10]」

<sup>11</sup> [Tai 1984, 294]は「中国語は基本的に結果重視の言語であり、表現の視点は変化を被る対象のところに位置している」という。例えば複合動詞<殺死>は「死ぬ」という結果がまずあって、その前にどうして死んだのかを表す<殺>をつける、すなわち結果の観点から行為を見つめているという。

<sup>12</sup> 日本語に対応する中国語は中国語母語話者（中国雲南省出身・20代・男性）に協力頂いた。

本発表では、アスペクトを表す複合動詞「V-抜く」への派生に関わる本動詞の意味として「ものの一部の分離」「貫通（空洞を生じさせる）」を取り上げたが、これ以外の「選択による分離」などの本動詞の意味について基本義からの派生を分析するには至らなかった。これらの派生義やアスペクトを表す他の複合動詞（「V-きる」「V-とおす」など）に対する本発表で提案した方法の適用については今後の課題としたい。

図4 本動詞「抜く」からアスペクトを表す「V-抜く」への派生



[参考文献]

- 姫野昌子. 複合動詞の構造と意味用法. ひつじ書房, 1999. Bolinger, Dwight. 1971. *The Phrasal Verb in English*. Harvard University Press.
- Moehle, Ashlyn Michelle. 2016. *A Contrastive Study of Japanese Compound Verbs and English Phrasal Verbs: Building Toward a Typology of Linguistic Construal Operations Involved in Processes of Semantic Extension*. 大阪大学（博士論文）.
- Nicole Dehé, Ray Jackendoff, Andrew McIntyre, Silke Urban, ed. 2002. *Verb-Particle Explorations*. Mouton de Gruyter.
- Tai. 1984. "Verbs and Times in Chinese: Vendler's Four Categories." 著: *Papers from the Parasession on Lexical Semantics*, 289-296. Chicago Linguistic Society.
- 城田. 1998. 日本語形態論. ひつじ書房.
- 谷脇康子・當野能之. 2009. "句動詞一動詞と小辞の組み合わせ." 著: *日英対照形容詞・副詞の意味と構文*, 脚本: 影山太郎, 293-324. 大修館書店.
- 国立国語研究所. 2009. コーパス開発センター 現代日本語書き言葉均衡コーパス. [http://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/).
- . 2015. 複合動詞レキシコン. <http://vlexicon.ninjal.ac.jp/>.
- 刘月华主编. 1998. 《趋向补语通释》. 北京语言文化大学出版社.
- 木藤. 1991. "コノテーション：感・主観のはざままで." 著: *東京外国語大学論集*, 1-23. 東京外国語大学.
- 申亜敏, 望月圭子. 2011. "「日本語と中国語の複合動詞の語形成」." 『*漢日语言对比研究论丛第二辑*』 2 卷 汉日对比语言学研究(协作)会 北京大学出版社 46-72.
- 丸尾誠. 2014. 『*現代中国語方向補語の研究*』. 白帝社.

小柳昇等. 2017. “日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1.”

影山. 1993. 文法と語形成. ひつじ書房.

影山. 2013. “語彙的複合動詞の新体系—その理論的・応用的意味合い.” 著: 複合動詞の最先端—謎の解明に向けて, 編集: 影山太郎. ひつじ書房.

影山. 2008. “語彙概念構造 (LCS) 入門.” 著: レキシコンフォーラム No.4, 編集: 影山太郎, 239-264. ひつじ書房.

—, 1996. 動詞意味論—言語と認知の接点—. くろしお出版.

影山太郎. 2013. “「語彙的複合動詞の新体系」.” 著: 『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』, 脚本: 影山太郎 編. ひつじ書房.

—, 1993. 『文法と語形成』. ひつじ書房.

影山太郎, 編. 2001. 日英対照動詞の意味と構文. 大修館書店.

影山太郎. 2013. “語彙的複合動詞の新体系.” 著: 複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて, 脚本: 影山太郎, 3-46.

佐野洋. 2017.6.5. “多言語による複合動詞翻訳プロジェクト.”

佐野洋. 2017.6.7. “動きの表彰表現について (ドラフト).”

姫野昌子. 1999. 『複合動詞の構造と意味用法』. ひつじ書房.

—, 1999. 複合動詞の構造と意味用法. ひつじ書房.

姫野. 1999. 複合動詞の構造と意味用法. ひつじ書房.

湯廷池. 1989. “「詞法與句的相關性：漢, 英, 日三種語言複合動詞的對比分析」.” 著: 『漢語詞法句法續集』, 147-211. 臺灣學生書局.

監修・制作：小柳昇、制作：崔正熙、ローレンス・ニューベリーペイトン、クリコフ・アガタ、ファム・ティ・タイン・タオ、張正、劉倩卿. 2017. 「日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1」. 6月〇〇日.

亀井他編著. 1996. 言語学大辞典 第6巻 (術語編). 三省堂.

Tai, James. “Verbs and Times in Chinese: Vendler’s Four Categories.” Papers from the Parasession on Lexical Semantics, 289-296. Chicago Linguistic Society, 1984.

[参考ホームページ]

国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』 (<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp>) [アクセス日2016/9/18]

国立国語研究所『複合動詞レキシコン』 (<http://vlexicon.ninjal.ac.jp>) [アクセス日2016/9/18]

国立国語研究所, Lago言語研究所『NINJAL-LWP for BCCWJ』 (<http://nlb.ninjal.ac.jp/>) (アクセス日: 2016/9/18)

# 日本語教育における複合動詞

小柳昇

拓殖大学非常勤講師・東京外国語大学国際日本研究センター特任研究員

## 1. はじめに

現代日本語における複合動詞の存在意義を確認し、これまでの複合動詞の研究の流れを概観する。その上で、日本語教育における複合動詞という視点から、拙著『ニューアプローチ中級日本語 [基礎編]』及び『ニューアプローチ中上級日本語 [完成編]』を例にとり、これまでの取り組みと今後の課題を示す。

## 2. 現代日本語における複合動詞

- ・複合動詞の用例数  
約7,500語（異なり語数）<sup>1</sup>  
構成要素としての動詞：2166語  
カバー率：上位100語→全体の51%、200語→63%、※一度しか使われない→1030動詞
- ・森田（1978）の『例解国語辞典』（時枝誠記編 中教出版 1956年）の調査  
収録語の11.4%が動詞で、そのうちの39.29%複合動詞。（約4割）

## 3. 複合動詞の研究

### 3.1. 複合動詞の分類（動詞V1連用形+動詞V2）

- ・動詞の意味、文法的特徴の保持の観点から4つに分類（寺村1984）<sup>2</sup>  
V-V、V-v、v-V、v-v
- ・語形成の観点から「統語的複合動詞」と「語彙的複合動詞」の区別（影山1993）
- ・文の格関係を決めるのがV1かV2かという観点から語彙的複合動詞の分類の見直し  
「主題関係複合動詞」と「アスペクト複合動詞」（影山2013）

### 3.2. 分類の意義（教育上の観点から）

- ・「動詞である以上、各要素の意味構成を捨象して論じるわけにはいかない。単独で使われる場合の意味（本義）がどのような形で複合動詞の中に生かされているのか、その面から考察するのは、例えば、外国人学習者の日本語習得の場合には教育的効率にかかわる重要な問題だからである。」（姫野1999：19-20 ※下線は引用者による）
- ・「もう少し正確に言うと、主題関係複合動詞においては、基本的にV2が複合動詞全体の項関係（格関係）を支配するのに対して、アスペクト複合動詞ではV1のほうが複合動詞全体の項関係を支配し、V2はV1の事象に対して何らかの語彙的アスペクト（Aktionsart）の意味を添加する

<sup>1</sup> 姫野（1999：24）で、国立国語研究所『複合動詞資料集』（野村・石井1987）から抽出されたデータとして紹介されている。

<sup>2</sup> 姫野（1999：11-12）が指摘しているように、このような自立語・付属語の観点からの分類は、寺村秀夫（1996）「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクトー その一」『日本語・日本文化』1 大阪外国語大学研究留学生別科が初出である。

だけである。このように語彙的なアスペクト複合動詞では、V1 と V2 の意味関係が「左から右へ」という時間の流れと iconic な関係にならないために、日本語を母語とする話者にとっても、第二言語として日本語を学習する者にとっても、間違いが起こりやすい。母語習得においても、主題関係複合動詞と比べてアスペクト複合動詞の習得はかなり遅いのではないかと推測される。」（影山2014：15 ※下線は引用者による）

### 3.3. 複合動詞の習得のための研究

- ・ 認知意味論の観点から「コア図式」による一連の研究  
→松田（2004）、松田・白井（2011）、白井・松田（2014）
- ・ 日本語教育における効果的な指導法開発のための基礎研究 →何志明（2010a）
- ・ 日本語の教科書で複合動詞がどのように扱われているか →陳曦（2011）、小森（2015）
- ・ 学習者の複合動詞の誤用の分析 →何志明（2010b）

## 4. 日本語教育における複合動詞

### 4.1. 複合動詞の扱い

- ・ 田中（1996）の指摘  
「姫野の最初の論文（引用者注：1975年の論文）が出てから、もう20年余になる。この間、日本語学習者の数は飛躍的に増え、各種の教科書も出版された。にもかかわらず、複合動詞の使用に関して、現在の学習者が20年前の学習者とほとんど変わらないというのは、注目に値する事実ではないだろうか」  
  
→さらにその後20年たった現在はどうか？
- ・ 田中（2004）の指摘  
「上記の事実（引用者注：本レジュメ2節の森田（1978））にも拘らず、日本語を第二言語として習得しようとする学習者のための教科書にさえ、複合動詞はあまり含まれていない。従って、上級段階に進んだ学習者でも、複合動詞に関する日本語力はあまり持っていないと言える。これは、日本語で高等教育を受けようとする、または、現に受けている留学生にとっての問題であり、留学生自身も口にすところである。」（p.64）  
「今後、中級の教科書が作成される際には、これを<sup>3</sup>参考にできるだけ多くの複合動詞が取り入れられることを願うものである。」（p.77）

### 4.2. 何をどれくらい教えるか

- ・ 『日本語能力試験出題基準』（国際交流基金・日本国際教育支援協会1994）<sup>4</sup>  
◇ 語彙的複合動詞：1級レベル語彙（82語）、2級レベル語彙（61語） 合計143語
- ・ 統計的なデータ（出現頻度が高いもの）  
◇ 国立国語研究所（1987）『複合動詞資料集』  
「～出す」「～得る」「～始める」「～掛ける」「～込む」「～切る」・・・  
◇ 神崎（2012）で示された前項動詞・後項動詞頻度10以上の動詞リスト<sup>5</sup>

<sup>3</sup> 玉村文郎（2003）「中級用語彙 —4000語—」『日本語教育』116、pp.5-28、日本語教育学会

<sup>4</sup> 2006年に出版された【改訂版】ではこの数が増えているようである。現在調査中。

<sup>5</sup> 国立国語研究所のウェブサイトで公開されている「複合動詞レキシコン」の作成のデータベース（2760語）にもとづく

前項動詞：「取り～」「引き～」「打ち～」「押し～」・・・

後項動詞：「～込む」<sup>6</sup>「～出す」「～あげる（上げる・揚げる）」「～付ける」・・・

#### 4.3. どうやって教えるか

・教材

◇メインの教科書（読解・文法・語彙を中心に4技能を総合的に学ぶための教科書）

◇副教材（生教材を含む）、会話、作文

・学習する場

◇教室（学校）と自宅（学校以外）

・時間的に制約がある。一冊の教科書ですべて教えることはできない。

「何を教えるか」→「どのように教えるか」

◇自律的な学習を促すための「刺激」となる指導

#### 4.4. 『ニューアプローチ』の動詞・複合動詞に関する編集方針

『中級日本語 [基礎編]』2002年 改訂版2003年、『中上級日本語 [完成編]』2002年

・[基礎編] では動詞のコロケーションと自・他動詞の情報に注目

◆新出語の提示の仕方（第6課の新出語のページより抜粋）

名詞	<small>こうそくどうろ</small> :高速道路 スピード <small>ふちゅうい</small> 不注意 <small>うんでんしゆ</small> 運転手 <small>もくてきち</small> 目的地 <small>とちゅう</small> 途中 <small>しどう</small> 自動 <small>げんざい</small> 現在 <small>きょり</small> 距離 <small>せんさー</small> センサー <small>きゅうけいじよ</small> 休憩所 <small>ゆうき</small> 勇氣
な形容詞	:単調
い形容詞	:近い(将来)
名詞/動詞Ⅲ	:衝突(する)
動詞	:起こるⅠ 代わるⅠ 進めるⅡ <small>補助動詞</small> ★～続ける
副詞	:長時間 ★つい うとうと(する) ★一晩中 ぐっすり <small>ひとばんじゅう</small>
その他	:ちょっとした (～人)たち ★～間 <small>(※時間の意味)</small>

[基本動詞の用法]  
 ・(スピードが)出る (休憩を)とる

[自動詞と他動詞]  
 「起きるⅡ」/「起こすⅠ」  
 「起こるⅠ」  
 ・人が起きる/をを起こす。  
 ・事故が起きる、事故が起こる/をを起こす。  
 「代わるⅠ」/「代えるⅡ」  
 ・選手が代わる/を代える。

統計。http://vvllexicon.ninjal.ac.jp/

<sup>6</sup> 最も多いとされた「～込む」の複合動詞は上記の『出題基準』には1・2級レベルの語として次の17が挙げられている。  
 打ち込む・埋め込む・追い込む・押し込む・落ち込む 完成編・思い込む・組み込む・溶け込む・飛び込む・飲み込む・乗り込む・払い込む・引込む・踏み込む・放り込む・申し込む・割り込む

- ・[完成編]では複合動詞を新出語として比較的多く導入し関連語として別枠でも取り上げる

◇新出語として登場する複合動詞の数(137語)

基礎編(29語/うち1,2級レベル13語)

完成編(108語/うち1,2級レベル51語)

※1,2級レベルの複合動詞143のうち64語カバー

※陳曦(2011)の調査によれば、調査した中級教科書(4冊)の新出語として出現した複合動詞の数は最も少ないものが19語、最も多いもので111語、4冊の平均は51語である。<sup>7</sup>

※上記の調査では取り上げられていないが、日本国内で多く利用されていると推測される教科書『中級から学ぶ日本語改訂版』(研究社1991年)『上級で学ぶ日本語』(研究社1994年)の調査では、二冊合計で112の新出の複合動詞があり、1,2級レベルの複合動詞はそのうち31語であった。(調査は小柳による)

◇文法・句型として学習する統語的複合動詞

基礎編 「～始める」「～出す」「～続ける」「～終わる/終える」

完成編 「～かける」「～きる(～きれない)」「～うる」「～かねる(かねない)」

◇関連語として導入される複合動詞

1課「～かける」3課「～あげる」6課「～とる」8課「とり～」

制約の中で「何を」「どのように」示すべきか?

◆導入パターン1:格体制に注目する(第1課の関連語コラムより抜粋)

(2) 複合動詞「～かける」 ♪「～かける」★L2(時間の意味)

①「～に〇〇かける」

- ・話しかける:彼は今、勉強に集中しているから話しかけないほうがいい。
- ・問いかける:どうしてこんなことになったのか自分自身に問いかける。
- ・呼びかける:新聞に広告を載せて多くの人に参加を呼びかける。→L3文型
- ・働きかける:市民団体が政府に働きかける。→L3文型

②「～を〇〇かける」

- ・追いかける:警官は逃げる犯人を追いかけた。⇔ 追いつく(←追う)  
→会話5
- ・見かける:「その人なら、よく駅前のスーパーで見かけますよ」

③「～に～を〇〇かける」

- ・引っかけ:ハンガーがないから、コートはそのフックに引っかけた。  
→会話2 ※お客を引っかけ、1,000円の品を5,000円で売った。  
⇔引っかかる

<sup>7</sup>教科書によっては複合動詞(または後項動詞)を学習項目として取り上げているものがあり、この新出語の数が必ずしも、その教科書で学習する語の全体ではない。

◆導入パターン2：意味の拡張に注目する（第3課の関連語コラムより抜粋）

(2) 複合動詞「～上げる」

①「上の方向へ」の意味

- ・持ち上げる：100キロ以上ある金庫を一人で持ち上げた。
- ・引き上げる：沈んだ船を引き上げるようになった。→L11 本文（お金について）
- ・積み上げる：箱を一つずつ積み上げていく。
- ・打ち上げる：ロケットを打ち上げる。
- ・見上げる：空を見上げる。→L4 練習

②「上の方向へ」の意味が入っている

- ・取り上げる：子供のおもちゃを取り上げる。  
番組でその会社のことを取り上げる。→L4 本文、L8 関連語など
- ・盛り上げる：ゲームをしてパーティーを盛り上げる。  
⇔盛り上がる →L10 聴解
- ・売り上げる：1日で100万円以上売り上げた。→売り上げ

③「完全に・完成する」の意味

- ・仕上げる：「この仕事はいつまでに仕上げればよろしいですか」  
⇔仕上がる：（クリーニング屋で）  
「今出すといつ仕上がりますか／仕上がりはいつですか」
- ・作り上げる：これはみんなで協力して作り上げたものだ。
- ・書き上げる：3日間で原稿用紙10枚のレポートを書き上げた。
- ・鍛え上げる：ボディービルディングをして体を鍛え上げる。（←鍛える）

◆導入パターン3：接辞化に注目する（第8課の関連語コラムより抜粋）

(1) 複合動詞「取り～」

①「取る」が意味がはっきり残っている言葉

- ・取り出す：ポケットからハンカチを取り出す。
- ・取り上げる：教師は生徒からマンガ本を取り上げた。
- ・取り外すはず：台所の換気扇を取り外してきれいに掃除する。（←外す）
- ・取り除くのぞ：要らないものを取り除いておいてください。（←除く 会話4）

②「取る」の意味が含まれる言葉

- ・取り入れる：積極的に新しい技術を取り入れる。
- ・取り戻す：奪われた／盗まれた物を取り戻す（／取り返す）。
- ・取り返す：一度失った信用を取り戻す（／取り返す）のは難しい。  
（授業）の遅れを取り戻す（／取り返す）ために頑張る。  
取り返しがつかないことになってしまった。
- ・取り替える：古くなったので新しいのと取り替える。（※「取り換える」も使う）
- ・取り立てる：取り立てて言うほどのことではありません。
- ・取り上げる：雑誌の特集記事で少子化の問題が取り上げられた。

③「取る」の意味がほとんどない言葉

- ・ 取り付ける：エアコンを部屋に取り付ける。
- ・ 取り扱う：「当店ではそのような商品は取り扱っておりません」
- ・ 取り締まる：警察は飲酒運転を厳しく取り締まった。
- ・ 取り組む：もっと真剣に取り組まなければだめだ。
- ・ 取りかかる：急いで仕事に取りかかった。
- ・ 取り消す：電話して予約を取り消した。  
前に言ったことを取り消した。

5.5. 今後の課題

①中級（初中級と中上級を含む）で統語的複合動詞をどの程度独自に項目を立てて教えるか。

- ・『日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料ver.1』（添付資料を参照）で取り上げた複合動詞のうち、新出語としてしか登場しないもの

「～あがる」→「出来上がる」（基礎編）

「～ぬく」→「追い抜く」（完成編：関連語）

「～とおす」→なし（※出題基準「やりとおす」1級）

「～こむ」→「割り込む・思い込む」（基礎編）

→「落ち込む・組み込む・踏み込む」（完成編）

②重層的な意味（姫野1999）をもつ複合動詞、4.4節の「導入パターン2」をどの程度扱い、どのように提示するか。

cf. 松田（2004）コア図式

③教科書における語彙的複合動詞と単動詞の割合をどの程度にするか

総合的教科書においてトータルでいくつの新出語を入れるか？ その中で複合動詞は？

参考文献

影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房

影山太郎（2013）「語彙的複合動詞の新体系」影山太郎（編）『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』ひつじ書房, 3-46

影山太郎（2014）「日本語複合動詞の言語類型論的意義」『国語研プロジェクトレビュー』5（1）, 国立国語研究所, 8-18

何志明（2010a）『現代日本語における複合動詞の組み合わせ—日本語教育の観点から—』笠間書房

何志明（2010b）「香港の上級日本語学習者による日本語複合動詞の習得に関する調査」『東洋文化研究』12, 491-510

神崎享子（2012）「複合動詞データベース構築のための付与情報」『国立国語研究所論集』3, 1-18

小森由里（2015）「日本語教科書における複合動詞：立教大学文法教科書の分析」『日本語教育実践研究』2, 立教日本語教育実践学会, 55-67

白井知代・松田文子（2014）「多義動詞「ぬく」のコアとそれを用いた複合動詞「V-ぬく」の意味記述」『日本語教育』159, 日本語教育学会, 1-16

- 田中衛子 (1996) 「複合動詞—日本語学習者の教育項目として—」『日本語・日本語文化論集』4, 名古屋大学, 83-100
- 田中衛子 (2004) 「類義複合動詞の用法一考—日本語教育の視点から」『言語と文化』10, 愛知大学語学教育研究室, 63-79
- 陳曦 (2011) 「日本語教科書における複合動詞の扱われ方に関する一考察：コーパスによる使用実態調査との比較を通して」『ことばの科学』名古屋大学言語文化研究会, 119-131
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味□』くろしお出版
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 松田文子 (2004) 『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して—』ひつじ書房
- 松田文子・白井知代 (2011) 「複合動詞「V-かける」の意味記述：L2学習者の「V1+V2ストラテジー」を活かすための試み」『日本語教育』150, 日本語教育学, 86-100
- 森田良行 (1978) 「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』14, 早稲田大学語学教育研究所, 69-86



資料編 「日本語複合動詞多言語翻訳の基礎資料 ver.1」(2017年6月)

監修・制作：小柳昇、制作：崔正熙、ローレンス・ニューベリーペイトン、クリコフ・アガタ、ファミ・ティ・タイン・タオ、張正、劉倩卿)

複合動詞	後項動詞	前項動詞	統語的	AS	語義(外語大プロジェクト)	例文	姫野の分類 ( ) < > は当グループによる補充項目		
1 跳び上がる	上がる	跳ぶ   飛ぶ			跳ねて上に上がる。	省略	上昇	全体的	空間的上昇 (V1: 上方向)
2 駆けあがる		駆ける			走って坂や階段などを上がる。	省略	上昇	全体的	空間的上昇 (V1: 方向無指定)
3 繰り上がる		繰る			比喩的に糸を繰るような動きによって) ①期日や時間が予定より早くなる。 ②順番が前に移動する。	省略	上昇	全体的	序列の上昇
4 勝ち上がる		勝つ			勝って次の( / 上の) 段階へ進む。	省略	上昇	全体的	地位の上昇
5 立ち上がる		立つ			①座ったりしゃがんだりしている姿勢から体を起こして立つ。 ②活気を取り戻して元気になる。 ③じっとしていないで行動を起こす( / 開始する)。 ④機械が動作を開始したり、新しい計画が実際に始動したりする【←〔他〕立ち上げる】	省略	上昇① ↓ <抽象化>② ↓ (始動)③④	部分的	形の伸長(動作)
6 盛り上がる		盛る			①何か盛ったようにその部分( / 場所) がまわりの部分( / 場所) より高くなる。 ②気分や勢いが高まる。	省略	上昇① ↓ <抽象化>②	部分的	形の伸長(現象)
7 めくれ上がる		めくれる			めくれて上に上がる	省略	上昇	部分的	形の縮小
8 はげ上がる		はげる			頭の上のほうまで禿げて、髪の毛の生え際が上に移動する。	省略	上昇	部分的	量の減少 > 形の縮小
9 付け上がる		付ける			相手がやさしい、寛大な態度をとることによって、さらにいばったり、思い上がったりの態度をとる	省略	増長		
10 震え上がる		震える			寒さや恐怖などでひどく震える	省略	強調		
11 召し上がる		召す			「食べる」「飲む」の尊敬語	省略	尊敬		
12 仕上がる		する★		完了	何かを作ったり変えたりする作業をして、それが完成する。	省略	完了	作業の完了★「する+V2」	
13 炊き上がる		炊く		完了	炊いて作るもの(ご飯など)が完成する。	省略	完了	作業の完了	
14 晴れ上がる		晴れる		完了	雲や霧が消えて、すっかり晴れる。	省略	完了	自然現象の完了	
15 持ち上げる	上げる	持つ			①手で持って上に上げる。 ②自分自信の体の部分(頭・首など)を横になった状態から上の方に動かす。 ③おだてて、上にいるような気分にさせる。	省略	上昇①② ↓ <抽象化>③	全体的	空間的上昇: 対象(人と一体)
16 打ち上げる		打つ			①打って高く上げる。 ②強い推進力で高く飛ばす。	省略	上昇	全体的	空間的上昇: 対象(離れる)
17 追い上げる		追う			①獲物などを追って、その獲物を高い方へ行かせる。 ②〔レースや試合などで〕先を行くものを追って、それとの距離や差を縮める。	省略	上昇	全体的	空間的上昇: 主体と対象が同時(特定の場所に)
18 見上げる		見る			視線を上げて上のほうを見る。【⇔見下ろす】	省略	上昇	全体的	空間的上昇(主体動作のみ)

多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

19	切り上げる		切る		①計算で求める位に満たない端数が出た場合に、一つ上の位に1を加える。【⇔切り捨てる】 ②通貨の対外価値を高くする。【⇔切り下げる】 ③一応そこで区切りをつけて終わりにする。	省略	上昇①② ↓ (終結) ③	全体的	序列の上昇
20	積み上げる		積む		①物を高く積んでいく。 ②時間をかけて物事を一つ一つ重ねていく。	省略	上昇 ↓ <抽象化>	部分的	形の伸長
21	巻き上げる		巻く		①巻いて上に上げる。 ②風が巻くようにしてものを上に上げる。 ③最後まで巻く。 ④おどしたりだましたりして、(弱い立場の)相手から金を奪い取る。	省略	上昇① ↓ (完了) ③ ↓ (社会的行為) ④	部分的 ↓ (全体的) ②	形の縮小
22	刈り上げる		刈る		①頭の後ろ、または横の髪の毛を下から上に向けて(地肌が見えるくらいに)刈っていく。 ②その場所にある草などをすっかり刈ってしまう。	省略	上昇① ↓ (完了) ②	部分的	量の減少>形の縮小
23	申し上げる		申す		「言う」の謙讓語	省略	社会的行為	下位者→上位者	
24	取り上げる		取る		①手に取って、持ち上げる。 ②相手の物を無理に奪う。 ③特にそれを選んで、問題として扱ったり、議題、話題にしたりする。	省略	(上昇) ① ↓ 社会的行為② ↓ <抽象化>③	上位者→下位者	
25	込み上げる		込む		その感情で胸がいっぱいになり、 ①抑えられないほどになる。 ②実際に涙が抑えられずにあふれて出る。	省略	体内の上昇		
26	縛り上げる		練る		(人を)動けないようにしっかりと縛る。	省略	強調		
27	読み上げる		読む		①その場にいる人に聞こえるように大きな声で読む。 ②機械(ノアプリケーション)が人間に代わって人工音声で文章を読む。 ②最後まで読む。	省略	その他①② ↓ (完了) ③		
28	作り上げる		作る	完了	①期待どおりに、すっかり作り終える。完成させる。 ②実際にはない(ノなかった)ことをまるで(ノあった)かのように、話しを作ってしまう。	省略	完了① ↓ <「作る」の意味の変化>②	完成品を伴う作業の完了	※修飾句：期待どおりに/すっかり >完成
29	調べ上げる		調べる	完了	徹底的に調べる。	省略	完了	それ以外の作業の完了	※修飾句：一つのこらず/片っ端から/徹底的に >全部
30	勤め上げる		勤める	完了	職務をきちんと果たし、任期を終える、または定年を迎えて退職する。	省略	完了	それ以外の作業の完了	※修飾句：不足なく >到達
31	飛び込む	込む	飛ぶ	※LCS	①飛んで(ノジャンプして)勢いよく中に入る。 〔慣用句「目に飛び込む」〕目に映る。 ②自ら進んでその世界に入る、またはその事件とかかわりをもつ。	省略	内部移動① ↓ <抽象化>②	閉じた空間へ	主体移動 (移動の様態に焦点)
32	泊まり込む		泊まる		何か事情があって、帰宅しないでそこに泊まる。	省略	内部移動	閉じた空間へ	主体移動 (移動先の存在の様態に焦点)

多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

33	持ち込む		持つ		①ものを持って入る。 ②何かの話や問題や事柄を持って来る。	省略	内部移動① ↓ <抽象化>②	閉じた空間へ	対象移動
34	食い込む		食う		①強く噛んだときのように、そのところに深く入る。 ②別のところに入ってしまう。または、頑張ってなんとか上のところに入る	省略	内部移動① ↓ <抽象化>②	個体の中へ	主体移動
35	埋め込む		埋める		内部に入れて、その状態でそれが機能するようにする。	省略	内部移動	個体の中へ	対象移動
36	書き込む		書く		①行間や余白に文字を書く。 ②用紙の所定の空欄に文字や文を書く。 ③〔小説などで〕細かいところまで気を配って書く。	省略	内部移動①② ↓ (程度進行?)③	個体の中へ	対象移動 (生産動詞)
37	溶け込む		溶ける		①ある物が液体・気体の中に入って溶けて一体となる。 ②人が別の新しい環境の中に入って、なじんで一体となる。 ③物がそこに自然に存在すると感じられるほど周りのものと一体となる。	省略	内部移動① ↓ <抽象化>② ↓ (程度進行?)③	流動体の中へ	主体移動
38	漬け込む		漬ける		漬物をつくるために、または味がよく染みるように、十分に漬ける	省略	内部移動	流動体の中へ	対象移動
39	染み込む		染みる		液体や匂いなどが物の中に完全に入って、簡単には出てこない状態になる、またはよくなじむ。	省略	内部移動	集合体・組織体の中へ	主体移動
40	組み込む		組む		あるものを、全体の構成の一部として入れる。	省略	内部移動	集合体・組織体の中へ	対象移動
41	包み込む		包む		包んで(ノ包むようにして)中に入れる、または周りを覆う。	省略	内部移動	動く取り囲み体へ	(非再帰的)
42	着込む		着る		衣服をたくさん重ねて着る	省略	内部移動	動く取り囲み体へ	(再帰的)
43	引っ込む		引く		①突き出ていたものが元の状態に戻り、目立たなくなる。 ②目立たないような場所(奥・後ろ)に退く、またはそのような場所に位置している。	省略	内部移動① ↓ <抽象化>②	自己の内部	自己内部への陥没
44	落ち込む		落ちる		①穴などに落ちて、すっかりその中に入ってしまう。 ②周り比べてその部分だけが中に入る。くぼむ。 ③(数値で示されるものが)急に下がる ④気分が沈んだ状態になる	省略	内部移動 ↓ ↓ <抽象化>③④	(閉じた空間)① ↓ 自己の内部②	基底部に向かって沈下
45	折り込む		折る		①折り曲げて、内側に付くようにする、または下に入るようにして見えなくする。 ②折って、ほかの物(新聞など)の間にはさむようにして入れる。【→折りこみチラシ】	省略	内部移動	自己の内部① ↓ (閉じた空間へ?)②	形態の縮小
46	絞り込む		絞る		①絞って、それを何か飲み物の中に入れる。 ②(何かを選んだり、特定したりする際に)条件に合う対象の範囲を狭めていく。	省略	内部移動	(閉じた空間)① ↓ 自己の内部②	凝縮
47	刈り込む		刈る		伸びた木の枝葉や芝生や毛などを刈って形を整える。	省略	内部移動	自己の内部	削除による縮小
48	見込む		見る		①将来を予測して、それを想定範囲内だとみなす。あてにする。 ②有望だと思う。頼りになると考える	省略	内部移動	その他	

多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

49	寝込む		寝る		※	①寝て、眠りが深い状態になる。熟睡する。 ②病気で床について、そのまま起きられない状態になる。	省略	程度進行	固着化	
50	冷え込む		冷える		※	①気温がぐっと下がって寒さが増す。 ②経済の活気がなくなる	省略	程度進行① ↓ <抽象化>②	濃密化	
51	走り込む		走る		※	①走って何かの中、またはある特定の場所（／領域）に入る。 ②練習で十分に走って体を良い上状態につくっておく。	省略	(内部移動)① ↓ 程度進行②	累積化	(主体変化)
52	使い込む		使う		※	①持ち物や道具などを長く使ってそれが利用者になじんでくる。 ②自分のものではない金を私用で使う。	省略	程度進行① ----- (内部移動)②	累積化 ----- (削除による縮小)	(対象変化)
53	煮込む		煮る		※	①いろいろな食材と一緒に煮て、それぞれの食材が互いに煮汁とよくなじむようにする。 ②長い時間かけて煮て、食材が煮汁とよくなじむようにする、またはスープ（汁）の成分が凝縮するようにする。	省略	程度進行	累積化	(対象変化) ※一体化
54	溢れ出す	出す	溢れる			あふれて、そこから外へ出る。 【=あふれ出る】	省略	移動	外部・前面・表面	全体で自動詞： V1が外部への移動を含意
55	逃げ出す		逃げる			逃げて、そこから外へ出る。	省略	移動	外部・前面・表面	全体で自動詞： V1が外部への移動を含意せず =V1：移動の方法・様態
56	飛び出す		飛ぶ			①飛んで、外に出る。または、（飛ぶように）勢いよく外（／外側／表／見えるところ）に出る。 ②予期していなかった言葉やアイデアが出る。 ③家族や組織との関係を切って、衝動的にそこから出て行く。 【→家出】 ④（本来は／普通は内部に入っているものが）目立って外側に出た状態になる。	省略	移動	外部・前面・表面	(全体で自動詞)① ↓ <抽象化>② ↓ <抽象化>③ ↓ 状態描写④
57	取り出す		取る	※LCS		取って、中から外へ出す。	省略	移動	外部・前面・表面	全体で他動詞： V1：方法（対象移動）
58	踏み出す		踏む			①地面を踏んで、足を前に出す、またはある領域の外に体を出す。 ②新しい活動や仕事などを始める。	省略	移動① ↓ <抽象化>②	外部・前面・表面	全体で他動詞： V1：方法（主体移動）
59	持ち出す		持つ			①（元々存在するところから）持って、外に出す。 ②ある事柄を話題として（／説明のために）出す。	省略	移動① ↓ <抽象化>②	外部・前面・表面	全体で他動詞： V1：～した状態で
60	貸し出す		貸す			①公共機関がそこにあるものを貸して、外に持ち出させる。 ②銀行が金を貸す。	省略	移動①②	外部・前面・表面	全体で他動詞： V1：目的 （解放・外部利用など）
61	乗り出す		乗る			①船などに乗って、（困難が予想される）海に出て行く。 ②あることに積極的に（／意欲的に）関与する。 ③（何かに体を乗せるような前傾姿勢で）体を前の方に出す。	省略	移動① ↓ <抽象化>②	外部・前面・表面	(全体で自動詞： V1が外部への移動を含意せず =V1：移動の方法・様態)①② ↓ 分析不可能 ③ <再帰的な姿勢変化>

多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

62	差し出す		差す			(何かをするために、何かを持って)手を相手のほうに向けて伸ばして、出す。	省略	移動	外部・前面・表面	分析不可能 (V1の接辞化)
63	突き出す		突く			①(主に相撲で)突いて、(土俵の)外に出す。 ②体の部分(舌、顎、こぶし、尻など)や物を、突くような動きで、前の方に出す。 ③構造物の一部や地形の一部が目立って前の方に(ノ外側に)出たようになる。 ④民間人が犯罪者を警察に連れて行く。	省略	移動	(外部・前面・表面) ①②③ ↓ ↓ ↓ ↓ 表立った場への出現④	(外部) ① ↓ (前面・表面) ※再帰的② (前面・表面) ※状態③
64	貼り出す		貼る			紙に書かれたもの(お知らせ、案内、発表など)やポスターや写真などを、人目につく場所に貼って見られるようにする。	省略	顕在化	顕在	V1:方法・手段
65	思い出す		思う			①過去の出来事を心によみがえらせる。 注:意図的な行為 ②(何かをきっかけに)記憶がよみがえる。 注:非意図的な現象	省略	顕在化①②	顕在	V1:言語活動・精神活動
66	作り出す		作る			今までにないものを作る(ノ製造するノ出現させるノ発生させる)。創造する。	省略	顕在化	創出	
67	聞き出す		聞く			(相手が秘密にしておきたいことで、自分が知りたいことがある場合に、それがうまく出てくるように)尋ねて、情報を得る。	省略	顕在化	発見	
68	怒り出す		怒る	統語的	始動	★「V1+出す」は「V1することが出現・開始する」の意味 注:V1=心理を表す動詞:その心理が具体的な動作となって現れる。※突発性が強調される。	省略	開始	※感情の動き	
69	言い出す		言う	統語的	始動	★「V1+出す」は「V1することが出現・開始する」の意味 注:V1=動作を表す動詞:その動作が始まる。 ※、開始前と開始後の(状態・状況)変化に焦点が当たり、たいていの場合、急な出現であること、またはその動作は予期していなかったことが含意される。 【比較:~始める】	省略	開始	※不測性の強調	
70	降り出す		降る	統語的	始動	★「V1+出す」は「V1することが出現・開始する」の意味 ★V1=機械の動き・自然現象を表す動詞:その動き・現象が始まる。 ※突発性やその場の状況の変化に焦点が当たる。 【比較:~始める】	省略	開始	※音の自然発生 ※「いまに~そうだ」	
71	降りかかる	掛かる	降る			①(雨や粉などが)降ってきて、体にかかる ②比喩的に悪いことが降ってきて、体にかかる、つまり災難が身に及ぶ。	省略	接触① ↓ <抽象化>②	落下接触	
72	寄りかかる		寄る			すぐそばにあるものに寄って、体を少し斜め倒して、それに支えてもらうような姿勢をとる。	省略	接触	依拠接触	

多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

73	引っかかる		引く			注：V1の「引く」は元々の意味が薄くなり、語調を強める接辞になっている。 ①進んでいるものが途中で障害物にかかって動かなくなる（／動けなくなる）。 ②物事を進める過程で、途中で妨げられて、（一時的に）先に進めなくなる。 注：最近、肯定的な意味で「インターネットの検索にひっかかる」と使われている。【比較：インターネットの検索にひっかかる】 ③相手の話や文章の中で不快に思ったり納得できないところがあって、そこから先に進めないような心理状態になる。 ④悪い人物にかかわってしまう。または、そのような人にだまされる。詐欺にあう。	省略	接触① ↓ <抽象化> ②③④	依拠接触	(V1が接辞化)
74	飛びかかる		飛ぶ			(まるで飛ぶように) 勢いよく、相手に向かって（体をぶつけるような態勢で）ジャンプする。	省略	接触	志向接触	攻撃の意図
75	通りかかる		通る			どこかを通して移動する途中でちょうど（／たまたま）その場所（何かの前・そば・近く・中など）に来る。	省略	通過遭遇	※「～にかかる」が元	
76	取りかかる		取る			注：V1の「取る」は元々の意味が薄くなり、語調を整える接辞になっている。 (意欲的な態度で) 仕事や作業、何かを作ることを始める	省略	未分類	※「～にかかる」が元	(V1が接辞化)
77	決めかかる		決める	統語的	始動	★「V1+かかる」は「V1しそうになる」の意味 注：この意味で使われる場合、V1は変化を表す無意志性の自動詞で、全体に用例も少ない。他動詞に付くことはまれ。「V1+かける」は自動詞にも他動詞にもついて用例も多い。	省略	始動	将現態（他動詞）	(他動詞は非常に少ない)
78	消えかかる		消える	統語的	始動	★「V1+かかる」は「V1しそうになる」の意味 注：この意味で使われる場合、V1は変化を表す無意志性の自動詞で、用例は多くない。他動詞に付くことはまれ。同じ意味で使われる「V1+かける」は自動詞にも他動詞にもついて用例も多い。	省略	始動	将現態（自動詞）	(自動詞は比較的多い)
79	立てかける	掛ける	立てる			ある物を、その下端は床や地面に置いて、その上端は壁などの他の物に支えられるように置いて、立てる。	省略	接触	依拠接触	
80	しかける		する※			①装置などを設置して、それが期待どおりに作動ようにしておく。 ②〔戦い・試合・ゲームなどで〕こちらから相手に対して積極的に（／攻撃的に／挑発的に）何かする。挑戦する。	省略	接触	依拠接触① ※「する+V2」 ↓ (志向接触)?②	
81	投げかける		投げる			①衣服などを投げて、他の人の体や他の物にかける。 ②何か（言葉・視線など）を発したり向けたりして、それが相手に届くようにする。または、光を発して、その場所に届いて照らす。 ③疑問を提起する。	省略	接触	(依拠接触) ① ↓ 志向接触②③	
82	話しかける		話す			その人と話そうとして、自分のほうから声をかける。	省略	心理的志向		
83	見せかける		見せる			実際はそうではないのに、外見だけはそれらしく見えるようにして、相手がそれを信じるようにする。	省略	心理的志向	(語彙化している)	

多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

84	押しかける		押す			①大勢が一斉に（まるで前の人を押すような勢いで）一つの場所に行く。 ②招かれていないのに、自分の勝手な都合でそこに行く。	省略	志向移動		
85	出かける		出る			家または会社などを出て、どこかに行く。 注：用事が終わったらまた戻ることが前提で外出する。 【→お出かけ】	省略	志向移動	(語彙化している)	
86	追いかける		追う			先に進んでいるもの（/移動して場所を変えるもの）をあとから追う。または、先のほうにあってなかなか手が届かないものを求めて追う。	省略	把捉		
87	見かける		見る			(生活の中で何かしているときに) 偶然に見る。	省略	把捉	(語彙化している)	
88	読みかける		読む	統語的	始動	★「V1+かける」は①「少し/途中までV1する」または②「V1しそうになる」「V1しようとする」(※実際にはV1しない)の意味 注：V1=継続動詞：たいてい①の意味になるが、文脈によっては②の意味にもなる。	省略	始動	始動態 (他動詞)	
89	上りかける		上る	統語的	始動	同上	省略	始動	始動態 (自動詞)	
90	なくしかける		なくす	統語的	始動	★「V1+かける」は①「少し/途中までV1する」または②「V1しそうになる」「V1しようとする」(※実際にはV1しない)の意味 注：V1=変化動詞：たいてい②の意味になるが、動詞や文脈によっては、①の意味にもなる。	省略	始動	将現態 (他動詞)	
91	帰りかける		帰る	統語的	始動	同上	省略	始動	将現態 (自動詞)	
92	かみ切る	切る	かむ			噛んで、切断する。	省略	切断・終結	(連続するモノの切断)	
93	突っ切る		突く			ある場所を（障害や困難があっても）まっすぐ進んで、向こう側に抜けて行く。または、道がそのように進むような形になっている。	省略	切断・終結	(広がる場所の切断)	
94	打ち切る		打つ			[元の「強く打って、切る」という意味から転じて] 先まで続く予定だった物事を途中で終わりにする。	省略	切断・終結	(継続するコトの切断：外部)	
95	言いきる		言う			(そのあとに言い訳や迷いなどが続かないように切って捨ててしまうという態度で) 言うべきこと、言いたいことをはっきりと言う。断言する。	省略	切断・終結	(継続するコトの切断：内部)	
96	踏みきる		踏む			[元の「強く踏んで、切る」という意味から転じて] ①高く（/遠くに）跳ぶ出るために地面を強く踏む。 ②(①の動作をするときの心構えで) 何か新しい行動を起こす決心をする。	省略	切断・終結	(モノの切断) ↓ (自身の行為：メトニミー) ① (態度・決意：抽象化) ②	
97	乗り切る		乗る			[元の「船に乗って、最後まで進む」という意味から転じて] 困難な（/危険な）状況に直面しても、なんとか自力でそれに対処して、完全にその局面・期間を過ぎる。	省略	切断・終結	(統語的用法の語彙化?)	

多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

98	仕切る		する※			①つながっている空間を、何か置いて区切って、いくつかに分ける。 ②何かが行われる場で、責任者として全体に目を配り、順調に物事が進行するようにする。 【→取り仕切る】	省略	切断・終結 ↓ <抽象化>	※「する+V2」	
99	なりきる		なる	統語的	完了	★「V1+きる」は「(量的に)全部V1する/ゼロになるまでV1する」「(変化が)完全にV1する」「(程度が)極限までV1する」の意味	省略	完遂・極度	完遂	V1: 自動詞 (完全に)
100	走りきる		走る (A)	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	完遂	V1: 自動詞 (最後まで) ※
101	締めきる		締める	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	完遂	V1: 他動詞 (完全に)
102	出しきる		出す	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	完遂	V1: 他動詞 (最後まで)
103	やりきる		やる (B)	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	完遂	V1: 他動詞 (最後まで) ※
104	守りきる		守る (C)	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	完遂	V1: 他動詞 (最後まで) ※
105	澄みきる		澄む	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	極度	自然現象
106	疲れきる		疲れる	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	極度	生理的現象
107	頼りきる		頼る	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	極度	感情・精神の働き
108	張りきる		張る	統語的	完了	同上	省略	完遂・極度	極度	感情・精神の働き (類推困難)
109	打ち抜く	抜く	打つ・撃つ			①銃砲を打って(ノ弓矢を射て)、物を貫く。または、強く打ったり、突いたり、刺したりして物に穴をあける。 ②紙や薄い金属板に型を強く当てて、その型どおりに穴をあける。	省略	貫通・除去	貫通 (力学的) ① ↓ (抜出) ②	
110	見抜く		見る			(鋭い直感や観察力で) 物事の裏 (ノ奥底) まで見ることによって本質や真相を知る。	省略	貫通・除去	貫通 (精神的)	
111	切り抜く		切る			あるもの (新聞や雑誌など) の中から必要な部分を切って取	省略	貫通・除去	抜出	
112	選び抜く		選ぶ			たくさんの中からよく考えてもっとも良いものを選ぶ。 【比較: 選び出す】	省略	貫通・除去	選抜	
113	追い抜く		追う			(レースや競争などで) 先に進むものに追いついて、さらにその前になる。 【関連語: 追いかける→追いつく→追い抜く】	省略	貫通・除去	抜駆	
114	攻めぬく		攻める	統語的	完了	★「V1+ぬく」は「困難に屈せず最後までV1する」または「普通は達しないレベルまでV1する」の意味	省略	貫徹・極度	貫徹	(他動詞)
115	やりぬく		やる (B)	統語的	完了	同上	省略	貫徹・極度	貫徹	(他動詞) ※
116	守りぬく		守る (C)	統語的	完了	同上	省略	貫徹・極度	貫徹	(他動詞) ※
117	走りぬく		走る (A)	統語的	完了	同上	省略	貫徹・極度	貫徹	(自動詞) ※
118	生きぬく		生きる	統語的	完了	同上	省略	貫徹・極度	貫徹	(自動詞)
119	悩みぬく		悩む	統語的	完了	同上	省略	貫徹・極度	極度 (感情・生理)	※非常に、とことん
120	知りぬく		知る	統語的	完了	同上	省略	貫徹・極度	極度 (思考)	※非常に、とことん

121	突き通す	通す	突く			①物を突いて、反対側まで通す。物を貫く。 ②(他の人の抵抗にあっても)自分の主張・立場を貫く。	省略	貫通① ↓ <抽象化>②	(力学的)	
122	見通す		見る			①そこから遠くのほう(奥のほう/底のほう)を、さえぎる物が何もない状態で見える。【→見通しがいい】 ②今から先のほうを見て、将来がどうなるのかを予想する。 【→見通しを立てる】 ③人の心の底のほうまで見て、その人の本当の気持ちや考えを察する。【→お見通し】	省略	貫通①②③	(精神的)	
123	隠しとおす		隠す	統語的	完了	★「V1+とおす」は「最後まで継続してV1する」「その期間すべてV1する」の意味	省略	一貫継続	他動詞	
124	やりとおす		やる(B)	統語的	完了	同上	省略	一貫継続	他動詞※	
125	守りとおす		守る(C)	統語的	完了	同上	省略	一貫継続	他動詞※	
126	泣きとおす		泣く	統語的	完了	同上	省略	一貫継続	自動詞	
127	走りとおす		走る(A)	統語的	完了	同上	省略	一貫継続	自動詞※	

■資料の作成について：基礎的な資料とするべく、第一段階として後項動詞がアスペクトを表すものでかつ使用頻度の高い複合動詞を作るものを9つ(～あげる/あがる/こむ/だす/かかる/かける/きる/ぬく/とおす)選んだ。そして『複合動詞の構造と意味用法』(姫野昌子、1999年、ひつじ書房)に基づいて、複合動詞の意味・用法を分類し、さらにそれぞれの意味の拡張関係を捉えた上で、必要に応じてさらに下位分類した。次に、その各分類に所属する複合動詞の中から適当なものを1つ選んだ。選択にあたっては、国立国語研究所で公開されている「複合動詞用例データベース」(開発版：<http://csd.ninjal.ac.jp/comp/>)で前項動詞と後項動詞の組み合わせとその出現頻度を参考にし、できるだけその分類の中で典型的なもので、かつ頻度の高いものを選んだ。(ただし、該当する分類に所属する複合動詞が少数の場合はその限りではない)次に、選定された複合動詞の語義を記述した。記述にあたっては、市販の国語辞典のほか、国立国語研究所で公開されている「複合動詞レキシコン」(<http://vlexicon.ninjal.ac.jp/>)および、『Handbook of Japanese Compound Verbs (日本語複合動詞ハンドブック)』(Yoshiko Tagashira, Jean Hoff, 1994年、北星堂)の記述を参考にした。また、それぞれの意味の拡張の在り方ができるだけ読みとれるように心がけた。そして、記述された語義に対応する例文を1つないし2つ作成し、その対訳を英語・中国語・韓国語・ベトナム語・ポーランド語で作成した。

■資料中の丸数字および記号について：「～きる」「～ぬく」「～とおす」の4列目に(A)(B)(C)が付けられているのは、意図的に同じ前項動詞を用いた複合動詞を選定していることを示している。5列目の「統語的」は、『文法と語形成』(影山太郎、1993年、ひつじ書房)における語彙的複合動詞と統語的複合動詞の区別による。統語的な複合動詞の場合、「語義」のセル(★印)には個々の複合動詞の意味ではなく、後項動詞どのようなアスペクトの意味を表すかだけ記述した。なお、「～こむ」「～だす」の「統語的」の列に「※LCS」と付されているのは、『文法と語形成』で語彙概念構造(LCS)による合成であると指摘されたものである。6列目の「AS」はアスペクトの略で、この列に記載があるものは、後項動詞がアスペクトを表すものである。各セルにはどのようなアスペクトを表すかが簡単に記述されている。「～込む」に「※」が付されているのは、先行研究ではアスペクトに分類されないこともあるが、ここでは「変化結果の状態のあり方を示す」ということでアスペクト用法とみなすことができることを示している。9列目および10列目の「姫野の分類」の中の丸数字は、意味の拡張関係を便宜的に示したものである。定かでないものには?を付してある。この丸数字は7列目の「語義」の丸数字と対応している。

多言語からみた日本語複合動詞と日本語教育 第一回研究会

東京外国語大学 国際日本研究センター 国際日本語教育部門

坂本恵、伊集院郁子、大津友美、佐野洋、鈴木智美、鈴木美加、宮城徹、望月圭子

Copyright (C) 2017 International Center for Japanese Studies. All rights reserved.

国立大学法人 東京外国語大学 国際日本研究センター